

平成 29 年度 大学機関別認証評価  
自 己 点 検 評 価 書  
[日本高等教育評価機構]

平成 29 (2017) 年 6 月  
徳島文理大学



## 目 次

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等	1
II. 沿革と現況	5
III. 評価機構が定める基準に基づく自己評価	8
基準 1 使命・目的等	8
基準 2 学修と教授	18
基準 3 経営・管理と財務	66
基準 4 自己点検・評価	83
IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価	88
基準 A 地域貢献・地域連携	88
基準 B 国際交流	98
V. エビデンス集一覧	101
エビデンス集（データ編）一覧	101
エビデンス集（資料編）一覧	102



## I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

### (1) 徳島文理大学の建学の精神、使命・目的

徳島文理大学（以下「本学」という）の建学精神は「自立協同」である。

この建学精神は、学祖村崎サイが明治28年(1895年)7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20年(1945年)7月、学園は戦火に包まれて灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人前理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、成長してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。

「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「人」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、学園はこのような歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、短大、大学併せて9学部27学科、6大学院、3専攻科、そして5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

本学は、徳島文理大学「学則」第1章第1条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」と定めている。大学学部の8学部22学科における教育研究上の目的は、「学則」第2章第3条第2項に、大学院研究科の教育研究上の目的は「大学院学則」第1章第5条第2項に、さらに、大学専攻科については「専攻科規則」第2章第2条第2項に明記されている。このように、本学の使命は、建学精神の下、「学則」等に記した教育研究上の目的を達成することにある。

本学の使命・目的は、学祖が女性の自立を唱えて建学したこと、村崎凡人前理事長が第2次世界大戦で軍役に服した経験を生かし、さらに、戦後の社会状況から芽生えた近代精神を取り入れたこと、村崎正人現理事長がドイツ留学において社会経済学を学んだ経験に基づき、新たな国際感覚を吹き込んだこと等から形作られている。その目的は、「自立協同」の建学精神を基本に、高度な教養と専門的能力を身につけるための教育と研究を実践し、並びに、幅広い教養を身につけた社会人、あるいは研究心と独立心を持って社会の発展に寄与する人材を養成することである。

また、本学は教育機関であると同時に研究機関でもある。研究機関としての本学の使命は、研究成果を社会に還元し、文化の創造と発展に貢献していくことである。

## (2) 徳島文理大学がめざす大学像

### ①文理融合の教育

本学は、人間教育の視点から、日常的な学生の交流をとおして成熟した社会人への成長を支援できるように、文系3学部（音楽学部・総合政策学部・文学部）、理系3学部（薬学部・理工学部・香川薬学部）のほかに、文理融合の2学部（人間生活学部・保健福祉学部）と短期大学部を設置し、総合大学の特性を生かした文理融合の教育をめざしている。

### ②教育目標・方法等の明示と自立学修

本学は各学部・学科の教育目標・方法等を履修ガイド及びシラバスに明示し、目標達成のため教員と学生はともに努力している。

また、カリキュラムの充実のほか、国家試験、資格試験での合格率の向上と、資格取得に努めている。そのために、学生自らが課題を見つけ解決するいわゆる「自立学修」ができる教育も実践している。

### ③教育への信頼（安心と安全）

#### ～適切できめ細やかな教育と学生の成長を支援する充実した教育・研究環境～

本学が掲げる「安心」とは、学生に対し親切に接し、いい教育・わかる教育を行うことつまり教育の質を保証するものであり、「安全」とは、今後予測される南海トラフ地震の発生に備えた耐震化等、学生・教職員の教育環境を整えることである。

本学では、学年・学期の各段階で、学生に適切できめ細やかな教育を行うよう努めている。入学前教育は、AO入試、推薦入試に合格した段階から開始しており、学生の出身校と連携をとりながら、入学後の学修がスムーズに進むよう支援している。

また、新入生一人ひとりに各学部・学科のチューターあるいは担任が付き、平成25(2013)年からWeb化した「学習ポートフォリオ」をもとに面談を行い、教員とのきめ細かな連携を構築しながら、大学生活をサポートしている。

なお、新入生は、本学の特色である「文理学」を必修科目として履修している。「文理学」では、理事長の「徳島文理大学の建学精神と歴史」や学長の「大学とは」の講義に続いて、「学習ポートフォリオの使用説明」を行い、学生の自主学修を促している。

そのほか、全学共通教育センターでは、学生の個々の事情に合わせた各学部・学科教育の専門的な学修に備えるための支援として「学力充実講座」を開講している。また、eラーニングによる学習システムも導入し、個別メニューで効果的に独自学習が行えるようサポートをしている。それに加え、教員をめざす学生には「教員養成対策講座」、公務員をめざす学生に対しては「公務員試験対策講座」での指導を通じて、進路の実現を支援している。

さらに、「FD研究部会」は、FD(Faculty Development)研修会・講演会の開催、全学授業評価アンケート調査、研究授業、卒業生の満足度調査等を行い、教育活動の質の向上に努めるだけでなく、学生と教員の連携を円滑に進めている。

教育・研究環境面では、メディアセンターにICT(情報通信技術)教育設備を設置し、語学や基礎学力向上を図るセンターや、生活面をサポートする施設等を置き、学生の自主的

な学びの場や学生と教職員とのコミュニケーションの場として活用されている。

また、徳島及び香川両キャンパスにある図書館は、豊富な資料を揃えており、情報システムのもと DVD、CD、ビデオ等あらゆる視聴覚資料を学生に提供し、教育環境の完備に努めている。

さらに、徳島キャンパスには、世界最高水準の音楽ホール「むらさきホール」並びに「アカンサスホール」、「ボストンホール」を設置しており、学生のレッスン、学生による定期演奏会、OB 定期演奏会等に利用している。同ホールでは、国際的に活躍している演奏家や指揮者による演奏も行われており、学生はそれらを直に聴くことができる。また香川キャンパスには、同様の機能を有した「村崎サイメモリアルホール」を設置している。

優れた教育を支える活発な研究活動は本学の特徴でもある。研究活動は学生の問題発見能力と問題解決能力の育成に役立ち、その成果を社会に発信できた時の喜びは学生と教員が共同して成し遂げた教育成果としても分かち合える。徳島・香川キャンパスには充実した教育・研究機器が整備され、最先端の研究が展開されている。最近5年間の本学の科研費獲得数は中四国私立大学で上位にランクされ、特に化学系薬学、天然資源系薬学、環境・衛生系薬学と動物生理・行動の4分野においてトップ10に入り、さらに天然物分野の国際学会の開催や、シュプリンガー・ネイチャー社の「Nature Index 2017 Japan」において全研究機関ランキングで78位、全国私立大学で15位（中四国・九州の私立大学1位）に選ばれるなど、研究活動と研究成果は内外から高い評価を受けている。

#### ④地域に密着した教育貢献

本学は地域に密着した教育貢献を心がけている。これは、本学が徳島の地で戦災から復興し今日の発展に至ったのは、県民の教育への思いや、成功を収めた多くの卒業生、多数の保護者、教育に尽力した教職員、地域住民等の限りない協力と支援に負うところが大きかったと考えるからである。

地域に密着する教育貢献としては、公開講座や公開講演会、定期演奏会、高等学校等への出張講義、児童・生徒を対象とした科学・工作教室等の開催、徳島・香川県等との地域連携事業の推進のほか、本学施設を一般の講演会と演奏会等の会場としても提供しており、地域住民の参加を歓迎している。

また、平成27(2015)年4月に、地域貢献・地域連携を担う中核として地域連携センターを設立した。さらに、平成29(2017)年度から本県の重要健康課題である糖尿病対策に資するため、地域連携センター内に「糖尿病看護認定看護師教育課程」を開設した。

#### ⑤グローバル教育

本学は四国に位置していることから、日本や世界の流れを踏まえつつ地域とともに歩める人材を育成することを目的とし、グローバルに考え、ローカルに行動する「グローバル教育」を実践している。そして、そのために必要となる ICT 能力やコミュニケーション能力の向上を図れるように、メディアセンターの充実や、ICT の導入、総合大学の特色を生かした多様な講義の受講機会を設ける等、教育環境を整えている。また、地域を知り、厳しい社会環境を生き抜き活躍していけるよう、学生には地元企業や地域とのインターンシップに積極的に参加するよう推奨している。

そのほか、地方にある大学にとって、学生の就職支援は、学生の大学生活を成功に導くための極めて重要な課題である。必修科目である「文理学」のカリキュラムにキャリアガイダンスを取り入れ、キャリア形成への意識付けを初年次から始めた。その後は就職活動の指導・支援を進め、3年次には就職相談や支援に努め、成果を上げている。

## ⑥国際交流

本学は総合大学である特徴を生かし、米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアなどの11か国・31大学と協定を締結している。また高大連携は9校となっている。

米国のマサチューセッツ工科大学との協定を日本で最初に締結したほか、音楽療法の先進校である米国のシェナンドー大学から日本の大学として初めて音楽療法教育を導入した。

このほか、韓国・檀国大学校、香港城市大学、台湾の中山医学大学等とは、学生の短期・長期の滞在を含めた定期的な交流を行っている。また、音楽学部は、ウィーン国立音楽大学教授陣による夏期・冬期講習会も開催しており、音楽留学の道も開いている。

これらの国際交流を通じて、本学の学生は、海外の教育を受けたり異文化に触れたりすることができ、異文化への理解や国際的な視野をひろげることにつながっている。また、本学の教員も国際シンポジウムに招待されることが多く、本学が高い研究レベルを維持し、国際的に活躍できる大学としての特色を備えている証左でもある。

また、平成26(2014)年度に「国際交流グループ」と「語学センター」を統合し、国際部を新設した。現在、11人体制で運営を行っており、平成28(2016)年度、学内横断的な組織である国際交流委員会を設立し、国際交流・グローバル化を推進する体制を整備した。



## Ⅱ. 沿革と現況

### 1. 本学の沿革

明治 28(1895)年 村崎サイ、私立裁縫専修学校創立 「女性の自立」を唱え、自立協同を 建学の精神とする。	徳島文理大学文学部日本文学科、英米 文学科設置（香川キャンパス）	児童学専攻（児童教育学コース、臨床 心理学コース）[修士課程]設置
大正 13(1924)年 徳島女子職業学校設置許可	昭和 63(1988)年 カナダ バンクーバー・コミュニテイ ー・カレッジと姉妹校協定締結	徳島文理大学大学院薬学研究科医 療薬学専攻[修士課程]設置
昭和 7(1932)年 徳島女子職業学校経済科設置許可	平成元(1989)年 徳島文理大学工学部機械電子工学 科、情報システム工学科設置（香 川キャンパス）	徳島文理大学家政学部人間発達学 科設置
昭和 19(1944)年 財団法人村崎女子商業学校認可	村崎サイメモリアルホール完成 （香川キャンパス）	徳島文理大学文学部文化財学科設置 徳島文理大学工学部環境システム 工学科設置
昭和 22(1947)年 財団法人村崎学園認可	平成 4(1992)年 徳島文理大学文学部コミュニケーシ ョン学科設置（香川キャンパス）	アメリカ インディアナ大学と学 術協定締結
昭和 23(1948)年 村崎高等女学校と校名変更	徳島文理大学大学院文学研究科地 域文化専攻[修士課程]設置（香川 キャンパス）	平成 11(1999)年 徳島文理大学大学院家政学研究科人 間生活学専攻[博士課程(後期)]設置
昭和 26(1951)年 学校法人村崎学園認可	平成 5(1993)年 徳島文理大学家政学専攻科設置	ベトナム ハノイ国家大学と学術 交流協定締結
昭和 33(1958)年 徳島女子高等学校と校名変更	徳島文理大学大学院工学研究科シ ステム制御工学専攻[修士課程]設 置（香川キャンパス）	徳島文理大学大学院家政学研究科児 童学専攻臨床心理学コース、臨床心 理士養成の指定を受ける
昭和 41(1966)年 徳島女子大学創立、家政学部家政 学科設置	学園創立 100 周年村崎凡人記念図書 館・総合体育館完成（徳島キャンパス）	平成 12(2000)年 徳島文理大学総合政策学部総合政 策学科設置
昭和 42(1967)年 徳島女子大学家政学部家政学科専攻 分離（家政学専攻、管理栄養士専攻）	平成 6(1994)年 徳島文理大学家政学部生活環境情 報学科設置	学園創立 110 周年記念むらさきホ ール完成（徳島キャンパス）
昭和 43(1968)年 徳島女子大学音楽学部音楽学科設置	徳島文理大学大学院文学研究科地 域文化専攻[博士課程(後期)]設置 （香川キャンパス）	オーストリア ウィーン国立音楽大 学・アメリカ シェナンドー大学と学 術交流協定締結
昭和 45(1970)年 徳島女子大学家政学部児童学科設置	平成 7(1995)年 徳島文理大学大学院工学研究科シ ステム制御工学専攻[博士課程(後期)] 設置（香川キャンパス）	平成 14(2002)年 徳島文理大学薬学部衛生薬学科を 医療薬学科に名称変更
昭和 47(1972)年 徳島女子大学薬学部薬学科、衛生 薬学科設置	アメリカ マサチューセッツ工科大 学〔MIT〕と大学間協定締結	徳島文理大学家政学部家政学科管 理栄養士専攻、生活環境情報学科 を改組し、食物栄養学科、生活情 報学科、住居学科設置
昭和 50(1975)年 徳島文理大学音楽専攻科設置	カナダ ランガラ大学と姉妹校協定締結	徳島文理大学家政学部を人間生活 学部名称変更
昭和 54(1979)年 徳島文理大学大学院薬学研究科薬 学専攻[修士課程]設置	平成 9(1997)年 徳島文理大学大学院家政学研究科 食物学専攻、生活環境情報学専攻 [修士課程]設置	家政学部家政学科家政学専攻を人間 生活学部人間生活学科名称変更
昭和 56(1981)年 徳島文理大学大学院薬学研究科薬学 専攻[博士課程(後期)]設置	平成 10(1998)年 徳島文理大学大学院家政学研究科	平成 15(2003)年 徳島文理大学人間生活学部人間福 祉学科設置
昭和 58(1983)年 香川キャンパスを開学		徳島文理大学人間生活学部人間発達 学科を心理学科に、文学部英米文学科

## 徳島文理大学

<p>を英米言語文化学科に名称変更 香港大学と学術交流協定締結 平成 16(2004)年 徳島文理大学工学部ナノ物質工学科設置(香川キャンパス) 徳島文理大学大学院総合政策研究科地域公共政策専攻[専門職学位課程]設置 徳島文理大学香川薬学部創薬学科設置(香川キャンパス) 韓国 檀国大學校と学術交流協定締結 平成 17(2005)年 徳島文理大学大学院香川薬学研究科創薬科学専攻[博士課程(前・後期)]設置(香川キャンパス) 徳島文理大学家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更 徳島文理大学大学院家政学研究科を人間生活学研究科に名称変更 徳島文理大学大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、心理学専攻[博士課程(前期)]設置 徳島文理大学大学院工学研究科ナノ物質工学専攻[博士課程(前・後期)]設置 香港城市大學と学術交流協定締結 スロベニア ヨーゼフ・ステファン国際大学院と学術交流協定締結 平成 18(2006)年 徳島文理大学人間生活学部生活情報学科をメディアデザイン学科に名称変更 徳島文理大学薬学部薬学科[4年制]、医療薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]設置 徳島文理大学香川薬学部創薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]、薬科学科[4年制]設置 イタリア パヴィア大学と学術交流協定締結 平成 19(2007)年 徳島文理大学工学部臨床工学科設置(香川キャンパス) 徳島文理大学人間生活学部人間福</p>	<p>祉学科を改組し、人間福祉学部人間福祉学科設置 平成 20(2008)年 徳島文理大学人間福祉学部を保健福祉学部名称変更 徳島文理大学文学部英米言語文化学科を英語英米文化学科に、工学部機械電子工学科を機械創造工学科に、情報システム工学科を電子情報工学科に名称変更(香川キャンパス) 徳島文理大学保健福祉学部看護学科設置 オーストラリア グリフィス大学と学術交流協定締結 イギリス グロスターシャー大学と学術交流協定締結 平成 21(2009)年 徳島文理大学工学部を理工学部名称変更(香川キャンパス) 徳島文理大学助産学専攻科設置 徳島文理大学人間生活学部住居学科を建築デザイン学科に名称変更 台湾 中山醫學大學と学術交流協定締結 台湾 新民高級中學と高大連携校協定締結 平成 22(2010)年 徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科設置 徳島文理大学大学院香川薬学研究科薬科学専攻[修士課程]設置(香川キャンパス) 台湾 台北醫科大學・大仁科技大學・台南應用科技大學と学術交流協定締結 台湾 台北市立南湖高級中學・樹德高級家事商業職業學校・新光高級中學と高大連携校協定締結 平成 23(2011)年 台湾 嘉南藥理科技大學・義守大學・東海大學・国立台中教育大學・国立台湾師範大學と学術交流協定締結 三民高級中學と高大連携校協定締結</p>	<p>平成 24(2012)年 徳島文理大学保健福祉学部診療放射線学科設置、臨床工学科を理工学部から保健福祉学部へ移行(香川キャンパス) 徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年課程)設置 台湾 中原大學・逢甲大學・開南大學と学術交流協定締結 平成 25(2013)年 中国 厦門大學と学術交流協定締結 韓国 水原大學校・水原科學大學校と学術交流協定締結 台湾 康橋双語學校と高大連携校協定締結 平成 26(2014)年 徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻[修士課程]設置 韓国 安山江西高等學校と高大連携校協定締結 台湾 淡江大學と学術交流協定締結 平成 27(2015)年 中国 広東省外語芸術職業学院と学術交流協定締結 中国 北京語言大学附属大連高級中学と高大連携校協定締結 地域連携センター開設 2号館アカンサスホール完成(徳島キャンパス) 平成 28(2016)年 徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻[博士課程(後期)]設置 徳島文理大学大学院総合政策学研究科総合政策学専攻[修士課程]設置 平成 29(2017)年 徳島文理大学保健福祉学部口腔保健学科設置 徳島文理大学地域連携センター糖尿病看護認定看護師教育課程開設</p>
--	--	--

2. 本学の現況

【大学名】 徳島文理大学

【所在地】 法 人 事 務 局：〒770-8560 徳島県徳島市寺島本町東1丁目8  
 徳島キャンパス：〒770-8514 徳島県徳島市山城町西浜傍5 180 番地  
 香川キャンパス：〒769-2193 香川県さぬき市志度 1314 番地 1

【徳島キャンパス】

・学部、大学院及び専攻科の構成

(平成29年5月1日現在)

学 部	学 科
人間生活学部	人間生活学科
	食物栄養学科
	児童学科
	メディアデザイン学科
	建築デザイン学科
	心理学科
音楽学部	音楽学科
薬学部	薬学科
総合政策学部	総合政策学科
保健福祉学部	人間福祉学科
	看護学科
	理学療法学科
	口腔保健学科

研究科	専 攻	課 程
薬学研究科(4年課程)	薬学専攻	博士課程
人間生活学研究科	人間生活学専攻	博士後期課程
	食物学専攻	博士前期課程
	生活環境情報学専攻	博士前期課程
	児童学専攻	博士前期課程
	心理学専攻	博士前期課程
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程 博士後期課程
総合政策学研究科	総合政策学専攻	修士課程

専 攻 科	専 攻
音楽専攻科	器楽専攻
	声楽専攻
人間生活学専攻科	人間生活学専攻 児童学専攻
助産学専攻科	

課 程
糖尿病看護認定看護師教育課程

【香川キャンパス】

・学部、大学院の構成

学 部	学 科
文 学 部	日本文学科
	英語英米文化学科
	文化財学科
理 工 学 部	機械創造工学科
	電子情報工学科
	ナノ物質工学科
香川薬学部	薬学科
保健福祉学部	診療放射線学科
	臨床工学科

研究科	専 攻	課 程
文 学 研 究 科	地域文化専攻	博士前期課程
		博士後期課程
工 学 研 究 科	システム制御工学専攻	博士前期課程
		博士後期課程
	ナノ物質工学専攻	博士前期課程 博士後期課程

【学生数】

課 程	学 生 数
学部生	4,315
大学院生	64
専攻科生	14
合 計	4,393

【教員数】

職 名	人 数
専任教員	340
助 手	12
兼任教員	113
合 計	465

【職員数】

キャンパス	人 数
法 人 事 務 局	19
徳島キャンパス	66
香川キャンパス	35
合 計	120

### Ⅲ. 評価機構が定める基準に基づく自己評価

#### 基準 1. 使命・目的等

##### 1-1 使命・目的及び教育目的の明確性

###### 《1-1 の視点》

###### 1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

###### 1-1-② 簡潔な文章化

###### (1) 1-1 の自己判定

基準項目 1-1 を満たしている。

###### (2) 1-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### 【事実の説明】

###### 1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

- ・ 本学の目的は、建学精神を基本に、大学「学則」第 1 章第 1 条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」と明記している。【資料 1-1-1】
- ・ 本学の使命は、「学則」に明記した教育研究上の目的を達成することである。各学部・学科に応じた教育研究上の目的は学則に定め、「キャンパスガイド」に明記している。【資料 1-1-2・資料 1-1-3】
- ・ 「大学院学則」には第 1 章第 2 条に目的、第 5 条第 2 項に教育研究上の目的を、「専攻科規則」には第 1 章第 1 条に目的、第 2 章第 2 条第 2 項に教育研究上の目的を、それぞれ定めている。【資料 1-1-4～資料 1-1-6】
- ・ 入学生には、入学式で建学精神である「自立協同」を伝えるほか、必修の「文理学」とおして、建学精神の理解を促し、本学学生としてのアイデンティティの確立を図る取組みを行っている。また、在学生に対しては、Web サイトや大学通信をとおして、その精神を繰り返し強調している。そのほか、卒業式においても、必ず「自立協同」の精神が饗の言葉として送られている。【資料 1-1-7～資料 1-1-9】

###### 1-1-② 簡潔な文章化

- ・ 本学の使命・目的及び教育研究上の目的を本学 Web サイトやキャンパスガイドに文章で簡潔に明記している。【資料 1-1-3】【資料 1-1-6】【資料 1-1-8】

###### 【エビデンス集・資料編】

【資料 1-1-1】徳島文理大学学則（1 頁） ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-2】徳島文理大学学則（2-3 頁） ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-3】平成 29 年度キャンパスガイド（167-168 頁） ※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-4】徳島文理大学大学院学則（1-2 頁） ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-5】徳島文理大学専攻科規則（1 頁） ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-6】平成 29 年度キャンパスガイド（182・185 頁）※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-7】平成 29 年度キャンパスガイド（33 頁）※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-8】本学 Web ページ「名称及び教育研究上の目的」

【資料 1-1-9】本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 81」（2-3 頁）

#### 【自己評価】

- ・ 本学の使命・目的及び教育研究上の目的は、具体的かつ簡潔な文章で表現されていると判断している。

#### (3) 1-1 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 本学の建学精神や使命・目的及び教育研究上の目的は、主として大学案内や大学 Web サイトをとおして、学外へ公表・周知しており、今後も様々な機会を通じて公表していく。

### 1-2 使命・目的及び教育目的の適切性

#### ≪1-2 の視点≫

##### 1-2-① 個性・特色の明示

##### 1-2-② 法令への適合

##### 1-2-③ 変化への対応

#### (1) 1-2 の自己判定

基準項目 1-2 を満たしている。

#### (2) 1-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 【事実の説明】

##### 1-2-① 個性・特色の明示

- ・ 明治 28（1895）年の学園創立時の「学祖村崎サイが唱えた女性の自立をめざす精神」が脈々と受け継がれ「自立協同」の建学精神へと繋がってきている。これは、百有余年の長さに亘って受け継がれてきた建学精神が、時代を超えた重要な内容であるといえる。【資料 1-2-1】【資料 1-2-2】
- ・ 本学は、建学精神を基本に、大学「学則」第 1 章第 1 条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」と明記している。【資料 1-2-3】

##### 1-2-② 法令への適合

- ・ 学校教育法 83 条に照らして、「学則」第 1 章第 1 条に規定している。また、各学部・学科の教育研究上の目的は学則に定め、キャンパスガイドに明記している。【資料 1-2-3～資料 1-2-8】【表 1-2-1】

【表 1-2-1】 教育研究上の目的

<p><b>【大 学 学 部】</b>                  本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。</p>	
<p><b>【人間生活学部】</b>                  最先端の知識・技能を教授研究し、かつ人間と生活環境との共生を総合的・学際的に追究して、より豊かで幸せな人間生活の実現のために、広く社会貢献をなし得る人材の養成を目的とする。</p>	
人間生活学科	健康で安全・快適な人間生活の実現のため、人と生活について科学的、総合的な教授研究を行い、専門的知識・技能を持ち、地球社会に貢献できる自立した人間性豊かな人材を養成する。
食物栄養学科	人々の健康を、食から支える栄養のスペシャリストとして、必要な専門的知識・技能を涵養し、社会に貢献できる他人に優しい管理栄養士・栄養士を養成する。
児童学科	教育・保育に対する使命感、教育愛、倫理観に裏付けされた豊かな人間性を涵養するとともに、高度な専門的知識やすぐれた指導技術を学び、子どもたちと共感的に向かい合える総合的人間力を備えた指導者を養成する。
メディアデザイン学科	デジタルデザイン技術を学び、インストラクショナルデザイナーに関する知識・技能を身につけ、さらに分析、企画、プロデュースする能力及びプレゼンテーション能力を備えた人材を養成する。
建築デザイン学科	建築デザインに関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、快適で安全な住まい、美しい住環境を創ることをめざし、「建築デザイン」に関する基礎的、専門的な知識・技術を持った人間性豊かな人材を養成する。
心理学科	心理学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、精神的危機をもたらす社会環境への適応に向けて、人間関係改善の相談支援並びに専門的サポートシステムの担い手となる人材を養成する。
<p><b>【音 楽 学 部】</b>                  音楽に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。</p>	
音楽学科	音楽の領域に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、音楽の表現・鑑賞並びに音楽療法にかかわる専門的知識・技能を備え、文化の昂揚啓発に貢献する人材を養成する。
<p><b>【薬 学 部】</b>                  薬学に関して深い知識・技能・態度をもつ有能な人材を養成するとともに、最高最新の科学を教授研究することを目的とする。</p>	
薬学科	薬剤師としての必須の知識・技能・態度を習得するだけでなく、問題解決能力を有した薬剤師を養成することを目的とする。
<p><b>【総合政策学部】</b>                  法学・政治学・経済学・経営学・社会学など、社会科学の幅広い学問の教授研究を行い、広い視野を有するゼネラリストを養成することを目的とする。</p>	
総合政策学科	地域に立脚した総合政策を立案・推進する手法の総合的、学際的な教授研究を行い、複眼的志向を持つ問題解決型の人材を養成する。
<p><b>【保健福祉学部】</b>                  医療・保健・福祉に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。</p>	
人間福祉学科	社会福祉学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、社会福祉にかかわる幅広い専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、地域の要請に応えられる社会福祉士、精神保健福祉士を養成する。

徳島文理大学

看護学科	医療・保健衛生・健康の分野にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、保健衛生・健康にかかわる専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、社会の要請に応えられる看護師、保健師、助産師を養成する。
理学療法学科	生命を尊重し、人間の尊厳と権利に関する深い洞察力を持ちながら、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い理学療法士を養成する。
口腔保健学科	人々の健康増進の担い手としての使命感を常に持ち、修得した口腔保健に関する高度な知識・技術及び問題解決能力を、保健・医療・福祉等の現場で多職種と連携して十分に発揮できる、福祉のマインドを持った専門性の高い歯科衛生士を養成する。
診療放射線 学科	放射線技術に関する諸科学・医学及び高度医療機器・設備等に精通し、チーム医療に貢献するとともに教育・行政、医療機器関係の企業等の諸分野において活躍できる診療放射線技師を養成する。
臨床工学科	高度先端医療に対応できる工学的・医学的知識を教授研究し、臨床工学に係わる専門的知識・技能を身につけ、豊かな人間性を兼ね備え、高度先端医療に対応できる臨床工学技士を養成する。
<b>【文 学 部】</b>	
各時代の文学を通じ、日本文学・語学及び文化を精究し、英語を駆使できる国際人、先人が残した多様な文化遺産を現代に創造的に生かせる人材を養成することを目的とする。	
日本文学科	古代から近現代に至る文学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、巨視的な観点を保ちつつ、その時代特有の思想や態度を精研するとともに、日本語学を体系的に学び、日本語の運用能力を身につけた人材を養成する。
英語 英米文化学科	英米言語文化にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、英語の運用能力のスキルを高め、欧米の文化についての知識を幅広く獲得することにより、広く国際社会に貢献できる真の国際人を養成する。
文化財学科	先人が残した多様な文化遺産の調査・分析方法を教授研究し、専門技能・学識や探求心・実践力を身につけ、文化・歴史・風土に対する知識や感性を社会の創造・発展に向けて活用できる人材を養成する。
<b>【理 工 学 部】</b>	
「創造力のあるもの創り」、「情報通信」、「環境・バイオテクノロジー」、「ナノテクノロジー・材料」、「ライフサイエンス」をキーワードとして、理学的・工学的基礎のうえに、専門的学術を教授研究し、科学技術の進歩に柔軟に適應できる能力を身につけ、豊かな社会を創造する技術者を養成することを目的とする。	
機械創造 工学科	機械設計に必要な基礎知識を教授し、産業の基盤技術である「もの創り」の理解を深め、手法を会得し、創造性豊かな技術者を養成する。
電子情報 工学科	電気・電子工学及び情報工学に関する学術を教授研究し、高度情報社会の発展に不可欠なコンピュータシステムを理解し、自由に使いこなせる能力を身につけた情報システム技術者を養成する。
ナノ物質 工学科	応用化学・応用生物学・光工学分野における無機・有機・高分子・複合材料等、ナノ材料の基礎を教授し、資源・環境問題を認識したグローバルな視点から新素材開発に取り組み、豊富かつ高度なナノ構造解析機器と解析技術力を活用できる人材を養成する。
<b>【香川薬学部】</b>	
薬学に関する教育プログラムに基づき、薬の科学者としての技量・学識と医療倫理観を兼備した薬剤師及び探求心を有した薬の科学者を養成することを目的とする。	
薬学科	基礎及び専門教育をとおして、薬にかかわる科学を教授研究し、病院・薬局での臨床実習をとおして、医療人としての自覚と技量を養い、探求心と人間性を兼備した質の高い薬剤師を養成する。
<b>【大学院研究科】</b>	
自立協同の建学精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、もって、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することのできる人物を育成することを目的とする。	

薬学研究科 (4年課程)	医療薬学分野と基礎薬学分野を融合した教育・研究を通じて、高度な専門的知識・技術を修得し、医療人としての広い視野と能力、高い倫理観、並びに医療現場で提起される臨床的課題の解決に向けた優れた研究能力を有する指導的臨床薬剤師及び医薬品開発の中心的な役割を担える研究者を養成することを目的とする。
文学研究科	文学、言語学、考古学、歴史学、文化史学、地理学などの教授研究を行い、地域文化の継承と創造的発展に寄与しうる探求心と学問的客観性を体得した人材を養成することを目的とする。
工学研究科	システム制御工学及びナノ物質工学におけるより高度の専門学術の教授研究を行い、課題研究を遂行し、工学進展に寄与する研究者及び社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
人間生活学 研究科	人間生活学、食物学、生活環境情報学、児童学、心理学における各専門分野の深い学識と学際分野の幅広い知識を習得し、学芸の進歩に貢献できる創造性豊かな人材を養成することを目的とする。
看護学研究科	看護学における学術性及び高度な専門性を教授・探求し、先駆的な研究・教育・管理能力、卓越した看護実践能力をもつ人材を養成することを目的とする。
総合政策学 研究科	法律、行政、経済、金融、企業経営に関する高度な研究や、政策実施現場での経験を通じ、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とする。
【大学専攻科】 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者に対して精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。	
音楽専攻科	音楽の領域に関する専門的な実技を、精深な程度において教授研究し、社会の要請に応えられる人材を養成する。
人間生活学 専攻科	生活科学及びその隣接領域の学問分野並びに児童学の分野を、精深な程度において教授研究し、社会の要請に応えられる人材を養成する。
助産学専攻科	周産期を担える専門職の実践教育を重視するとともに、助産学分野の精深な程度において教授研究し、女性のライフサイクルの総合的な助産ケアの能力を培った人材を養成する。

### 1-2-③ 変化への対応

- 本学は創立以来、時代が求めるものや未来が必要とするものは何かを常に問い続けながら、「自立協同」の建学精神に基づき、人間の自立と学芸の独立を掲げた教育を推進してきた。現在、本学は8学部22学科、6大学院、3専攻科を有しており、大学教育に寄せられる多様な社会的ニーズに応えられる体制となっている。【資料1-2-9】
- 平成24(2012)年に香川キャンパスに保健福祉学部診療放射線学科を、平成26(2014)年に徳島キャンパスに看護学研究科を、平成28(2016)年4月に看護学研究科博士後期課程並びに総合政策学研究科を設置してきた。平成29年(2017)年4月には口腔保健学科を新設し、地域連携センター内に「糖尿病看護認定看護師教育課程」を開設するなど、社会的ニーズの変化に対応すべく努力している。【資料1-2-9～資料1-2-11】

#### 【エビデンス集・資料編】

【資料1-2-1】本学Webページ「建学の精神と学章」

【資料1-2-2】本学Webページ「めざす大学像」

【資料1-2-3】徳島文理大学学則(1頁) ※【資料F-3】と同じ



- 【資料 1-2-4】 徳島文理大学学則（2-3 頁） ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 1-2-5】 徳島文理大学大学院学則（1-2 頁） ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 1-2-6】 徳島文理大学専攻科規則（1 頁） ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 1-2-7】 平成 29 年度キャンパスガイド（167-168 頁） ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-2-8】 平成 29 年度キャンパスガイド（182・185 頁） ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-2-9】 2018 年大学案内（174-175 頁） ※【資料 F-2】と同じ
- 【資料 1-2-10】 平成 29 年度糖尿病看護認定看護師教育課程募集要項
- 【資料 1-2-11】 糖尿病看護認定看護師リーフレット

#### 【自己評価】

- ・ 本学の使命・目的及び教育研究上の目的は「自立協同」の建学精神を基本に定められており、本学の特色を反映しているものと判断している。
- ・ 法令を遵守して、教育研究を行っているものと判断している。
- ・ 社会の変化に対応し、文化の創造と発展に貢献しながら自己点検・評価を実施し検証することにより、必要に応じて見直しを継続していく体制を整えていると判断している。

#### (3) 1-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 使命・目的及び教育目的の適切性については、自己点検・評価委員会において定期的な点検・評価を行うものとし、法令を遵守し、建学精神を具現化させながら、変化に対応できる人材の育成に取り組む努力を継続する。

### 1-3 使命・目的及び教育目的の有効性

#### 《1-3 の視点》

##### 1-3-① 役員、教職員の理解と支持

##### 1-3-② 学内外への周知

##### 1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

##### 1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

#### (1) 1-3 の自己判定

基準項目 1-3 を満たしている。

#### (2) 1-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 【事実の説明】

##### 1-3-① 役員、教職員の理解と支持

- ・ 建学精神、理念及び教育方針に基づいた本学の使命・目的、3 つの方針等は、本学 Web サイトやキャンパスガイド、大学通信、学部で作成している履修ガイド等に明記されている。【資料 1-3-1～資料 1-3-6】
- ・ 教育目的等の策定については、学部教授会の意見も十分くみ取り、理事会で審議を受け決定している。

### 1-3-② 学内外への周知

- ・ 入学時のオリエンテーション、各学部・学科の授業や配属された教室での教育実践、「文理学」の講義を通じて、大学の使命・目的は伝達されている。【資料 1-3-7～資料 1-3-9】
- ・ 大学の使命・目的が明記されている「学則」の一部を平易な文章にし、大学案内、徳島文理大学通信、本学 Web サイト等の媒体に公表している。また、高校進路指導教諭を対象とした進学説明会での理事長や学長の挨拶では、建学精神のほかに、教育研究活動の紹介の中で本学の教育研究上の目的に触れており、大学の使命・目的の周知に努めている。【資料 1-3-1】【資料 1-3-4】【資料 1-3-10・資料 1-3-11】

### 1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

- ・ 本学では、時事刻々と変化する時代にしっかり対応することができる人材を育成するため、単年度の事業計画の中に中期的な展望に基づいた施策を盛り込むとともに、地域の発展に寄与する施策を策定し、計画的に実施している。
- ・ 本学の使命・目的及び各学部・学科における教育研究上の目的に基づき、「全学教務委員会」で協議したうえで、各学部・学科において 3 つの方針を作成している。【資料 1-3-2】【資料 1-3-12・資料 1-3-13】
- ・ 平成 26 年(2014)年 7 月、「全学教務委員会」で本学の教育理念と 3 つの方針についての協議が行われ、10 月に本学 Web サイト並びに大学ポータルで公表した。また、平成 28(2016)年度には 3 つの方針の見直しを検討し、部局長会、合同教授会で審議・決定し公表した。【資料 1-3-12～資料 1-3-18】【表 1-3-1】

【表 1-3-1】徳島文理大学の教育研究上の目的と 3 つの方針

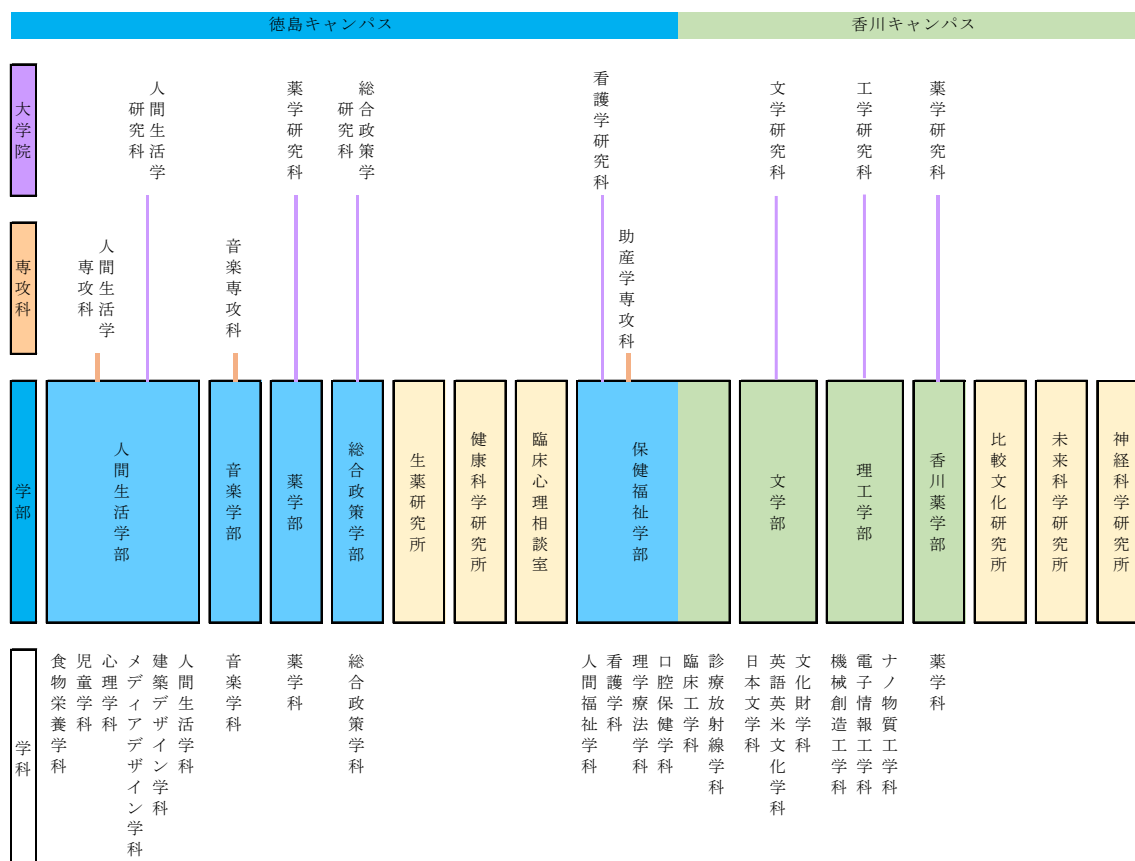
建 学 精 神	自立協同
使 命	「学則」に明記した教育研究上の目的を達成すること
教育研究上の目的	教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシー (卒業の認定に関する方針)	本学の教育課程において、厳格な成績評価のもと、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。 ①「自立協同」の精神を基本に、幅広い教養と専門的知識を身につけ、健全な価値観と倫理観をもった良き市民として、幸せな人生を追求することができること。 ② 修得した知識と技能を活用しながら他者と議論し、問題の解決に取り組み、それを評価して次の思考と行動に活かしていくことができること。 ③新しい知識や経験に関心をもつとともに、立案した企画について、目的達成を目指し、家庭・地域・社会における協働を通じ、実践していくことができること。
カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)	ディプロマ・ポリシーの提示する学位取得の要件を満たすことを目指す学生に対して、本学は次のような科目から成る教育課程を提供します。 ①社会に適応しつつもそれを改革できる人物に必要とされる、専門性にとどまらない教養を涵養するために、本学が、多様な専門教育機関を有する総合大学であるがゆえに提供できる「共通教育科目」を配置する。 ②文化・文明の進歩に貢献する、高度に専門的な知識・技能を開拓・活用できる人

<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)</p>	<p>物となるために、本学の各学部学科が提供する「専門教育科目」を配置する。  <b>【学修成果の評価】</b>                  ①各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。                  ②成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。                  ③ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、学修成果の全体を評価する。</p>
<p>アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)</p>	<p>本学の教育は、明治28年の学園創立以来、建学精神「自立協同」に基づき、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしています。  <b>【求める人物像】</b>                  ①教育理念及び教育内容に共感し、強い学びの意欲を有する人                  ②知識や技能を修得するために必要な基礎的学力など、大学教育を享受する備えができていない人  <b>【入学者受入指針】</b>                  各学部・学科でその専門となる内容を学ぶためには、広い視野と知識が求められます。このため、高等学校等で幅広く基礎的な勉強に励み、大学の授業を受ける土台を身に付けた人を求めます。また、入学者選抜では、学力のみでなく、調査書や面接等とおして、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、問題を発見し、自ら問題を解決する姿勢を評価します。</p>

1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

- 本学の教学部門は、大学学部・学科、大学院研究科、大学専攻科、研究所、及び相談室から構成されている。【図 1-3-1】

【図 1-3-1】 両キャンパスの教育研究組織



- ・ 教育研究上の目的を達成するために、「徳島文理大学学則」第2章第3条に示すとおり、人間生活学部、音楽学部、薬学部、総合政策学部、保健福祉学部、文学部、理工学部、香川薬学部の8学部、22学科を設置している。【資料1-3-19】
- ・ 本学の「大学院学則」第1章第3条に示すとおり、平成26(2014)年4月新設の看護学研究科を含む6つの大学院研究科、「専攻科規則」第2章第2条に示すとおり3つの専攻科を設置している。「学則」第16章第52条、第17章第53条、第18章第54条、第19章第55条、第20章第56条、第21章第57条に明記しているとおおり、5つの研究所及び臨床心理相談室を設置している。【資料1-3-19～資料1-3-21】
- ・ 部局長会は、本学の円滑な運営のため、「学園本部」、大学・短期大学部の「教学部門」及び「事務部門」の連絡調整機関である。【資料1-3-22】
- ・ 部局長会において、教育方針等重要事項を審議し、学部（研究科）に係わる事項は学部教授会（研究科委員会）、大学全体に係わる事項は合同教授会で、それぞれ審議されている。これらの会議は毎月定期的開催されている。【資料1-3-22～資料1-3-25】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料1-3-1】 本学 Web ページ「建学の精神、使命・目的」
- 【資料1-3-2】 本学 Web ページ「教育理念と方針」
- 【資料1-3-3】 平成29年度キャンパスガイド（見開き） ※【資料F-5】と同じ
- 【資料1-3-4】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 77」（3頁）
- 【資料1-3-5】 履修ガイド・要覧Ⅰ①～⑥ ※【資料F-12】と同じ
- 【資料1-3-6】 履修ガイド・要覧Ⅱ⑦～⑯ ※【資料F-12】と同じ
- 【資料1-3-7】 平成29年度キャンパスガイド（167頁） ※【資料F-5】と同じ
- 【資料1-3-8】 新入学生オリエンテーション（1-6頁）
- 【資料1-3-9】 徳島文理大学「文理学（地域学を含む）」について
- 【資料1-3-10】 2018年大学案内（174-175頁） ※【資料F-2】と同じ
- 【資料1-3-11】 本学 Web ページ「平成28年度学園の事業報告」 ※【資料F-7】と同じ
- 【資料1-3-12】 全学教務委員会要綱
- 【資料1-3-13】 全学教務委員会平成28年度議事
- 【資料1-3-14】 全学教務委員会平成26年度第2回議事
- 【資料1-3-15】 本学 Web ページ「名称及び教育研究上の目的」 ※【資料1-1-8】と同じ
- 【資料1-3-16】 本学 Web ページ「受入方針（アドミッション・ポリシー）」
- 【資料1-3-17】 本学 Web ページ「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること」
- 【資料1-3-18】 大学ポートレート私学版 Web ページ「徳島文理大学」
- 【資料1-3-19】 徳島文理大学学則（1・14頁） ※【資料F-3】と同じ
- 【資料1-3-20】 徳島文理大学大学院学則（1頁） ※【資料F-3】と同じ
- 【資料1-3-21】 徳島文理大学専攻科規則（1頁） ※【資料F-3】と同じ
- 【資料1-3-22】 徳島文理大学部局長会規程
- 【資料1-3-23】 徳島文理大学合同教授会規程
- 【資料1-3-24】 徳島文理大学学部教授会規程
- 【資料1-3-25】 徳島文理大学研究科委員会規程

**【自己評価】**

- ・ 本学の使命・目的は、キャンパスガイドや履修ガイド等により、全教職員に理解され、支持されていると判断している。
- ・ 教育・研究上の使命・目的は、様々な情報伝達手段によって公表しており、学内外で周知されていると判断している。
- ・ 3つの方針等の立案においても、教育研究上の目的とその理念が十分に反映されていると判断している。
- ・ 教育研究組織は、本学の使命・目的を実現するための構成となっており、部局長会・合同教授会等の全学的な機関により円滑に連携しているものと判断している。

**(3) 1-3の改善・向上方策（将来計画）**

- ・ 本学の使命・目的を学生に認識させるために、通常の授業の中で各教員がたびたび説明するよう工夫するとともに、各学部・学科の教育研究活動の目的が、全学的に広く理解されるように、ICT化を含め周知方法等について一層の改善を図る。
- ・ 今後も進学説明会やオープンキャンパス等を通じて、本学の教育研究活動の目的や各学部・学科の特色を説明することで信頼できる大学としての役割を示し、公開講演会等の開催を通じて地域社会に対してもその役割を発信していく。
- ・ 大学全体の3つの方針を定め、各学部・学科の方針が大学全体の3つの方針に沿っているかの検討を行っている。また、中長期的な計画については、教育需要に関して直近の社会情勢の動向を的確に把握しながら、新設する学科等の検討を行い、着実に実行していく。

**【基準1の自己評価】**

- ・ 本学の使命・目的及び教育研究上の目的は「自立協同」の建学精神を基本に作成され、法令に沿った具体的かつ簡素なものである。
- ・ 全教職員が、教育・研究上の使命・目的を理解しており、目的実現のために必要な教育研究組織を有し、適切に運営されている。
- ・ 学外への本学の建学精神や使命・目的の周知は、大学案内、本学 Web サイト等をおこなっている。

## 基準 2. 学修と教授

### 2-1 学生の受入れ

#### 《2-1 の視点》

- 2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知
- 2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫
- 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

#### (1) 2-1 の自己判定

基準項目 2-1 を満たしている。

#### (2) 2-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 【事実の説明】

#### 2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知

- ・ 学校教育法施行規則に合わせて改訂（平成 29(2017)年 3 月末）した本学の新たなアドミッション・ポリシーは、入学試験要項等への記載、本学 Web サイトへの掲載により、広く志願者や高等学校等に広報している。【資料 2-1-1～資料 2-1-7】
- ・ アドミッション・ポリシーをはじめ本学の教育方針や学部・学科の特色等については、入学試験要項や本学 Web サイト等で周知を図るとともに、オープンキャンパス（徳島キャンパスは年間 7 回、香川キャンパスは年間 6 回）で、参加した高校生や保護者等に周知を図っている。【資料 2-1-1～資料 2-1-8】
- ・ 高等学校教員を対象にした進学説明会を徳島、香川両キャンパスで開催するとともに、ブロック進学説明会を徳島（7 会場）・香川（5 会場）・愛媛（3 会場）・高知（3 会場）・岡山（1 会場）でも開催し、アドミッション・ポリシーや本学の教育方針等の周知に努めている。【資料 2-1-9・資料 2-1-10】

#### 2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

- ・ 入学試験要項には、アドミッション・ポリシーや入学試験に関する詳細な説明を記載し、多彩な才能、資質、経歴を持つ高校生や社会人、大学の国際化に合わせて外国人留学生等を広く受け入れるための入学試験を実施している。【資料 2-1-3】【資料 2-1-5】
- ・ 学力試験を課した入学試験だけでなく面接や特技、高等学校での実績等を活用し、多面的に判断できる入試制度を設け、多様な学生が受け入れられるよう努めている。【資料 2-1-3】
- ・ 徳島・香川両キャンパスをはじめ全国 22 の試験会場で入学試験を実施することにより、日本各地から学生を受け入れられるよう努めている。【資料 2-1-3】
- ・ 複数の受験機会を設けるとともに、受験生が実力を発揮できるよう受験科目の選択にも工夫を持たせている。【資料 2-1-3】【表 2-1-1】

【表 2-1-1】複数の受験機会を設けている入試

AO 入試	I 期～VI 期	
公募制推薦入試	I 期	全学部
	II 期	薬学部・文学部・理工学部・香川薬学部

一般入試	I 期	A 日程・B 日程（全学部）
	II 期	A 日程（全学部）・B 日程（音楽学部以外）
	III 期	A 日程（音楽学部のみ）
大学入試センター試験利用入試	I 期・II 期・III 期	

- ・ 学園創立 120 周年を記念した奨学金や同窓会と連携した奨学金により、専願者や卒業生の子弟の増加を図るとともに、特待生制度により、家庭の事情や経済状況により就学困難で優秀な学生の確保にも努めている。【資料 2-1-11】
- ・ 入学試験の実施方針、日程、実施教科・科目等については、全学入試委員会で毎年検討し、インターネット出願や学部・学科の第 2・3 希望制の拡大、大学と短期大学部との併願制の導入等を図った。【資料 2-1-12】
- ・ 入試事務は教務グループが担当している。入試日程ごとに実施計画を作成し、部局長会で審議した後に、それに基づき各学部・学科入試委員長及び各試験場責任者等と連携・協力し、適正な体制のもと、公正な入学試験を実施している。【資料 2-1-13・資料 2-1-14】
- ・ 各入学試験の合格者決定については、筆記試験、小論文・実技試験の成績、調査書の内容及び面接評価（A0 入試・推薦入試等）を各学部・学科ごとにまとめ合格者決定のための会議資料を教務グループが作成している。その資料を基に、各学部教授会が総合的に審議した後結果を学長に報告し、学長が合格者を決定している。【資料 2-1-15】
- ・ 学長が任命する入学試験問題作成委員はアドミッション・ポリシーを考慮し、本学独自で入学試験問題を作成するとともに、委員相互で問題及び解答の検討や確認を行い、公正公平な入試ができるよう努めている。【資料 2-1-12】
- ・ 大学教育への動機付けや学習サポートとして、e ラーニングシステムを取り入れ、入学予定者の定着や大学での学修の不安解消に努めている。入学前教育は、指定校制推薦入試・A0 入試の合格者と公募制推薦入試合格者の早期合格者を対象に実施しており、アンケート調査の結果、半数に近い使用者から有意義であったとの評価を得ている。【資料 2-1-16】
- ・ 学生募集に伴う広報は、入試広報部をはじめ各学部・学科の教職員で組織する広報担当者が「徳島文理大学広報担当者会議規約」に基づき協議・協力しながら進めている。【資料 2-1-17】
- ・ 大学院研究科修士課程及び博士課程とも入学者数は増加している。定員充足に向け、魅力ある大学院づくりや学内からの進学者の確保等に努め、併せて 9 月入学など外国人に対する留学制度を充実させることにより外国人の受け入れについても積極的に取り組んでいる。【資料 2-1-5・資料 2-1-6】

### 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

- ・ 平成 29(2017)年度の学部・学科全体の入学定員に対する入学者数比率は、0.717 倍であった。これは、社会情勢の変化が大きな要因であることは否めず、また、多くの学部・学科を有する総合大学であることのメリットが生かし切れていないことも一因であると考えている。

徳島文理大学

- ・ 入学者数は、平成 25(2013)年度と比べると 144 人減少しているものの、学生募集対策として行ってきた、高校生から選ばれる魅力ある学部・学科づくりのために授業内容の改善はもとより、国家試験対策や就職試験対策を充実させ、新たな奨学金・特待生制度を創設したこともあり、平成 29(2017)年度は若干増加している。【表 2-1-2】【資料 2-1-18】

【表 2-1-2】 過去 5 年間の学科別入学者数

学部	学 科	定員	入学者数					備考
			25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	
人間生活学部	人間生活学科	40	33	17	26	12	21	
	食物栄養学科	90	74	89	81	70	57	
	児童学科	110	86	93	88	72	78	
	メディアデザイン学科	30	17	13	8	14	18	
	建築デザイン学科	40	27	29	25	32	49	
	心理学科	90	83	61	67	71	62	
音楽学部	音楽学科	30	13	12	3	9	9	
薬学部	薬学科	180	142	172	130	99	98	
総合政策学部	総合政策学科	80	98	70	55	74	65	
保健福祉学部	人間福祉学科	40	28	23	34	18	22	
	看護学科	90	100	95	98	98	104	
	理学療法学科	60	62	69	60	63	64	
	口腔保健学科	40	—	—	—	—	25	平成 29 年 4 月開設
	診療放射線学科	50	61	57	57	52	59	
	臨床工学科	45	46	52	41	48	47	
文学部	日本文学科	30*	27	22	19	24	18*	*平成 29 年 4 月より定員 40 人から 30 人に変更
	英語英米文化学科	30*	16	16	14	10	12*	
	文化財学科	30*	12	16	19	17	9*	
理工学部	機械創造工学科	30*	24	23	20	16	24*	
	電子情報工学科	40	35	28	29	36	33	
	ナノ物質工学科	40	20	23	24	21	17	
香川薬学部	薬学科	90	76	101	76	57	45	
大 学 総 計		1,305	1,080	1,081	974	913	936	

- ・ 入学定員に対する入学者数比率が 0.70 倍を満たしていない学部・学科がある状況を真摯に受けとめている。このことを改善するため、各学部・学科でさらなる改善につながる方策がないか教授会等で検討し、たとえ小さくとも実施可能な改善策から実施し、入学定員の充足に努めている。【表 2-1-3】



【表 2-1-3】学科の取組み

学部	学 科	学 科 の 取 組 み
人間生活学部	人間生活学科	家庭科・養護教員の養成に向けた指導を強化し、教員採用試験の合格率向上に努めるとともに、その取組みの広報にも努めた。
	食物栄養学科	全教職員が夏期補講、後期の卒論ゼミ生の個別指導、土曜補講などを実施し、国家試験の合格率向上に取り組むとともに、入学者の増加に向けた広報活動に努めた。
	児童学科	公立小学校教員・幼稚園教諭・保育士採用試験の現役合格への対策を充実させるとともに、学生の地域貢献や学校ボランティア活動の推進などに努めた。
	メディアデザイン学科	学習活動の場を広げ、地域との連携を深める中で、学科の特色を活かした活動を積極的に展開するなど、学修方法や学修活動等の改善を図った。
	建築デザイン学科	最新の技術を取り入れた専門性の高い教育を展開するとともに、2級建築士資格取得試験に伴う夏期講座や1年間を通した宅地建物取引士の講座を開講し、学生受け入れに力を注いでいる。また、県建築士事務所協会主催の学生研究発表会などへ積極的に参加し、学科の内容を学外にアピールすることに努めた。
	心理学科	心理学を学ぶ楽しみとともに、平成30年度から開始される公認心理士国家試験について積極的に広報した。また、コース制導入の準備をはじめなど、指導内容の充実にも努めた。
音楽学部	音楽学科	設置している5コースを一層充実させ、演奏家や教員、音楽療法士等、目的意識をしっかりと持ち社会に貢献する有為な人材を育成している広報に努めた。
薬学部	薬学科	薬学部教員が高校を訪問し、特待生制度や社会人入試、編入学制度などを広く周知するとともに、外国人留学生の受け入れにも努めている。また国家試験対策のため、授業内容や方法の改善を行った。【資料 2-1-19】
総合政策学部	総合政策学科	学部独自の Web サイトを作成し、就職状況、学生の動向、学部行事の記事などについて常に新しい情報の発信に努めた。また、高校教員対象の進学説明会に参加し学部の広報に努めた。
保健福祉学部	人間福祉学科	将来の福祉専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験の合格率向上に向け、授業内容の充実や試験対策講座の充実を図っており、その内容の広報に努めた。
	看護学科	開設以来学生の動向を分析し、分析結果から高校訪問や進学説明会に参加し、学科の特徴や看護職の魅力を広報している。公募制推薦入試の学生は、オープンキャンパスの参加者で入学を決定することが多いため、オープンキャンパスのマナー化を避け、卒・在学生のメッセージ、体験型、シミュレーション授業など工夫を凝らしている。Web サイトでは学科のイベント等リアルタイムで更新している。【資料 2-1-19】
	理学療法学科	学生の学修や生活への支援や援助を行う中で国家資格取得率の向上を図るとともに、高校訪問をとおして理学療法への理解のための啓蒙活動に努めている。
	口腔保健学科	学科開設準備室教員による徳島県内外の高校訪問及びオープンキャンパスをとおして、社会のニーズに合致した人材養成目標、充実した設備・カリキュラム・教員組織など4年制歯科衛生士養成校としての本学科の優れた点をアピールした。【資料 2-1-19】
	診療放射線学科	オープンキャンパスでは全教員が参加者の興味を引く内容や演出に心掛けている。また「サイエンスキャンプ」「子ども大学」等の催しにも積極的に参画し放射線学科の広報に努めた。
	臨床工学科	国家試験対策講座を充実させ全員受験・全員合格を目標に実施内容や方法の改善を実施した。学科独自のパンフレットを作成し様々なイベントにおいて学科の存在と特性を積極的に周知し知名度向上に努めた。

徳島文理大学

文学部	日本文学科	日本語・日本文学コースと国語科教員コースの2コースを設け、人材養成の目的を明確化するとともに、学科教員による学生募集・広報活動を積極的に行った。【資料 2-1-20】
	英語英米文化学科	就職率を上げるべく、就職意識向上のための内定者による報告会を始めるとともに、教員志望学生のために、採用試験対策用の書籍も整えた。教員による積極的広報活動や Web サイトの充実により、学外へのアピールに努めた。【資料 2-1-20】
	文化財学科	2コース4分野の実習・演習を少人数制授業で行うとともに、文化財学科を周知するため、高校を訪問し進路指導の先生方に、直接説明する学生募集・広報活動を積極的に行った。【資料 2-1-19・資料 2-1-20】
理工学部	機械創造工学科	機械技術者として能力・意欲を持った卒業生を送り出すために、大々的にカリキュラム改正を行っている。講義・実験・実習をとおして、コア科目である4力学（材料力学、機械力学、熱力学及び流体力学）と制御工学の修得に努めている。
	電子情報工学科	データ解析コンペティションへの参加、近隣高校の校外研修の受け入れや出張講義など、学科のアピールに努めた。【資料 2-1-20】
	ナノ物質工学科	地域の企業と連携してノンアルコールワイン等の商品開発や、香川県の学生を対象とした「さぬきサイエンスキャンプ」を開催するとともに、香川県主催の「女子学生による私の未来発見事業」に香川薬学部との合同チームで参加し、学外へのアピールに努めた。
香川薬学部	薬学科	教員が高校を訪問し出張講義を行い、教育の特色や特待生制度、国家試験対策などを説明している。外国人留学生の受け入れや小中高校生を招いて講義や実習を行うとともに、オープンキャンパスでは来校者の興味を引く実験などを実施し、薬学のおもしろさを伝えている。【資料 2-1-20】

- ・ 四国の18歳人口は全国よりも減少率が高く、そのことも影響してか、学部・学科全体の志願者数はここ数年減少しており、さらなる志願者数増加に向けた工夫や努力が必要である。志願者の増加に向け、アドミッション・ポリシーに基づいて多様な入試制度を設け、多彩な才能を持つ高校生や社会人、外国人を受け入れる体制を敷くとともに、入学前教育の充実等により入学予定者の定着を図る取組みを進めている。【資料 2-1-3】【資料 2-1-5】【資料 2-1-16】
- ・ 高校への学生募集のため、高校教員経験者が徳島・香川県内高校の広報にあたりるとともに、愛媛・高知・岡山・沖縄県には専任の広報担当者を置き、広報にあたっている。【資料 2-1-17】
- ・ 学生募集の成果を上げるため、広報担当者の高校別学生募集目標値を定め、高校ニーズに即した情報を提供するなど広報活動の充実に努めている。【資料 2-1-21】
- ・ 本学を第1志望とする志願者は、早期（推薦・A0）入試で出願するため、平成30（2018）年度入試から定員の半分程度を推薦・A0入試で確保できるよう入試期別募集割合の見直しを行った。また、平成28（2016）年度から5月に早期入試出願者向けの「A0・推薦入試説明会」を開催している。【資料 2-1-8】【資料 2-1-18】【資料 2-1-22】
- ・ オープンキャンパス参加者の受験率は60%を越えているが、資料請求者の受験率は13%程度にとどまっている。そのため、資料請求者に対し、継続的に本学の情報を提供するためにダイレクトメール等の有効活用を進めている。【資料 2-1-8】
- ・ 入学率を高めるため、一般入試I期A・B日程及び大学入試センター試験利用入試I期入試合格の希望者に対して「学科説明会・施設見学会」を開催し、合格者が教育内容

- や施設設備等について理解を深め入学につながる取組みを進めている。【資料 2-1-23】
- 平成 29(2017)年 5 月 1 日現在の大学学部の収容定員に対する在籍学生数比率は 0.75 倍である。収容定員に沿った在籍学生を確保するためには、入学者の確保が第一ではあるが、担任・チューター制度の採用やカウンセラーの配置等、学生の相談体制を整え、退学を未然に防ぐように努めている。また、進路変更による転学部・転学科の相談にも応じている。
  - 各期の成績表発送、府県別保護者会における保護者面談、留年や出席不足学生保護者との個別面談等を実施し、保護者との連携強化にも努めている。【資料 2-1-24】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-1-1】 本学 Web ページ「受入方針（アドミッション・ポリシー）」  
※【資料 1-3-16】と同じ
- 【資料 2-1-2】 本学 Web ページ「入試情報」
- 【資料 2-1-3】 徳島文理大学入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-4】 徳島文理大学編入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-5】 徳島文理大学外国人留学生のための入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-6】 徳島文理大学大学院学生募集要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-7】 徳島文理大学専攻科入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-8】 平成 28 年度オープンキャンパス参加者数
- 【資料 2-1-9】 平成 29 年度入試進学説明会開催内容
- 【資料 2-1-10】 平成 29 年度入試ブロック別進学説明会開催内容
- 【資料 2-1-11】 2017 年度 奨学金・特待生制制度
- 【資料 2-1-12】 全学入試委員会規程
- 【資料 2-1-13】 学校法人村崎学園事務組織規程
- 【資料 2-1-14】 平成 28 年 12 月部局長会・合同教授会開催通知
- 【資料 2-1-15】 平成 29 年度 I 期 A 日程・B 日程入学試験実施計画
- 【資料 2-1-16】 平成 28 年度 e ラーニングシステムを使った入学前教育実施について
- 【資料 2-1-17】 徳島文理大学広報担当者会議規約・広報担当者一覧
- 【資料 2-1-18】 学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移（過去 5 年間）  
※【データ編・表 2-1】と同じ
- 【資料 2-1-19】 平成 28 年度高校訪問実績
- 【資料 2-1-20】 平成 28 年度出張講義実施状況
- 【資料 2-1-21】 四国四県の状況と目標値
- 【資料 2-1-22】 徳島文理大学入学試験要項①平成 30 年度入学試験要項（6 頁）  
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-23】 学科説明会・施設見学会のお知らせ
- 【資料 2-1-24】 2016 年度保護者会支部会開催のご案内

#### 【自己評価】

- 建学精神に基づいた教育研究上の目的や教育方針を掲げ、それに応じたアドミッショ

ン・ポリシーを明確に定め、入学試験要項及び本学 Web サイト等に掲載するとともに、オープンキャンパスや各種広報活動等において積極的に広報し、周知に努めているため基準を満たしていると判断している。

- ・ 入学者選抜等は学長を最高責任者として、公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもと運用している。また、すべての入学試験問題は、アドミッション・ポリシーに沿い、高等学校の新課程や志願者の多様化に合わせた本学独自の問題を作成している。
- ・ オープンキャンパス参加者や受験生、高校訪問等で得られた情報の分析はもとより、入試制度の見直しや特待生制度の創設、各学部・学科での取組み等、入学定員及び収容定員に沿った在籍学生を確保するために努めていると判断している。

### (3) 2-1 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 学部・学科の教育効果を上げ、魅力ある教育内容とするため、教職員の意識改革を図るとともに、教育課程の見直しや国家試験、就職試験対策等の再構築を図っていく。
- ・ 全学入試委員会において、現行の入試制度や新入試制度への対応がよりよいものとなるよう課題や改善策について検討していく。
- ・ 常に社会や志願者のニーズを注視するとともに、アンケート（受験者・オープンキャンパス参加者・入学辞退者）調査や授業評価等から志願者や在籍者からの声も参考に、改善に取り組んでいく。
- ・ 本学のアドミッション・ポリシーを入学試験要項、本学 Web サイト等に掲載し、広く志願者等に広報してきたが、これらに加え、各学部・学科の特色や就職状況等、志願者や保護者が求めている資料を準備し、広報担当者をはじめ本学の教職員が高校を訪問時に説明するなど、できるだけ細やかな広報を進めていく。
- ・ 高校訪問や進学説明会等を活用し、さらに多くの学生や保護者がオープンキャンパスや大学訪問をしてくれる機会をつくり、本学を理解しその魅力や優れた点をアピールするよう努めていく。
- ・ 現在実施している進学説明会（高校、会場別、分野別）の有効活用と同窓会（アカンサス）会員や職員 OB 等、関係者による学生募集活動の強化に努める。
- ・ 定員確保に向けた各学部・学科が提案する改善向上方策を入試広報部と協働し、広報活動をさらに強化していく。

## 2-2 教育課程及び教授方法

### 《2-2 の視点》

#### 2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

#### 2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

##### (1) 2-2 の自己判定

基準項目 2-2 を満たしている。

##### (2) 2-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### 【事実の説明】

#### 2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

## (1) カリキュラム・ポリシー

### ①大学学部

- ・ 大学設置基準第 19 条に則り、本学の各学部・学科においては、専門的教育（及び一部の学部・学科においては専門的職業準備教育）を実践するとともに、学生が一般総合科目及び周辺領域を幅広く学ぶことにより、深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することができるようにカリキュラム・ポリシーを設定している。

### ②大学院研究科

- ・ 各研究科の教育課程は、それぞれの専攻分野に関する高度な専門的知識及び能力を修得させるとともに、その専攻分野に関連する素養を涵養するようカリキュラム・ポリシーを定めている。

### ③大学専攻科

- ・ 各専攻科は、それぞれの専門分野を、精深な程度において教授研究し、社会の要請に応えられる人材を養成とする教育研究上の目的を踏まえたカリキュラム・ポリシーを定めている。

## (2) カリキュラム・ポリシー策定プロセスと明示

- ・ 学校教育法施行規則の改正（平成 29(2017)年 4 月 1 日施行）により、策定が義務化されることに伴い、中央教育審議会（平成 28(2016)年 3 月 31 日）から策定及び運用によるガイドラインが示された。平成 28(2016)年度の「全学教務委員会」でこのガイドラインに沿った見直し案を検討した。見直しの視点として教育研究上の目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの達成のために、①どのような教育課程を編成し②どのような教育内容・方法の実施③学修成果をどのように評価するのかを定めることを基本方針とした。作成後、部局長会と合同教授会でも審議し、大学 Web サイト、大学ポートレート、キャンパスガイドで公表した。【資料 2-2-1～資料 2-2-6】
- ・ 教育研究上の目的達成のために、各学部では学生にキャンパスガイドを配布し、かつオリエンテーションを行い、カリキュラム・ポリシーや卒業に必要な単位数、履修科目について説明している。【資料 2-2-6】

## 2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

### (1) 教育課程の体系的編成

#### ①大学学部

- ・ 本学では、学修成果や教育研究上の目的を明確化したうえで、カリキュラム・ポリシーを作成している。またその達成に向け、順次性のある体系的な教育課程を編成に努めている。この体系的な教育課程を編成するために、全学部学科でカリキュラムマップを作成している。これらのカリキュラムマップを一部の学部・学科で「履修ガイド」により、学生に提示している。【資料 2-2-7】

#### ②大学院研究科

- ・ 研究科修士課程及び博士前期課程は、広い視野に立って専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を養うことを目的として、教育課程を編成している。
- ・ 博士後期課程は、専攻分野について自立できる研究者として、研究活動を行うのに必要な高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を獲得できるように教育課程を編

成している。

### ③大学専攻科

- ・ 音楽専攻科、人間生活学専攻科及び助産学専攻科は、「専攻科規則」に基づいた教育課程を編成している。
- ・ シラバスは「シラバス作成要領」により、カリキュラム・ポリシーに沿った内容になるよう作成している。【資料 2-2-8】
  1. 学士課程教育の質的転換を目的とした学修時間の実質的な増加・確保を図るため、授業時間外学習の欄を設け学生に事前の準備や事後の展開等、時間外学修を促すための取組みを行っている。【資料 2-2-8】
  2. 平成 28(2016)年度から到達目標について、観点別の視点①知識（理解）②態度（関心・意欲）③技能（表現）④思考・判断の領域別に記入することとしている。また、「オフィスアワー」について記入するようにしている。【資料 2-2-8】
  3. シラバスの記載内容が適正か否かについては、各学部長・学科長等が点検している。【資料 2-2-9】
- ・ 単位制度の実質を保つため、大学設置基準の第 27 条の 2 に則り、履修登録単位数の上限を定め、「履修要綱」に示している。履修要綱には、「各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は原則として 40 単位とする。ただし、各学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、40 単位を超えて履修科目の登録をすることができる。したがって、その上限を考慮して適切な履修計画を立てなければならない。」と規定している。担任並びにチューターはその上限を考慮して適切な履修計画を立てるよう指導している。【資料 2-2-10】
- ・ これまで 1 年を前後期に分け、1 つの科目を 1 週間に 1 コマで 15 週履修する Semester 制を実施していたが、平成 26(2014)年度から一部の科目で前期・後期をそれぞれ二つに分け、1 週間に 2 コマで 8 週履修するクォーター制を導入した。本学のクォーター制の導入のねらいは下表の通りである。【表 2-2-1】

【表 2-2-1】クォーター制導入のねらい

クォーター制導入のねらい
<p><b>①受講科目数を減少させ、学修に集中することで、理解度を向上させる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講科目数が減り、講義が週 2 回行われるため、学修に集中でき、講義毎の理解度を向上させることができる。</li> <li>・ 講義内容の進度が速くなるため、緊張感を持って学修ができる。</li> <li>・ 記憶が薄れる前に次の授業があり、学修記憶のアップにつながる。</li> </ul>
<p><b>②試験時の負担が分散し、試験の評価が上がる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講科目数が減るため試験科目が減少し、定期試験時の負担が分散して勉学に集中できるため、試験の評価が上がる。</li> <li>・ 再試験となる科目数も減少する。</li> </ul>

### (2)教授方法の工夫・開発

- ・ 教授方法の工夫・改善については、「FD 研究部会」が中心となり取り組んでいる。主

なものは、①授業改善や学生理解のための FD 研修会・講演会の学内開催と学外研修会への派遣、②全学部で実施する研究授業と意見交換会、③授業に対する学生の授業評価アンケート及び評価結果に対しての教員からのフィードバックである。【資料 2-2-11】

- 研究授業は「教員相互による授業参観」や授業技術向上のための目標・実施期間を設定した「目標設定型」を設けており、研究授業後における意見交換会での討議等とおして授業改善を図っている。【資料 2-2-11】
- 大学学部での授業評価アンケートは、教員には授業に対する改善点の発見を、学生には授業への取組みを向上させる契機になることを求めている。そのため、評価結果に対するフィードバックを「アクションプランシート」にまとめ、結果と併せて学内の端末から Web で閲覧できるようにしている。【資料 2-2-12】
- 新入生導入教育として「文理学」を開講し、必修科目 2 単位として、初年次の教養科目として位置づけている。授業計画として、最初に理事長が「徳島文理大学の建学精神と歴史」について、次に学長が「なぜ大学で学ぶのか」についての講義を行う。それ以外の内容については、キャリア教育に関する講義、本学主催の公開講座の聴講と各学部・学科で行われる本学での学びに関するスタディ・スキルズに関する講義等を行っている。また、平成 26(2014)年度から地域学としてフィールドワーク「遍路ウォーク」並びに徳島県知事やさぬき市長による講演等、地域を知るための講義を行っている。【資料 2-2-13・資料 2-2-14】
- 教授方法の工夫・開発についての各学部の取組み状況をまとめた。【表 2-2-2】

【表 2-2-2】 学部別教授方法の工夫点

人間生活学部	<p>人間生活学部は文系から理系まで多様な学科から構成されていることから、教育方法については各学科の特性に応じた多様な工夫・開発が行われている。</p> <p>例えば、各種教員免許、管理栄養士、保育士、認定心理士、一級建築士等、各種資格取得に関連した実習・施設見学を積極的に実施しているほか、電子黒板、タブレット PC、医療教育機器、改訂版心理検査、4K 映像機器、3D プリンター、ドローン等の最新機器を用いて授業を行い、社会や技術の変化に対応した教育を行うよう努めている。</p> <p>さらに、各学科の専門性に応じた地域密着型の調査研究や少人数によるゼミ制などによって、学生のアクティブ・ラーニングを促し、多様な専門性を基盤とした社会人としてのコンピテンシーを身に付けるよう指導している。</p>
音楽学部	<p>音楽学部では、教育方法の工夫・開発について、全コースに対し履修ガイドを作成し、それに基づいて個別指導を行っている。科目によっては、Google Classroom の利用、アクティブ・ラーニングを導入し、その他、最終年次に開講している「音楽療法実習Ⅲ」では、学生が進路選択に合わせて実習施設と対象者を選択できるようにしている。</p>
薬学部	<p>薬学部では、文部科学省認定の 6 年制薬学教育モデル・コアカリキュラムを遵守した教育課程を編成している。そのなかで、以下の工夫・開発を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入学前教育：A0 入試、指定校推薦入試合格者に対して、合格時に化学、生物、数学の教材を送り、合格者 1 人に対して本学教員 1 人が責任を持って入学前教育を担当している。さらに、全学共通教育センターの e-ラーニングを利用して学生に自己学習させる。</li> <li>2) 1 年 4 月初めの学力試験：薬学教育で必要な化学、数学、物理、生物の学力診断試験を実施し、入学者の学力を把握し、補講が必要と思われる学生は、薬学教育センターの指導により全学共通教育センターで開講されている基礎知識の講座を受講するように個別指導している。さらに、7 月後半にも同様の学力診断試験を実施し、前期での学生の学習修得度を確認している。</li> <li>3) 講義の宿題（課題）：1, 2 年生の化学、生物、数学などの基礎科目について、毎回、講義の後に宿題（課題）を与える。課題は次の朝までに解き、所定のポストに投函することとなっている。教官は、宿題を添削し、講義に対する学生の到達度を理解している。これに</li> </ol>

<p>薬学部</p>	<p>よりただ授業を聞くだけではない自己研鑽型の学習態度を早期に身に付けさせる。</p> <p>4) 自己研鑽・参加型学習早期体験学習：1年基礎ゼミナール、基礎薬学演習1、2年基礎薬学演習2と臨床薬学概論、3年チーム医療論と医薬品情報学演習1。少人数（5～7人）での討論を行い、参加型の学習態度の醸成に配慮した教育を行う。課題発見能力、問題解決能力、コミュニケーション能力の習得を図る。</p> <p>5) 問題演習：1年生後期の基礎薬学演習1では、前期で成績下位の学生に、講義で出される問題を解かせ、教員8～10人が、質問や不明な点を対して丁寧に教えている。1-3年で講義とは別の時間に、薬学の専門科目に対して担当教員が講義に関する問題を解かせ、講義の理解度の強化を図っている。</p> <p>6) 目標到達度評価試験：学生たちの学習熟度を客観的に評価するため、従来の定期試験以外に前期・後期の半ば及び終盤にCBT形式による特別演習試験を実施し、学生の目標到達度を評価している。その結果を学生と講義担当教員にフィードバックし、講義の中に抜け落ちている箇所がないか、学生が理解しにくいところはどこかなど、今後の学生達の学習計画及び教員の教育方法の改善に役立てている。</p>
<p>総合政策学部</p>	<p>総合政策学部では、初年次教育の「文理学」と「基礎総合演習」を連結し、調査研究能力や、プレゼンテーション、レポート作成能力を高めるよう工夫をしている。</p> <p>専門基礎科目の一部の科目に「アクティブ・ラーニング」を導入し、授業外での学習時間の確保、ミニッツペーパーによる評価やペアワークによる考える授業を行っている。</p> <p>総合政策学の理論を実際に適用しうる成果を出すために「卒業研究」を全員が行うよう、チューター制度と並行して進める工夫をしている。</p>
<p>保健福祉学部</p>	<p><b>【人間福祉学科】</b>          ソーシャルワーカーである社会福祉士・精神保健福祉士として、実践力の高い専門職の養成をめざし、文部科学大臣・厚生労働大臣が定めた基準を遵守したカリキュラムを編成している。そのなかで、専門職として現場での実践力・即戦力を養うため、1年生から施設見学・研修、体験学習、ボランティア体験、また、当事者や福祉現場の職員を招いての特別講義を実施するとともに、アクティブ・ラーニングの一環として相談演習に力を入れ、将来の福祉専門職としての基盤形成のために教育方法に工夫・開発を行っている。</p> <p><b>【看護学科】</b>          看護職として看護実践能力を確実に身につけるために、講義・演習・実習の順序で系統的に学習できるカリキュラムを構築している。教育方法は、全学年を通じて少人数グループ学習による看護技術演習や参加型学習、問題解決型学習を展開しており、看護職に必要な問題解決能力及び対人スキル、コミュニケーション能力が段階的に修得できるよう工夫している。また、関連職種を養成する学部の特性を生かし、学生を学科横断チームに編成し、高機能シミュレータや生体モデルを用いて、より実践的なシミュレーション学習を行っている。</p> <p><b>【理学療法学科】</b>          以下に挙げる教育概念に基づいて教育を実践している。          ・理学療法士は「健康に関わる専門職 (Allied Health Profession)」である。          ・理学療法は「人がより健やかに生きていくための支援 (Physical Therapy for Well-being in Life)」である。          これらの実現のための教育方法として、以下の工夫・開発をしている。          ・1年次に「理学療法基礎セミナー」を開講することによって、入学時から学習全般について、特に基礎医学と基礎理学療法の学習に対する認識と理解を促す。          ・教育機器の充実を計ることで、特に演習・実習関連の知識と技術の向上を促す。          ・1～4年次をとおしての経年的（継続的）な臨床実習による実践重視のカリキュラムを設定          ・3年次「理学療法研究セミナー」、4年次「卒業研究」の2年間の継続した基礎研究（学内外）に基づき、将来の研究活動を促す。</p> <p><b>【診療放射線学科】</b>          ディプロマ・ポリシーに則り、チームの一員を担う診療放射線技師教育を心がけている。入学後まもなく早期体験学習として、近隣の大学附属病院を見学し、診療放射線技師の業務と使命を学ぶ。3年生からの学内演習では、学内に導入されている最先端の医療機器を操作し、臨床経験豊かな教員により、臨床に即した実習内容となっている。</p> <p><b>【臨床工学科】</b>          医療と工学の連携を円滑に図るための基礎知識や技能の修得に加え、進歩する高度医療機器及び新技術への柔軟な対応能力を備えた臨床工学技士を育成し、総合的・実践的な能力を深められる教育を実施する。工夫の具体的なものは、(1)小テスト実施と解説、(2)グループディスカッションをとおして問題解決へ導く、(3)座席を定期的に変え、気分転換と集中力を期待、(4)基礎実験を座学に取り入れ、理解度を深める。</p>



徳島文理大学

<p>文学部</p>	<p>初年次より五つの領域（日本語・情報・プレゼン・社会領域・歴史領域）を共通基礎科目群として設置し、一般総合科目とは差別化させた学部としてのスタンダードを体得させ、基本的なコミュニケーション力及び日本・欧米の文化や歴史など幅広い教養の養成を行い、就職支援にも繋げている。国際的視野を養う機会として、韓国の檀国大学や香港城市大学の学生たちと交流する機会を設けている。専門教育においては、少人数教育による主体性と学び合いを重視している。</p>
<p>理工学部</p>	<p>理工学部では、教授法の工夫について、専門教育を受けるうえで重要となる数学と物理に関しては、入学時に理工学部独自の学力診断テストを行い、習熟度に応じてクラスを分け、それぞれの学力に適した講義を行っている。また、全学共通教育センターと連携し、Web教材を利用した自主学習を促している。さらに、初年次教育の「文理学」では、チューターとの面談を経てレポートを完成させる理工学部独自の宿題を毎回課し、チューターと学生との信頼関係を高めるとともに、学生の状況を正確に把握することに努めている。なお、好きなきに好きなだけ「ものづくり」に挑戦できるチャレンジラボや、教員と学生が一体となって、学生のアイデアを創造する体験教育支援センター等を設置した研究環境のもとで、独創的な研究や新技術の開発に着手できるよう工夫している。</p> <p><b>【ナノ物質工学科】</b>          明確な学修意識を持たせるため、危険物取扱者、毒劇物取扱責任者、公害防止管理者、パイオ技術者認定試験など学科の教育内容と関連する資格の取得を推奨し、受験対策の演習に取り組む時間を授業とは別に設けている。また、研究室ごとに行われる「プロジェクトラボB」では、卒業研究を進めるうえで必要な知識と技術の習得だけでなく、学生の調査研究能力やプレゼンテーション力を高めるため、学期末に発表会を開催している。なお、体験教育支援センターの活動のひとつとして、志度湾 NOZOMI プロジェクトを実施している。</p> <p><b>【機械創造工学科】</b>          初年次学生が機械の仕組みを知り、機械に親しんで学修意欲を維持できるように、工具を使って簡単な機械を分解し、スケッチ・測定し、組み立てる実習を行っている。また、「物理実験」、「機械工学実験」といった実験の科目では、最後に個人、あるいは、グループによる発表の時間を設けている。これにより、各学生をプレゼンテーションに習熟させ、グループ員相互の討議と啓発の体験をさせるとともに、コミュニケーション能力の育成を狙っている。さらに、ロボット教育の一環として、マインドストーム（レゴロボット）を活用し、低学年から原理や制御方法を学修させている。実習では、少人数グループに分けて課題解決のために共同作業をさせることで、問題解決能力が向上するようにしている。</p> <p><b>【電子情報工学科】</b>          コンピュータの仕組みを理解させるため、初年次にパソコンの組立実験を実施し構成部品の形状・役割・機能・接続方法および基本ソフトウェアのインストール方法を体得させている。C言語の実習で用いるCの開発環境の構築やネットワーク接続の実験も行い、科目間の連携を図っている。体験教育支援センターの活動として「情報処理研究クラブ」を設け、国家試験である基本情報技術者をめざす講座を実施しており、さぬき市のIT人材育成特区指定を受け、本講座の修了試験合格者は基本情報技術者試験の午前試験が免除される仕組みとしている。BPL (Project Based Learning) としてシステム開発のグループワークを実施する実験科目を設け、専門的知識の継続的な学修能力とコミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。</p>
<p>香川薬学部</p>	<p>香川薬学部では、文部科学省認定の改定6年制薬学教育モデル・コアカリキュラムを遵守した教育課程に基づき学習成果基盤型教育に力点を置いて、本学部のアウトカムであるディプロマ・ポリシー、「薬剤師として求められる基本的な資質」を設定し、以下の教授法の工夫・開発を行っている。</p> <p>1) 入学前基礎学力増進教育：A0、指定校推薦、公募制推薦入試合格者に対して、合格時に国語・数学・化学・生物の問題集を送り、課題を提出させて、添削を行っている。また、全学共通教育センターのeラーニングを利用して学生に自己学習を行わせている。さらに、12月、3月にスクーリングによる学習（「初年次教育の概略」「薬剤師教育の概略」など）を行っている。</p> <p>2) 初年次教育による基礎学力の強化：入学時のプレイスメントテスト1の成績の中位・下位層の学生に対して、高校の化学、生物、物理の演習を開催し基礎学力の強化を図っている。7月後半にはプレイスメントテスト2を実施し、前期での学生の学習到達度を確認している。薬学関連科目ならば、いつでも質問ができる「基礎教育指導（個人指導）」並びに放課後学習としての「薬学初年次講座」を定期的に開催し、落ちこぼれを防ぐ個別指導を講じている。薬学関連科目の講義と連動させて演習、「アカデミックスキル」、「基礎薬学演習1」をカリキュラムに取り入れて記憶と理解度の定着、学習到達度の確認を行っている。全学共通教育センターと協同運営により、1年生から6年生まで誰でも参加できるeラーニングを活用している。</p> <p>3) 自立型、自己研鑽型学習の醸成：1～4年生の基礎科目及び専門科目に対して、毎回、講義</p>

香川薬学部	<p>の後にホームワークやミニテストの形で課題を与えて、学習者に講義内容の確認を行わせている。ホームワークは数日以内に提出を求め、教員はホームワークを評価し、学生にフィードバックしている。ホームワークにより学生の自立型、自己研鑽型学習を醸成させている。</p> <p>4) 医療人としての薬剤師の養成：「薬剤師の心構え」、「早期体験学習」、「地域医療学」、「救急医療学」、「実践地域医療学」、「事前学習」、「チーム医療学」、「医療社会薬学コミュニケーション学」など年次進行に伴い医療系科目を充実させるとともに、少人数討論(SGD)を行い、参加型の学習によりコミュニケーション能力を養い、自ら課題設定し問題解決する能力を醸成している。</p> <p>5) 豊かな人間性と高い倫理観や使命感の醸成：社会貢献活動や災害や介護などのボランティアに参加する「実践社会福祉」(体験学習・ボランティア)を1～6年次通年で取り組むことができる体制を整え、豊かな人間性と高い倫理観や使命感の醸成に役立っている。</p> <p>6) 自己学習の推進：4年次に自身の実力を把握するための月別演習試験を実施し、学習進度に応じて、4年生を成績別6段階、能力別3コースに分けた演習頻度と演習難易度別の演習を実施し、自己学習をサポートし、学生の「やる気と能力」を最大限に引き出し、自己研鑽による学力向上を図っている。</p> <p>7) ES (education staff) 制度の導入：この制度は、学生自身による自主的なグループ学習の育成をめざして導入したもので、学年ごとに数人の学生に委嘱したESが中心となって、やり方、頻度等は自由に企画して、多くの学生が苦手とする基礎科目や薬学専門科目の勉強会を実施し、学力を向上させている。この目的のために、24時間利用可能なゼミ室6室のうち1室をグループ学習専用にて充てている。</p> <p>8) アクティブ・ラーニングの導入：薬物治療学2ではクリッカーを用いた双方向講義、薬理学3、4ではGoogleClassroomを用いた交流の場の設定をしている。「事前学習・副作用の初期症状と検査所見」では、薬剤師生涯学習のためのeラーニング「副作用診断教育プログラム」を活用した反転授業に取り組んでいる。学生は自己学習したことを互いに教えあうことで、積極的に授業に参加するようになり、学生の授業態度に好ましい変化が見られている。</p> <p>9) 学生のニーズや将来の進路に合わせた教育：5年生に「アドバンスト教育プログラム」を配置し、臨床薬学、地域医療、東洋医療薬学アドバンスト実務実習、実践地域医療学、人体解剖学アドバンスト講義など、学習者のニーズや将来の進路に合わせた教育を実践している。</p> <p>10) 多職種連携教育(IPE)の実践：本学保健福祉学部診療放射線学科及び臨床工学科と少人数討論(SGD)、香川大学医学部医学科と症例検討会を連携して教育力の向上を図っている。</p> <p>11) 研究マインドの醸成：低学年(1年生後期)から、「特別実習」を配当し、研究活動を学び、課題設定能力、問題解決能力を醸成している。</p>
-------	--

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-2-1】 本学 Web ページ「教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)」
- 【資料 2-2-2】 全学教務委員会要綱 ※【資料 1-3-12】と同じ
- 【資料 2-2-3】 全学教務委員会平成 28 年度議事 ※【資料 1-3-13】と同じ
- 【資料 2-2-4】 平成 28 年 12 月部局長会・合同教授会開催通知  
※【資料 2-1-14】と同じ
- 【資料 2-2-5】 大学ポートレート私学版 Web ページ「徳島文理大学」  
※【資料 1-3-18】と同じ
- 【資料 2-2-6】 平成 29 年度キャンパスガイド (209-216 頁) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-7】 履修ガイド・要覧 I・II ※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-2-8】 2017 年度 WEB シラバス依頼・シラバス作成要領
- 【資料 2-2-9】 各学科によるシラバス点検表 (シラバスの第 3 者チェック)
- 【資料 2-2-10】 平成 29 年度キャンパスガイド (32 頁) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-11】 平成 28(2016)年度 FD 研究部会活動報告書 (6-11 頁)
- 【資料 2-2-12】 授業評価アンケート結果とアクションプランシートの公開について
- 【資料 2-2-13】 平成 29 年度キャンパスガイド (33 頁) ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-2-14】 徳島文理大学「文理学（地域学を含む）」について

※【資料 1-3-9】と同じ

【自己評価】

- ・ 教育研究上の目的を踏まえたカリキュラム・ポリシーは、中央教育審議会（平成 28(2016)年 3 月 31 日）から出された策定及び運用によるガイドラインに沿って見直し、全学部・学科で適切に作成し、本学 Web サイト、大学ポータル、キャンパスガイドで公表しており、明確化されていると判断している。
- ・ 本学のカリキュラム・ポリシーは、各学部・学科の教育研究上の目的に即して策定されている。各学部・学科はカリキュラムマップを作成しており、基礎的内容から専門性の高い内容まで体系的に教育課程が編成されていると判断している。
- ・ 授業内容・方法については、カリキュラム・ポリシーに基づき、各学部・学科の特性に応じた、多様な工夫・開発が行われていると判断している。
- ・ 単位制度の実質を保つため、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を原則として 40 単位とすることを定め、キャンパスガイドの「履修要綱」に示している。担任・チューターはその上限を考慮して履修計画を立てるよう、適切に指導を行っているものと判断している

(3) 2-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 履修登録単位数の上限により、各年次にわたって適切に授業科目を履修できるよう引き続き、きめ細かい履修指導を行うように努める。
- ・ シラバス作成については、シラバスの記載内容が適切か否かについて、担当教員以外の第三者がチェックする体制の充実に努める。

2-3 学修及び授業の支援

《2-3 の視点》

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA( Teaching Assistant) 等の活用による学修支援及び授業支援の充実

(1) 2-3 の自己判定

基準項目 2-3 を満たしている。

(2) 2-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA( Teaching Assistant) 等の活用による学修支援及び授業支援の充実

- ・ 新入生対象基礎学力診断テストを実施して、結果を学生並びに学部・学科教員に返却し、今後の学修指導に生かしている。【資料 2-3-1】
- ・ 全学部・学科で担任・チューター制度を採用し、「学習ポートフォリオ」を活用して、学生の学修支援と生活支援を行っている。【資料 2-3-2】
- ・ 本学では、「全学共通教育センター」「地域連携センター」「語学センター」「情報セン

ター」を設置し、担任・チューターと連携して、学生の学修支援を行っている。【資料 2-3-3】

- ・ 全学共通教育センターでは、学部・学科教員と連携して「学力充実対策講座」を開講し、学生の学修を支援している。また、「教員養成対策講座」、「公務員試験対策講座」を実施し、学生の進路の実現を支援している。【資料 2-3-4～資料 2-3-6】
- ・ 全学共通教育センターでは、学部・学科と連携して新生に対して必修科目として「文理学科」を実施し、「徳島文理大学の建学精神と歴史」「なぜ大学で学ぶのか」「共生社会の担い手として」「キャリアガイダンス」の講義と各学部・学科でのスタディ・スキルズの指導を行っている。【資料 2-3-7】
- ・ 地域連携センターでは、学部・学科と連携して必修科目として「地域学」を実施し、地域の産業、文化、歴史を学び、地域を理解し、地域と関わり、地域に貢献する意識を育てている。【資料 2-3-7】
- ・ 徳島キャンパスの語学センターでは、英語教員による「英語ステップアップ講座」を開講している。また、外国人教員による「イングリッシュチャットタイム」「コリアンチャットタイム」「中国語チャットタイム」等を開講し、英語をはじめとした外国語の学力向上に努めている。香川キャンパスでも少人数で韓国語を楽しむプログラム「韓国語チャットミーティング」等を開講している。また、英語の勉強方法や資格試験に関することも親身になって相談できる体制が整っている。【資料 2-3-8・資料 2-3-9】
- ・ 「教職履修カルテ」システムの活用をとおして、教員をめざす学生にきめ細かな支援を行い、学生の意識と教職実践力の向上に取り組んでいる。【資料 2-3-10・資料 2-3-11】
- ・ 全学部・学科でオフィスアワーを設定し、シラバスに記入している。また、各研究室のドアにオフィスアワーの時間を掲示し、学生からの質問や相談に応じている。【資料 2-3-12・資料 2-3-13】
- ・ 徳島キャンパスの全学共通教育センターが行っている「学力充実対策講座(数学講座)」では、教員のアシスタントとして、SA(Student Assistant)が受講学生の個別指導にあたっている。【資料 2-3-14・資料 2-3-15】
- ・ 香川キャンパスの全学共通教育センターでは、主に一般総合科目担当者が学修指導を担当し、大学入学初期における高校からの主要科目(数学、物理、英語等)の橋渡しの役割を果たしている。また、2年以降の学生を対象とし、専門科目の基礎となる応用数学、工業数学等の指導も行い、学生からの質問にも適宜対応している。【資料 2-3-16】
- ・ 国家試験のある学部・学科では、留年者が多い。薬学部では「教育センター」の教員が留年生の担当を決めて、面談を頻繁に行い緻密な指導を実施している。香川薬学部は、学生自身による自主的なグループ学習の育成をめざして ES(education staff)制度を導入している。学年ごとに数人の学生に委嘱した ES が中心となり、やり方、頻度等は自由に企画して、多くの学生が苦手とする基礎科目や薬学専門科目の勉強会を実施し、学力を向上させている。教員は ES を育成し、その活動を支援するために必要な指導、助言、援助を行っている。【資料 2-3-17・資料 2-3-18】
- ・ TA(Teaching Assistant)として、大学院研究科に在学する学生が教員の教育的配慮のもとに、大学学部と博士前期課程(修士課程)の学生に対する教育的補助業務等を行

っている。【資料 2-3-19】

- 大学院博士課程（薬学研究科）または博士後期課程の学生が大学院研究科長の監督のもと、研究代表者の指導に従い、RA(Research Assistant)として研究プロジェクト等の研究補助に従事している。【資料 2-3-20】
- 本学には、学長を委員長とし、各学部長・学科長等が委員である「退学者防止対策検討委員会」が設置されている。この委員会では、退学者の実態調査を実施するとともに、退学者防止対策として全学的に取り組む具体的な内容に関して検討している。【資料 2-3-21】
- 平成 28(2016)年度は徳島キャンパス・香川キャンパスで別々のワーキンググループを結成し、退学の理由を①心身不調（心の問題）②学力不足③経済問題④進路変更に分類して、対策を少人数で検討した。【資料 2-3-22】
- 一部学部において、平成 23(2011)年度から 4 月に新入生を対象とした 1 泊 2 日の宿泊セミナーを実施してきたが、退学者防止対策のひとつとして、平成 28(2016)年度から全学部・学科において実施することとした。学生は友人作りとともに、相互理解を深め、充実した大学生活を送るためのスタートができる。また、教員にとってはグループワークに入れないなど、大学生活を送るうえで今後ケアが必要と思われる学生を発見できる機会となっている。【資料 2-3-23】
- 退学の理由が心身不調（心の問題）である場合の対応として、保健センターにカウンセリング室を設置し、非常勤のカウンセラーが学生の相談に対応している。【資料 2-3-24】
- 休学者は平成 25(2013)年度から在籍料のみで休学できるように変更した。この結果、退学者が減少し、休学者が増加した。休学中の学生には、チューターや担任による学修指導や治療への専念や経済的な問題の解決等も指導している。【資料 2-3-25】
- 退学者、休学者及び留年者への対応として、「身分異動に関する連絡協議会」で大学学部・学科の教員と学園本部・総務部・教務部・学生部の事務職員が協働で「身分異動リスト表」をもとに協議している。【資料 2-3-26】
- 学生からの相談や要望は、担任やチューターによる面談、食堂に設置している「改善意見箱（目安箱）」等を通じてくみ上げられる。授業に関しては、授業評価アンケートを実施し、自由に感想や意見、要望を記載できる欄を設けている。また、評価結果に対するフィードバックを「アクションプランシート」にまとめ、結果と併せて学内の端末から Web で閲覧できるようにし、授業改善に関する学生のコメントを教員が次期以降の授業でどのように対応するのか、学生が知る機会となっている。【資料 2-3-27～資料 2-3-29】

#### 【エビデンス集・資料編】

【資料 2-3-1】 新入学生オリエンテーション（1 頁） ※【資料 1-3-8】と同じ

【資料 2-3-2】 学習ポートフォリオ（学生用）取扱説明書

【資料 2-3-3】 平成 29 年度学校法人村崎学園組織(事務関係)

【資料 2-3-4】 本学 Web ページ「全学共通教育センター」

【資料 2-3-5】 平成 29 年度キャンパスガイド（24-25 頁） ※【資料 F-5】と同じ

- 【資料 2-3-6】 H28 年度全学共通教育センター利用状況
- 【資料 2-3-7】 徳島文理大学「文理学（地域学を含む）」について  
※【資料 1-3-9】と同じ
- 【資料 2-3-8】 本学 Web ページ「語学センター」
- 【資料 2-3-9】 新入学生オリエンテーション（43-51 頁） ※【資料 1-3-8】と同じ
- 【資料 2-3-10】 平成 29 年度教職履修カルテ説明会資料
- 【資料 2-3-11】 教職履修カルテ（学生用・教員用）取扱説明書
- 【資料 2-3-12】 平成 29 年度キャンパスガイド（7 頁） ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-3-13】 2017 年度 WEB シラバス依頼・シラバス作成要領 ※【資料 2-2-8】と同じ
- 【資料 2-3-14】 学力充実講座 SA（学生指導員）一覧
- 【資料 2-3-15】 スチューデント・アシスタント規程
- 【資料 2-3-16】 全学共通教育センター（香川キャンパス）における専門基礎指導の受講実績及び基礎教育担当者名簿
- 【資料 2-3-17】 本学 Web ページ「薬学教育センター」
- 【資料 2-3-18】 香川薬学部における Education Staff 制度運用規則試案
- 【資料 2-3-19】 ティーチング・アシスタント規程
- 【資料 2-3-20】 リサーチ・アシスタント規程
- 【資料 2-3-21】 退学者防止対策検討委員会設置要領
- 【資料 2-3-22】 退学者防止対策検討委員会議事
- 【資料 2-3-23】 新入生宿泊セミナー運営委員会資料抜粋
- 【資料 2-3-24】 保健業務実施記録（平成 28 年度）
- 【資料 2-3-25】 徳島文理大学学則（44 頁） ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-3-26】 身分異動に関する連絡協議会議事・身分異動リスト表
- 【資料 2-3-27】 改善意見箱（目安箱）の投函件数と内容について
- 【資料 2-3-28】 授業評価アンケート用紙
- 【資料 2-3-29】 授業評価アンケート結果とアクションプランシートの公開について  
※【資料 2-2-12】と同じ

#### 【自己評価】

- ・ 全学共通教育センターで行われている講座は、学生の学修意欲と基礎学力の向上に堅実な成果を上げていると判断している。
- ・ 「退学者防止対策検討委員会」及びそのワーキンググループの活動に加え、新入生宿泊セミナーの実施や休学に伴う経済的負担の軽減等の制度整備により、退学者防止に向けた積極的な取り組みを行っている判断している。
- ・ 教員の教育活動及び学生の学修を支援するために、TA、RA、SA 等を適切に活用していると判断している。

#### (3) 2-3 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 香川キャンパスの全学共通教育センターにおいて、生化学や分子生物学、電気・電子工学等の専門科目を学び始めた学生に対し、これらに関する基礎的な内容の理解を支

援するためにも学部専門科目担当者を加えて充実を図っていく。

- ・ 「教職履修カルテ」を活用し、学生が大学生活全体をとおして教職に向けて計画的に学ぶことを自覚させる。そのために説明会や研修会では、各学年の学修目標や学修内容、身につけるべき資質・能力等について情報提供していく。
- ・ 退学者防止対策については、さらにその原因分析の精度を上げ、より有効な防止対策を模索していく。また、新入生宿泊セミナーについては、学部・学科の特性に応じたプログラムを実施するなど、参加者の満足度向上を図り、退学者防止の効果をより上げていくことをめざしていく。

## 2-4 単位認定、卒業・修了認定等

### 《2-4の視点》

#### 2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

##### (1) 2-4の自己判定

基準項目 2-4 を満たしている。

##### (2) 2-4の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### 【事実の説明】

#### 2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

- ・ 本学におけるディプロマ・ポリシーについては、「全学教務委員会」で議論した。大学学部・学科、大学院研究科、大学専攻科の教育理念に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するかのディプロマ・ポリシーを作成した。作成に関しては【知識・理解】、【関心・意欲・態度】、【思考・判断】、【技能・表現】の観点別に表記することを基本方針とした。作成後は「部局長会」及び「合同教授会」でも審議・決定し、大学 Web サイト、大学ポータル、キャンパスガイドで公表している。【資料 2-4-1～資料 2-4-4】

##### (1) 単位認定

- ・ 本学の授業科目の単位認定については、学則第 7 章「単位及び履修方法」第 8 章「単位認定、卒業及び学位」で定め、学生及び教職員に周知している。カリキュラム・ポリシーではディプロマ・ポリシーに従う学修成果の評価のあり方について記載し、すべての科目において、教員はシラバスで明示している評価方法に則って公正に成績評価を行っている。【資料 2-4-5～資料 2-4-7】
- ・ 教育上有益と認められるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。【資料 2-4-8】
- ・ 編入学の学生の既修得単位の認定については、編入学試験要項に明記している。人間生活学部・保健福祉学部・総合政策学部・音楽学部・理工学部・文学部は本学に入学する以前に短期大学等で修得した単位は 62 単位までは本学で修得したものと認め、本学の卒業に必要な単位に加えることができる。薬学部と香川薬学部は提出された単位修得証明書に記載された履修科目の中で編入学に応じて 1～3 年次までの履修科目に読み替え可能な科目を本学で修得したものと認め、卒業に必要な単位に加えて

いる。【資料 2-4-9】

- 授業科目の単位は、45 時間の学修をもって 1 単位とする。ただし、この学修時間には教室外における自学自習も含めて計算する。その割合は授業形式によって異なり次のように定めている。なお、本学の授業は、90 分をもって 1 講時とする。休講の場合は、必ず補講をする。【資料 2-4-5】【表 2-4-1】

【表 2-4-1】 学修時間

授業形式	学修時間
講義及び演習	15 時間から 30 時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
実験・実習及び実技	30 時間から 45 時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
芸術等の分野における個人指導による実技	別に定めるところによる。

- 履修要綱において、授業科目の単位は、授業時数の 3 分の 2 以上出席履修し、かつ試験に合格したときに認定すると定めている。試験は必ずしも筆記試験によらず、演習成績、学修態度、報告書などをもってその全部又は一部に代えることがある。【資料 2-4-10】
- 試験・成績評価についても履修要綱に則って実施し、例えば、各科目の学期末成績は、100 点法によって評価し、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とする。学生に通知する成績は素点で示す。さらに、学外に発行する成績証明書では、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし、優・良・可を合格として履修単位を認定する。59 点以下は記載しない。【資料 2-4-10】
- 本学は、平成 22 (2010) 年度から GPA (Grade Point Average) を導入した。本学の GPA は下記のグレード・ポイントから算出している。【資料 2-4-10】【表 2-4-2】

【表 2-4-2】 グレード・ポイント

評 価	得点	G P
優	90～100	4
	80～89	3
良	70～79	2
可	60～69	1
不認定／再試	0～59	0
追試／保留／取消 通年科目の途中評価	対象外	

- 徳島キャンパスでは、その学期に履修した科目のみについて算出した「当期 GPA」と、入学後すべての学期で履修した科目について算出した「累積 GPA」の 2 種類を成績通知書に記載している。特に、入学生には、新入生オリエンテーションの際に、GPA 制度について詳しく説明している。また、香川キャンパスでは、新入生の保護者に対して前期成績通知書送付の際、GPA 制度についての説明文を同封している。【資料



2-4-11・資料 2-4-12】

- GPA を学修指導のアドバイスに活用したり、奨学金受給者の校内選考の資料としても使用している。【資料 2-4-13～資料 2-4-18】【表 2-4-3】

【表 2-4-3】 GPA 活用状況

学部	学科	活用状況
人間生活学部	人間生活学科	・学外実習への判断材料として活用
	食物栄養学科	・全国栄養士養成施設協会会長賞の選定 ・大塚芳満記念財団の奨学生受給者選考
	児童学科	・小学校教員採用試験の大学特別推薦者の選考 ・全国保育士養成協議会会長表彰者の選考 ・各種奨学金取得者の選考
	メディアデザイン学科	・卒業研究の履修資格条件
	建築デザイン学科	・履修単位登録の加算条件として活用 ・建築学会四国支部長賞の選定
	心理学科	・大学院の特別推薦者の決定
音楽学部	音楽学科	・履修登録単位の上限を超えて登録する基準
総合政策学部	総合政策学科	・大学院の推薦入試の受験基準 ・履修登録単位の上限を超えて登録する基準
保健福祉学部	看護学科	・看護学実習の先修要件
	理学療法学科	・履修登録単位の上限を超えて登録する基準
	口腔保健学科	・履修登録単位の上限を超えて登録する基準
理工学部		・大学院の特別推薦者の決定
香川薬学部		・特待生継続見直しの判断

(2) 進級要件

- 人間生活学部食物栄養学科、薬学部、保健福祉学部看護学科・口腔保健学科・臨床工学科・診療放射線学科、理工学部、香川薬学部は進級要件を定めており、「履修ガイド」並びに「要覧」に明記している。【資料 2-4-19～資料 2-4-24】

(3) 卒業要件

- 大学学部の卒業要件は、学則に定められており、学部教授会の意見を聞き、学長が卒業を認定する。【資料 2-4-5】【資料 2-4-25】
- 大学院研究科の修了要件は、学則に定められており、研究科委員会の意見を聞き、学長が修了を認定する。【資料 2-4-26】
- 大学専攻科の修了要件は、規則に定められており、学部教授会の意見を聞き、学長が認定する。【資料 2-4-27】
- 各研究科は課程博士及び論文博士の学位授与に関する内規を定め、それに即して学位論文審査を行っている。【資料 2-4-28～資料 2-4-35】
- 審査委員会は主査 1 人、副査 2 人以上から構成される。最終的には論文発表を公開で行い、質疑に答えることも審査の対象となる。その際、語学試験を含むこともある。なお薬学研究科では、外部委員 1 人が副査に任命されることがある。【資料 2-4-28】【資料 2-4-36】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-4-1】 全学教務委員会平成 28 年度議事 ※【資料 1-3-13】と同じ
- 【資料 2-4-2】 本学 Web ページ「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること」 ※【資料 1-3-17】と同じ
- 【資料 2-4-3】 大学ポータル私学版 Web ページ「徳島文理大学」  
※【資料 1-3-18】と同じ
- 【資料 2-4-4】 平成 29 年度キャンパスガイド (203-208 頁) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-4-5】 徳島文理大学学則 (7-11 頁) ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-4-6】 シラバス ※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-7】 シラバス作成要領 ※【資料 2-2-8】と同じ
- 【資料 2-4-8】 徳島文理大学学則 (10 頁) ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-4-9】 徳島文理大学編入学試験要項⑤平成 30 年度編入学試験要項 (9 頁)・  
⑥平成 29 年秋季編入学試験要項 (8 頁) ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-4-10】 平成 29 年度キャンパスガイド (31 頁) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-4-11】 新入学生オリエンテーション (17 頁) ※【資料 1-3-8】と同じ
- 【資料 2-4-12】 成績通知書の見方について (香川キャンパス)
- 【資料 2-4-13】 平成 29 年度人間生活学部履修ガイド (42・49 頁)  
※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-14】 音楽学部履修ガイド 2017 (7 頁) ※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-15】 平成 29 年度総合政策学部履修ガイド (15 頁) ※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-16】 平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド(徳島キャンパス) (21・26・31 頁)  
※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-17】 工学研究科推薦入試規定
- 【資料 2-4-18】 平成 29 年度香川薬学部要覧 (平成 27 年度以降入学生用) (17 頁)  
※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-19】 平成 29 年度人間生活学部履修ガイド (23 頁) ※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-20】 平成 29 年度薬学部要覧 (新カリキュラム用) (47-48 頁)  
※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-21】 平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド(徳島キャンパス) (20・31 頁)  
※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-22】 平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド(香川キャンパス) (19 頁)  
※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-23】 平成 29 年度理工学部履修ガイド (13 頁) ※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-24】 平成 29 年度香川薬学部要覧 (平成 27 年度以降入学生用) (13-14 頁)  
※【資料 F-12】と同じ
- 【資料 2-4-25】 徳島文理大学学則 (4 頁) ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-4-26】 徳島文理大学大学院学則 (3-5 頁) ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-4-27】 徳島文理大学専攻科規則 (2 頁) ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-4-28】 平成 29 年度キャンパスガイド (197-198 頁) ※【資料 F-5】と同じ

- 【資料 2-4-29】 文学研究科 課程博士の学位授与に関する内規
- 【資料 2-4-30】 文学研究科 学位授与に関する申し合わせ
- 【資料 2-4-31】 文学研究科 論文博士の学位申請の受理及び学位授与の審査に関する申し合わせ
- 【資料 2-4-32】 工学研究科 博士後期課程学位審査内規
- 【資料 2-4-33】 工学研究科 博士後期課程博士論文審査 細則
- 【資料 2-4-34】 薬学研究科 早期修了による課程博士の学位に関する取扱内規
- 【資料 2-4-35】 博士課程在学中における事前学習および薬学実務実習ならびに特別措置に必要な科目の履修資格審査(博士課程中間審査)に関する取り扱い内規
- 【資料 2-4-36】 博士学位論文第 38・39 号 審査委員頁抜粋

#### 【自己評価】

- ・ 各学部・学科及び研究科のディプロマ・ポリシーは教育研究上の目的を踏まえ、教授会及び研究科委員会で審議・策定し、「全学教務委員会」で承認され、大学 Web サイトや大学ポータル、キャンパスガイドで公表されており、適切に定め周知されていると判断している。
- ・ 各学部・学科の単位認定、進級及び卒業・修了等の各条件は、学則並びに規則で定めており、キャンパスガイドにも明記している。また、その判定についても教授会や委員会で厳正な審査を行い、学長に意見を述べ、学長が決定しており、厳正に適用していると判断している。

#### (3) 2-4 の改善・向上方策(将来計画)

- ・ GPA の評価比率の指定等、厳密な教育評価を実施するための仕組みを引き続き整備していく。
- ・ 単位認定、進級及び卒業・修了要件を引き続き厳正に適用していく。

## 2-5 キャリアガイダンス

### 《2-5 の視点》

#### 2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

##### (1) 2-5 の自己判定

基準項目 2-5 を満たしている。

##### (2) 2-5 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

#### 【事実の説明】

#### 2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

- ・ 学生のキャリア形成と就職支援については、就職支援部が早い段階から学生部やそれぞれの学部・学科の担任・チューターと連携しながら、学生の個別相談・助言に当たっている。また、「就職支援委員会」「インターンシップ推進委員会」を設置し、全学的な視点から支援を行っている。【資料 2-5-1～資料 2-5-4】
- ・ 特に、キャリア形成については、電子化された「学習ポートフォリオ」を活用し、入学時から支援を行うとともに、1 年で実施している「文理学」の中にキャリアガイド

- ンスを位置づけ、動機付けの深化を図っている。【資料 2-5-5】
- ・ 就職の支援においても、3 年の段階から就職ガイダンス、学科別説明会、セミナーや対策講座、公開模試、学内合同企業説明会等の取組みを行っている。【資料 2-5-6】
  - ・ 学科別説明会は、年 3 回実施し、独自に作成したガイドブック「就職活動の手引き」や「就活ハンドブック」をもとに、一人ひとりの学生へのきめ細かな支援を行っている。また、要望に応じて、1～2 年生の段階においても学科別説明会を実施し情報や資料の提供を行っている。【資料 2-5-4】
  - ・ セミナーについては、経団連の広報活動や選考開始時期の変更を考慮したスケジュールとするとともに、秋冬インターンシップ、地元企業研究等の項目を追加し、切れ目のない展開としている。【資料 2-5-6】
  - ・ 学内合同企業説明会においても、3 月上旬に徳島キャンパス 300 社規模、4 月下旬に香川キャンパス 100 社規模で実施するなど、学内にいながら、学生が気軽に多くの企業に触れられる機会を提供している。さらに、学内での個別の企業説明会を積極的に実施するなど、時宜にあった対応を行っている。【資料 2-5-7～資料 2-5-9】
  - ・ 公務員をめざす学生への支援体制については、対策講座を開設し、支援アドバイザーが中心となり演習を主体とした指導を行っている。【資料 2-5-10～資料 2-5-12】
  - ・ 進路指導の参考とするため、各年度の就職活動の総括となる、各学科別の卒業生の進路先や、各都道府県別の就職状況等の詳細な分析を行った冊子「就職概況」を作成し、教職員に提供している。【資料 2-5-13】
  - ・ 就職支援部に求人票や関連資料・冊子を閲覧できるコーナーを設け、学生への就職情報の提供に努めている。【資料 2-5-14】
  - ・ 求人情報提供の利便性を向上させるため、平成 26(2014)年度から就職支援システム「求人受付 NAVI」を導入している。このことで、学生・保護者・教職員が、学内はもちろん学外から常時検索が可能となった。【資料 2-5-4】
  - ・ インターンシップを教育課程に位置づけている場合は、下記のように学部・学科が主体となり、就職支援部が協力しながら実施している。特定の資格取得を目的としている学部・学科においても校外における実習が不可欠となることから、同様に当該学部・学科が中心となり、実習中はもちろんのこと、事前や事後の指導を行っている。
  - ・ 薬学部は薬局や製薬企業でのインターンシップを促進するため、「企業インターンシップ」を開講し、単位化(0.5 単位)している。【資料 2-5-15】
  - ・ 総合政策学部では、学生のインターンシップの参加について、事前の講義、派遣先の企業による評価をもとに、インターンシップの成果の把握に努め、成果報告書の作成及び体験発表をもって単位認定を行っている。【資料 2-5-16】
  - ・ 音楽専攻科器楽専攻音楽療法コースでは、インターンシップを単位化し、その成果について発表する「修了プレゼンテーション」を学内外の人に向けて開催している。【資料 2-5-17・資料 2-5-18】
  - ・ 教員をめざす学生には、全学共通教育センターが中心となり、各自治体情報の提供や、それぞれの試験内容に応じたサポートを行っている。また、「教員採用試験対策講座」「採用試験説明会」「模擬試験」等を実施するとともに、「教員養成対策委員会」を設け改善策を検討している。人間生活学部児童学科では、教員・保育士をめざす学生に

対して学科独自の採用試験対策講座を実施している。【資料 2-5-19～資料 2-5-22】

- ・ 教員や心理職をめざす学生を、徳島市の学習支援ボランティア、小松島市の特別支援ボランティアとして小中学校に派遣し、児童生徒の支援に取り組んでいる。【資料 2-5-23・資料 2-5-24】
- ・ 音楽学部では、年に 1 回「音楽療法士就職フォーラム」を開催している。音楽療法士として働いている卒業生や企業の採用担当者等を毎年講師として招聘している。【資料 2-5-25】

#### 【エビデンス集・資料編】

【資料 2-5-1】 就職支援委員会規程

【資料 2-5-2】 インターンシップ推進委員会規則

【資料 2-5-3】 平成 28 年度インターンシップ参加実績（延べ人数）

【資料 2-5-4】 2018 年 3 月卒業生用就職活動の手引き・就活ハンドブック（2015～2017）

【資料 2-5-5】 平成 29 年度キャンパスガイド（33 頁） ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-5-6】 平成 28 年度年間主要行事予定表・就職支援実施記録

【資料 2-5-7】 2017 年 3 月企業・病院概要（徳島キャンパス学内合同企業説明会）

【資料 2-5-8】 2017 年 3 月企業概要（徳島キャンパス学内合同企業説明会）

【資料 2-5-9】 2017 年 4 月企業・病院概要（香川キャンパス学内合同企業説明会）

【資料 2-5-10】 平成 28 年度・平成 29 年度前期公務員試験対策講座（香川：ガイダンス）

【資料 2-5-11】 平成 28 年度・平成 29 年度前期学力充実対策講座  
（香川：学力向上対策指導・講座）

【資料 2-5-12】 平成 29 年度学習支援アドバイザー及び講座一覧

【資料 2-5-13】 平成 28 年度就職概況

【資料 2-5-14】 本学 Web ページ「キャリア・就職支援」

【資料 2-5-15】 平成 29 年度薬学部シラバス「企業インターンシップ」 ※【資料 F-12】と同じ

【資料 2-5-16】 平成 29 年度総合政策学部シラバス「インターンシップ A・B」  
※【資料 F-12】と同じ

【資料 2-5-17】 平成 29 年度キャンパスガイド（183 頁） ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-5-18】 徳島文理大学専攻科修了生による修了演奏会・修了プレゼンテーション

【資料 2-5-19】 平成 28 年度・平成 29 年度前期教員養成対策講座  
（香川：教員採用試験対策講座）

【資料 2-5-20】 面接講座依頼文

【資料 2-5-21】 教職員グループウェア「教員・幼保等採用試験体験発表会」

【資料 2-5-22】 教員・幼保採用試験レベルアップ講座

【資料 2-5-23】 平成 28 年度小松島市小中学校特別支援ボランティア

【資料 2-5-24】 徳島市学習支援ボランティア派遣要綱

【資料 2-5-25】 第 11 回音楽療法士就職フォーラム

#### 【自己評価】

- ・ 組織的な支援の結果、徳島・香川の両キャンパスの就職支援部が実施した各種事業に

約 9,300 人の参加があった。個別の来談相談者数も約 6,800 人にのぼった。

- ・ 集大成となる平成 28(2016)年度の全学部の就職内定率が 99.2%となり、過去最高となる成果をあげた。
- ・ 「学習ポートフォリオ」を活用したキャリア形成支援やインターンシップ並びに学習支援ボランティア活動等のサポートを学部・学科と就職支援部、学生部、全学共通教育センターが連携しながら行っており、キャリア教育のための支援体制が整備されていると判断している。
- ・ このようなことから、社会的・職業的自立に関する相談指導体制が整備され適切に運営されていると判断している。

### (3) 2-5 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 就職支援部では就職率 100%を目標にしている。その実現のため、担任やチューターとの連携をいっそう緊密にし、今まで個別の相談に来られていない学生への就職相談の実現を図る。また、就職未決定者に対しては、卒業後においても求人情報の提供、個別相談等の支援を継続的に行っていく。
- ・ 今後の就職指導においては、学生と企業とのマッチングを深め、双方の満足度を高めていくことが求められる。そのため、個別の企業説明会を一層充実させていく。また、新たに学科別の企業説明会の開催に取り組んでいく。
- ・ インターンシップの新たな形として展開されてきている 1Day インターンシップへの対応を充実させる。
- ・ 教員養成対策支援としては、より多くの学生が受講できるように従来から実施している講座や研修の実施方法の見直しを図る。また、対策の効果を上げるため、学外の関係機関とも連携を深める。特に、教員を志望する学生については、早期から希望する自治体の情報を収集して対策ができるよう、きめ細かい支援・相談体制の充実を図る。

## 2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

### 《2-6 の視点》

#### 2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

#### 2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

##### (1) 2-6 の自己判定

基準項目 2-6 を満たしている。

##### (2) 2-6 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 【事実の説明】

#### 2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

- ・ 授業成果を把握するため、受講生を対象に全学授業評価アンケートを実施し、学生自身の学修量、理解度、獲得した知識や教員の授業に関する評価結果を本学 Web サイトで、公表している。【資料 2-6-1・資料 2-6-2】
- ・ 全学の教員を対象に、授業充実や評価方法改善のための FD 研修会・講演会を実施している。【資料 2-6-1】

- ・ 学生の科目別成績や単位修得状況、取得した資格や特技のほか、担任・チューター並びに学生部の担当者等による面接内容等をデータベース化した学内 LAN システム「教職員グループウェア」を整備している。関係者は、「教職員グループウェア」をとおして学生の学修状況等を把握できる。平成 27(2015)年度から担任とチューター、学生部担当者のみ限定されていた学生情報閲覧権限を、所属学科の教員全員が指導に当たれるように拡大した。【資料 2-6-3】
- ・ チューターは担当学生と年に数回面談し、学修状況や生活について丁寧な指導を実施しており、その指導内容を学生情報として「教職員グループウェア」に記録し、教育目的達成状況の把握に努めている。【資料 2-6-3】
- ・ 平成 25(2013)年度から電子化した「学習ポートフォリオ」の機能を最大限に活用し、学生の自立の促進、学士力の向上を図っている。この「学習ポートフォリオ」は学生自身が入学時の状況（今までの私、私のよいところ・得意なこと、私の苦手なこと・克服したいこと、入学の動機）、卒業後の将来像（各学期ごと）、学修目標・計画及び達成状況と自己評価（各学期ごと）等を記入する。また、ボランティア活動等の活動実績（随時記入、チューターチェック）、行動記録等（週間スケジュール、チューターチェックとコメント）からカテゴリー別集計一覧（予習・復習の実施時間が表示される）が作成され、チューターが学生の単位修得状況と併せて把握し、指導に活用している。【資料 2-6-4】

#### 2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

- ・ 授業評価については、各教員がアンケート結果に対するコメント及び今後の授業改善点を「アクションプランシート」としてまとめ、評価結果と併せて学内の Web サイトで公開している。平成 28 年度後期の記載率は 98.0%であった。【資料 2-6-1・資料 2-6-2】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-6-1】平成 28(2016)年度 FD 研究部会活動報告書 ※【資料 2-2-11】と同じ
- 【資料 2-6-2】本学 Web ページ「授業改善活動（FD 活動）」
- 【資料 2-6-3】教職員グループウェア「面接記録」
- 【資料 2-6-4】学習ポートフォリオ（学生用）取扱説明書 ※【資料 2-3-2】と同じ

#### 【自己評価】

- ・ 授業終了時、受講生を対象に全学授業評価アンケートが実施され、個々の学生の学修達成状況と授業成果が把握できている。また、その評価結果に対する教員の意見と今後の改善点が示されていることから、授業毎の教育目的の達成度が点検・評価され、フィードバックも機能していると判断している。
- ・ FD 研修会・講演会には、授業改善方策に加え評価方法に関する研修も取り入れていることから、評価の工夫・改善の手立ても提供できていると判断している。
- ・ チューターが「学習ポートフォリオ」を活用し、学生の日常生活や学修の成果を把握することが、教育目的の達成状況を確実に把握することにつながっていると判断して

いる。

- ・ チューター制度と「教職員グループウェア」の活用により、データ化された学生の個人情報、学修状況、授業出欠状況に基づき学生へのきめ細かい指導が実施できていると判断している。

### (3) 2-6の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 学生を対象とした各種意識調査の内容は見直され、改善が図られてきているが、これらの調査結果をもとに個々の学生にきめ細かく指導することが重要であり、面談、演習・実習、その他少人数教育の機会を通じて直接に指導する機会の拡充に努めていく。
- ・ 「学習ポートフォリオ」では「学生の学修時間の実態や学習行動の把握」の調査を随時行い、学生の学修時間の増加・確保について「全学教務委員会」で検討していく。

## 2-7 学生サービス

### 《2-7の視点》

#### 2-7-① 学生生活の安定のための支援

#### 2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

##### (1) 2-7の自己判定

基準項目 2-7 を満たしている。

##### (2) 2-7の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### 【事実の説明】

#### 2-7-① 学生生活の安定のための支援

- ・ 本学には学生サービス、厚生・補導を支援するための組織として、学生部が設置されている。本学には各学部、各部から選出された委員で構成された各種委員会があるが、その中でも学生指導協議会、人権教育推進委員会、ハラスメント防止対策委員会では、学生サービス、学生補導、学生の安全確保に直接関与している。【資料 2-7-1～資料 2-7-4】
- ・ 本学では、教員と学生のふれあいを大切にし、1年次からチューター制を採用しきめの細かい少人数教育を実践している。このチューター制を生かして入学時から将来の進路を見極め、個別の学修及び生活指導を行っている。【資料 2-7-5】
- ・ 学生の経済的負担を軽減する方法として奨学金制度の利用を紹介し、両キャンパスの学生支援グループが相談窓口を務めている。本学独自の奨学金制度として「村崎サイ奨学金」や「就学支援奨学金」「徳島文理大学・同短期大学部兄弟姉妹同時在籍者への給付制度」があり、「徳島文理大学提携教育ローン」も整備している。また、現在貸与を受けている主な外部奨学金は日本学生支援機構奨学金であり、そのほか学部関係奨学金、地方公共団体、民間育英団体等の奨学金がある。【資料 2-7-6～資料 2-7-11】
- ・ 薬学部・香川薬学部では、6年制薬学教育に移行したことによる2年の教育期間の延長が経済的負担を増加させているため、薬学部・香川薬学部の学生に対し、奨学金制度を設けるなど軽減策を講じている。【資料 2-7-9】
- ・ 平成 27(2015)年度に学校法人村崎学園が創立 120 周年を迎えるにあたり、新たに学業



人物ともに優秀で、学修に熱意のある者を特待生として経済的に支援し、もって有意な人材を育成することを目的とした「学校法人村崎学園創立 120 周年記念特待生制度」を創設し、平成 28(2016)年度入試から実施した。【資料 2-7-9】

- ・ 編入学生は、新入生同様にオリエンテーションを行い、履修指導等を行っている。転学部・学科等の学生に対しては、個別面談を行い対応している。【資料 2-7-12】
- ・ 平成 23(2011)年度から徳島・香川両キャンパスの一部学部で新入生宿泊セミナーの実施を開始し、平成 28(2016)年度から全学部・学科において実施することとした。また、徳島キャンパスでは、平成 27(2015)年度に新入生宿泊セミナー運営委員会を組織し、各学部・学科教員と事務職員が連携して宿泊セミナーの企画運営に当たっている。【資料 2-7-13・資料 2-7-14】
- ・ 学生支援グループは、アルバイト情報の提供を行っているが、大学生活、修学に影響のない職種や内容、時間帯等を考慮し慎重に取り扱っている。特に人材派遣会社からのアルバイトは原則として紹介していない。
- ・ 学生の健康状態は入学時の健康調査により把握し、健康診断を年に 1 回実施している。
- ・ 保健センターには、養護教諭免許を有する常勤職員（徳島キャンパス 2 人、香川キャンパスは兼務職員 1 人を含む 2 人）が配置され、対応している。両キャンパスとも診察室と休養室には、ベッド、外傷用医薬品等が常備され、学生が負傷、体調不良等を訴えた時に処置する場となっている。また、保健センターでの業務を実施記録としてまとめ、学内部局に配布している。【資料 2-7-15・資料 2-7-16】
- ・ AED（自動体外式除細動器）を徳島キャンパスに 11 か所、香川キャンパスに 8 か所設置し、毎年日本赤十字社指導員あるいは校医の指導のもと教職員や学生が心肺蘇生法や AED の使用方法等を学ぶための講習会を開催している。平成 29(2017)年度からは徳島市消防局の協力を得て、「部活動対象 普通救命講習会 I」を通年で開催し、より実践的な応急手当を学ぶ機会を設けている。また、徳島キャンパスでは、平成 29(2017)年 4 月に車椅子 2 台を追加設置した。【資料 2-7-17～資料 2-7-20】
- ・ 近年学生のメンタルヘルスに関する相談が増えていることに対応するため、カウンセリング室を設置している。徳島キャンパスでは、非常勤のカウンセラー 1 人が週 3 回（月・水・金 9:30～17:30）、カウンセラーの資格を持つ兼務職員 1 人が週 2 回（月・金 10:50～12:20）、香川キャンパスは非常勤のカウンセラー 1 人が週 2 回（火・金 8:30～17:00）、それぞれ学生の相談に対応している。【資料 2-7-15】

## （1）学生の課外活動の支援

### ①クラブ活動

- ・ 平成 29(2017)年度のクラブ活動は、体育系 31 部（徳島 19、香川 12）文化系 24 部（徳島 16、香川 8）同好会 18 部（徳島 15、香川 3）郷土芸能 3 部から構成され、学外より専門の指導者を招聘し活動している。また、学則第 42 条の規定に則り、平成 28(2016)年度は、学業その他活動において優れた活動をあげた学生（体育部関係 31 人、文化部関係 19 人）を表彰した。【資料 2-7-21・資料 2-7-22】
- ・ 郷土芸能 3 部は、阿波踊りの「徳島文理大学連」、沖縄県人会エイサー団体の「ニライカナイ」、高知県人会によるよさこい踊りの「TOSAMONO」であり、本学は、特にこれら

の活動を支援している。【資料 2-7-21】

- 各クラブ活動は施設設備面での支援、経済的支援、人的支援、物的支援等により維持されている。平成 28(2016)年度に弓道場が改修され、より快適なクラブ活動ができるようになった。【資料 2-7-23】
- クラブ委員会はクラブ委員会規約に基づき、委員長がクラブ活動費を円滑に配分している。【資料 2-7-24・資料 2-7-25】

## ②大学祭

- 大学祭は大学のアイデンティティを創造するための活動として学生にとって重要な意義がある。徳島キャンパスは「山城祭」、香川キャンパスは「杏樹祭」と呼ばれ、毎年主として 10 月中旬の日曜日を中心に実施されている。学生実行委員会が中心となって運営を行っており、地域とも連携した活動を進めている。また、大学からも支援を行っている。【資料 2-7-26】
- 平成 28(2016)年度の山城祭は、第 39 回徳島文理大学ウィンドオーケストラ定期演奏会と同時開催され、韓国水原大学校音楽学部を迎えての交流演奏もあり大変多くの来場者で賑わった。また、新たに、人形浄瑠璃部による寿二人三番叟も披露された。

## (2) 新たな取組み (徳島キャンパス)

- 徳島キャンパスでは、平成 28(2016)年度に学生部が中心となり、学生・教職員の協力を得て、以下に示す①～⑥の新たな取組みを行った。また、徳島文理大学の名前が入った「ビブス」を製作し、学生や教職員がボランティア活動等の様々な場で着用し、本学の広報活動にも生かした。【資料 2-7-27】

### ①ボランティアパスポート制度の導入と単位化

- 徳島県と連携し、ボランティア活動を単位認定する「とくしまボランティアパスポート」制度を導入した。
- ボランティアパスポートは 3 段階に分かれ、初級編の緑のパスポートは、一般総合科目の総合科目(ボランティア)2 単位として認定される。中級編は赤、上級編は青のパスポートからなり、ともに 40 時間以上のボランティア活動修了が必要となっている。
- 平成 28(2016)年度は、総合科目(ボランティア)に 114 人が履修登録を行い、68 人が単位を修得した。また、4 人が赤のパスポートを修了し、学長表彰を受けた。平成 29(2017)年 4 月には 1 人が青のパスポートを修了した。【資料 2-7-28・資料 2-7-29】

### ②地域清掃ボランティア・「徳島市みちピカ事業」の認可

- 平成 28(2016)年 5 月 30 日のゴミゼロの日に教職員・学生 140 人が「ビブス」を着用し、全学地域清掃ボランティア活動を行った。
- 平成 28(2016)年 12 月には、徳島市のアドプト・プログラム活動「徳島市みちピカ事業」に認可され、第 2 回全学地域清掃ボランティア活動を実施した。毎月 1 日実施している地域清掃活動と併せ、さらなる学生・教職員の主体的な地域貢献及び広報活動として取り組んでいくこととしている。【資料 2-7-27】【資料 2-7-30・資料 2-7-31】

### ③地震被災地への義援金募金活動と安否情報確認

- 平成 28(2016)年に発生した熊本地震及び鳥取県中部地震の被災地支援として、ボランティア部・有志学生・教職員が中心となり、学内や街頭での義援金募金活動を実施した。【資料 2-7-32～資料 2-7-34】

- ・ 自然災害発生時には、学生部職員と各学部・学科教員は協力して災害発生地域の出身在籍者の全保護者宅に電話連絡を行い、安否情報確認を行うとともに、教員が中心となり学生の精神的ケアを行うなどの支援を図っている。【資料 2-7-35】



#### ④ 壮行会

- ・ 平成 28 年(2016)年 6 月に第 67 回四国地区大学総合体育大会に出場する 17 部を激励する「壮行会」を開催した。各部の代表選手が新たに作成した部旗を掲げて決意を表明し、沖縄県人会を中心とした有志によるエール等、学生と教職員が一体となり応援を行った。また、大会で優秀な成績を収めたクラブ・学生に対しては、学長が表彰を行った。【資料 2-7-36～資料 2-7-38】

#### ⑤ とくしまマラソンボランティア

- ・ 平成 29(2017)年 3 月に開催された「とくしまマラソン 2017」に、本学からは総勢 134 人がボランティアとして参加し、全国から来県したランナーに温かいおもてなしを行った。【資料 2-7-39】
- ・ 大会運営ボランティアのほかに、沿道応援パフォーマンスとして、徳島文理大学連(阿波踊り)・エイサー・和太鼓部「億」・人形浄瑠璃部・ダンス部・女子フットサルサークルが参加し、応援を行った。

#### ⑥ 「徳島キャンパス学生自主防災クラブ」の編成

- ・ 自分の命だけでなく他の人の命も守ることができる実践力を普段から一人ひとりが身につけることを目的とし、全学学生を防災委員とする「学生自主防災クラブ」を平成 29(2017)年 4 月から各学部・学科の委員会活動として位置付けた。
- ・ 「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」(平成 25 年法律第 110 号)に基づき、大学生の消防団員活動の要請が高まっているなか、「学生機能別消防団」活動についても検討を行い、平成 29(2017)年 2 月に徳島キャンパスで徳島県・徳島市消防団から消防団活動についての説明会を実施した。【資料 2-7-40】

#### (3) その他の課外活動

- ・ 人間生活学部メディアデザイン学科の学生による NPO 法人「AwatterLab」(アワッターラボ)は、学んだ ICT 技術を生かし、徳島の活性化に貢献することを設立の目的としている。学生が自主的に事業の企画を立てて運営する NPO 法人であり、大学もその活動を支援している。【資料 2-7-41】
- ・ 新入生歓迎会及び各学科親睦球技大会や、県人会活動の支援に努めている。
- ・ 安全対策では、実験・実習上の安全、防火・防犯に対する安全、交通事故、さらには、

ハラスメント等の生活相談に対しても各委員会を設置し、対応・対策を講じている。また、ハラスメント防止対策委員会を設置しているだけでなく、学部学生からの訴えや相談をくみ上げるために、各学部にも相談員も配置している。【資料 2-7-3・資料 2-7-4】

## 2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

- ・ 本学では、学生生活全般について学生からの要望を聞くために、チューターや担任が面接を行い、学生情報として教職員で共有している。また、学生部に要望を申し出る学生については学生支援グループ職員が話を聞き、対応している。【資料 2-7-5】
- ・ 徳島・香川の両キャンパスの食堂に「改善意見箱（目安箱）」を設置して、学生の意見をくみ上げている。学生部がこれを管理し、投書には学長が責任を持って応えており、食堂の掲示板に掲示し、学生に周知している。【資料 2-7-42】
- ・ 平成 25(2013)年 4 月に 1 年生を対象とした「文理学」の授業を利用し、入学後に気付いた点についてのアンケートを実施した。その結果を受け、学生から要望があったトイレの姿見設置と香川キャンパス理工学部実習棟と保健福祉学部実習棟への女性用トイレ増設を行った。また、保護者会・後援会の協力を得て、全学部にもロッカーを設置した。【資料 2-7-43】
- ・ 卒業生に対して、本学の教育内容や施設、学生生活等に関する満足度調査「卒業生満足度評価アンケート」を実施し、その結果を教育の充実と改善の参考としている。【資料 2-7-44】
- ・ 学生食堂では、ひとり暮らしや遠距離通学等で朝食を抜きがちな学生に、栄養バランスの良い朝食を提供し、規則的な生活リズムを確立し、勉学への意欲を高めてもらおうと保護者会の協力のもと、平成 26(2014)年 9 月から徳島キャンパスで 100 食、香川キャンパス 50 食限定の「100 円定食」を実施している。【資料 2-7-45】

### 【エビデンス集・資料編】

【資料 2-7-1】 学生指導協議会運営規則

【資料 2-7-2】 人権教育推進委員会規則

【資料 2-7-3】 徳島文理大学ハラスメント防止対策委員会要項

【資料 2-7-4】 徳島文理大学ハラスメント相談員要項

【資料 2-7-5】 教職員グループウェア 学生基本情報画面

【資料 2-7-6】 学校法人村崎学園事務組織規程 ※【資料 2-1-13】と同じ

【資料 2-7-7】 平成 29 年度キャンパスガイド (147-148 頁) ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-7-8】 本学 Web ページ「奨学金」

【資料 2-7-9】 2017 年度 奨学金・特待生制制度 ※【資料 2-1-11】と同じ

【資料 2-7-10】 大学独自の奨学金給付・貸与状況（授業料免除制度）（前年度実績）  
※【データ編・表 2-13】と同じ

【資料 2-7-11】 就学支援奨学金規程

【資料 2-7-12】 新入学生オリエンテーション (2 頁) ※【資料 1-3-8】と同じ

【資料 2-7-13】 新入生宿泊セミナー運営委員会資料抜粋 ※【資料 2-3-23】と同じ

【資料 2-7-14】 徳島キャンパス宿泊セミナー運営委員会要項

- 【資料 2-7-15】 学生相談室、医務室等の利用状況 ※【データ編・表 2-12】と同じ
- 【資料 2-7-16】 保健業務実施記録（平成 28 年度） ※【資料 2-3-24】と同じ
- 【資料 2-7-17】 平成 29 年度キャンパスガイド（10-11 頁） ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-7-18】 AED 設置場所・車椅子設置場所（徳島キャンパス車椅子追加版）
- 【資料 2-7-19】 AED（自動体外式除細動器）講習会について
- 【資料 2-7-20】 本学 Web ページ「部活動対象 普通救命講習会 I（徳島市）」
- 【資料 2-7-21】 平成 29 年度キャンパスガイド（161・175 頁） ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-7-22】 平成 28 年度体育・文化功労賞受賞者
- 【資料 2-7-23】 本学 Web ページ「徳島キャンパス弓道場」
- 【資料 2-7-24】 クラブ委員会規約
- 【資料 2-7-25】 学生の課外活動への支援状況 ※【データ編・表 2-14】と同じ
- 【資料 2-7-26】 本学 Web ページ「大学祭」
- 【資料 2-7-27】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 79」（9 頁）
- 【資料 2-7-28】 本学 Web ページ「ボランティアパスポート」
- 【資料 2-7-29】 シラバス「総合科目 E（ボランティア）」
- 【資料 2-7-30】 徳島市アドプト・プログラム活動への登録について
- 【資料 2-7-31】 平成 28 年度第 2 回徳島キャンパス全学地域清掃ボランティア活動について
- 【資料 2-7-32】 熊本地震義援金活動について（報告）
- 【資料 2-7-33】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 79」（15 頁）  
※【資料 2-7-27】と同じ
- 【資料 2-7-34】 鳥取県中部地震・熊本地震義援金募金活動報告について
- 【資料 2-7-35】 地震・集中豪雨等自然災害時における被災状況の情報収集体制について
- 【資料 2-7-36】 本学 Web ページ「四国地区大学総合体育大会壮行会」
- 【資料 2-7-37】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 79」（14 頁）  
※【資料 2-7-27】と同じ
- 【資料 2-7-38】 本学 Web ページ「第 67 回四国地区大学総合体育大会の表彰」
- 【資料 2-7-39】 とくしまマラソン 2017 へのボランティア参加報告について
- 【資料 2-7-40】 本学（徳島キャンパス）における学生自主防災組織の編成について
- 【資料 2-7-41】 本学 Web ページ「AwaterLab」
- 【資料 2-7-42】 改善意見箱（目安箱）の投函件数と内容について  
※【資料 2-3-27】と同じ
- 【資料 2-7-43】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 70」（2 頁）
- 【資料 2-7-44】 本学 Web ページ「授業改善活動（FD 活動）」 ※【資料 2-6-2】と同じ
- 【資料 2-7-45】 本学 Web ページ「100 円朝食」

#### 【自己評価】

- ・ 学生部が学生支援の中心的役割を担っており、学生にとって相談しやすい体制を敷いていると判断している。
- ・ 学生指導協議会等の委員会を設置し、全学的な体制で、学生サービスや厚生補導の充実が図れるよう配慮していると判断している。

- ・ 様々な奨学金の活用や授業料の分納や延納の措置等、経済的な支援を適切に行っていると判断している。
- ・ 学生のクラブ活動や大学祭、種々の課外活動に対し積極的な支援を行っていると判断している。
- ・ 健康相談、心的支援には保健センターが、生活相談には学生支援グループが中心となって適切に対応していると判断している。
- ・ 平成 28(2016)年度に、上述 2-7-①(2)で記す新たな取組みを徳島キャンパスで行い、多くの学生が積極的に取り組んだ。全国から集まり本学で学ぶ学生同士の絆が深まり、また、様々な地域の活動に積極的に参加することで、大学全体の活性化と地域貢献にもつながったと判断している。
- ・ 学生の相談や要望は、担任やチューターによる面談、「改善意見箱（目安箱）」の設置等、あらゆる機会を通じてくみ上げられるよう、配慮していると判断している。

### (3) 2-7 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 学生支援の徹底を図るため、掲示板、「学生ポータルサイト」の充実を図り、意思伝達経路のさらなる強化に努める。
- ・ 各学部・学科と学生部がさらに連携を密にし、「ほう・れん・そう」の徹底、スピード感を持った対応等、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの視点をしっかりと持ち、一人ひとりの学生をしっかりと育てる学生支援に努める。
- ・ さらなるクラブ活動の活性化に努める。文化系においては、国の重要無形民俗文化財に指定されている「阿波人形浄瑠璃」を本学「人形浄瑠璃部」の活動をとおして、より多くの若者に魅力を感じてもらえるよう、様々な工夫をしながら働きかけていく。また、本学で伝統文化に新たな魅力を具現化する意欲を持った学生の増加につなげることに努める。
- ・ 学生の活動をより多くの人に知ってもらうために、本学 Web サイトに掲載するとともに、マスメディアに積極的に取材依頼するなど情報発信を積極的に行うことに努める。
- ・ 近年地震による甚大な被害が多く発生している。学生や教職員の命を自然災害から守るため、危機管理体制の一層の徹底を図るとともに、自助・共助について学ぶ機会をより積極的に設け、どのような場所や時間に地震・津波等の災害に遭遇したとしても、主体的なボランティア活動に取り組める意識と実践力を育てることに努める。
- ・ 今後とも本学学生が講義・大学生活で得た知識を生かし、ボランティア等の参加を通じて地域の活性化に貢献するとともに、学生自身が様々な活動に対し、積極的・主体的に取り組むことができるよう努める。

## 2-8 教員の配置・職能開発等

### 《2-8 の視点》

#### 2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

#### 2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み

#### 2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

(1) 2-8 の自己判定

基準項目 2-8 を満たしている。

(2) 2-8 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

**2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置**

- 大学設置基準第 13 条に係る別表第一のイ及び別表第二に規定される必要専任教員数及び本学の在籍教員数は、【表 2-8-1】に示すとおりであり、各学科及び本学全体のいずれにおいても基準数を満たしている。また、同第 13 条に係る別表第一のイの備考一に定める教授数については、すべての学科において満たしている。なお、保健福祉学部口腔保健学科は、平成 29(2017)年 4 月に開設した学科であり、開設 2 年目(平成 30(2018)年 4 月)には、必要専任教員数を満たすことになっている。大学専攻科の担当専任教員は、全員が学科と兼務している。ただし、助産学専攻科については、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づく教員数(3 人)を配置している。
- 「大学院設置基準第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数」(文部省告示第 175 号)に規定される研究指導教員数及び研究指導補助教員数及び本学の在籍教員数並びに研究指導教員の教授数は、【表 2-8-2】に示すとおりであり、すべての専攻において基準数を満たしている。なお、大学院の教員は、教育研究上特に支障がないことから、すべて学部、研究所の教員と兼ねている。
- 研究所等には、専任教員のほか、兼任教員を配置し、研究活動を行っている。
- 演習・実験・実習を伴う授業科目を持つ学科に、授業科目の補助を行う助手を配置し、授業展開がスムーズに行われるようにしている。【資料 2-8-1】

【表 2-8-1】学部学科(専攻科・研究所含む)別教員数 ( )は教授数 平成 29 年 5 月 1 日現在

学 部	学 科	専任教員数	設置基準上必要専任教員数
人間生活学部	人 間 生 活 学 科	7(3)	6(3)
	食 物 栄 養 学 科	14(8)	7(4)
	児 童 学 科	18(4)	8(4)
	メディアデザイン学科	6(3)	5(3)
	建 築 デ ザ イ ン 学 科	6(4)	6(3)
	心 理 学 科	11(7)	10(5)
薬 学 部	薬 学 学 科	62(29)	33(17)
音 楽 学 部	音 楽 学 科	9(6)	8(4)
総合政策学部	総 合 政 策 学 科	20(13)	12(6)
保健福祉学部	人 間 福 祉 学 科	12(7)	12(6)
	看 護 学 科	33(19)	12(6)
	理 学 療 法 学 科	12(4)	8(4)
	口 腔 保 健 学 科 ※	6(4)	8(4)
	診 療 放 射 線 学 科	10(8)	8(4)
	臨 床 工 学 科	10(6)	8(4)

徳島文理大学

文 学 部	日 本 文 学 科	6(3)	5(3)
	英 語 英 米 文 化 学 科	6(3)	5(3)
	文 化 財 学 科	6(6)	5(3)
理 工 学 部	機 械 創 造 工 学 科	8(4)	7(4)
	電 子 情 報 工 学 科	9(6)	8(4)
	ナノ物質工学科	8(5)	8(4)
香川薬学部	薬 学 科	43(19)	28(14)
一 般 総 合 科 目		18(3)	-
大学全体の収容定員に応じた専任教員数		-	50(25)
合 計		340(174)	267(137)

※平成 29 年 4 月 1 日開設

【表 2-8-2】大学院研究科専攻・課程別教員数 ( )は研究指導教員数 平成 29 年 5 月 1 日現在

研 究 科	専 攻・課 程	本学の研究指導教員数と研究指導補助教員数	設置基準上の研究指導教員数及び研究指導補助教員数
人間生活学研究科	食物学専攻博士前期課程	8(7)	6(4)
	生活環境情報学専攻博士前期課程	6(4)	6(4)
	児童学専攻博士前期課程	6(4)	6(4)
	心理学専攻博士前期課程	8(5)	6(4)
	人間生活学専攻博士後期課程	8(8)	6(4)
薬学研究科	薬学専攻博士課程	63(61)	14(8)
看護学研究科	看護学専攻博士前期課程	19(11)	12(6)
	看護学専攻博士後期課程 ※	12(10)	12(6)
総合政策学研究科	総合政策学専攻修士課程 ※	11(11)	10(5)
文学研究科	地域文化専攻博士前期課程	17(16)	5(3)
	地域文化専攻博士後期課程	6(6)	5(3)
工学研究科	システム制御工学専攻博士前期課程	12(12)	7(4)
	システム制御工学専攻博士後期課程	12(12)	7(4)
	ナノ物質工学専攻博士前期課程	7(6)	7(4)
	ナノ物質工学専攻博士後期課程	7(6)	7(4)

※平成 28 年 4 月 1 日開設

- 専任・兼任の教員構成を大学全体で見ると、専任教員数は 340 人、兼任教員数延べ 198 人であり、兼任（非常勤）依存率 37%となっている。各学部等の教育研究目的に配慮して、専任教員でまかなえない専門領域の教員を採用している。【資料 2-8-1】
- 大学全体の年齢構成は、【表 2-8-3】に示すとおりである。51～60 歳層の割合が最も高く、次いで 61～65 歳層、41～50 歳層の順になっており、66 歳以上の教員が 55 人（16.2%）、65 歳以下が 285 人（83.8%）となっている。学科ごとに見ると、年齢構成の分布は学科により多少の差異はあるものの、概ね、いずれの学科においても 41～50 歳、51～60 歳、61～65 歳層を中心に構成されている。【資料 2-8-2】



【表 2-8-3】 学部学科専任教員（専攻科・研究所含む）年齢構成表 平成 29 年 5 月 1 日現在

学部	学 科	30 歳 以下	31～ 40 歳	41～ 50 歳	51～ 60 歳	61～ 65 歳	66～ 70 歳	71 歳 以上	合計
人間 生活 学部	人間生活学科	0	0	0	2	5	0	0	7
	食物栄養学科	3	0	2	4	4	1	0	14
	児童学科	1	0	2	2	10	2	1	18
	メディアデザイン学科	0	0	2	2	1	1	0	6
	建築デザイン学科	0	0	0	0	2	3	1	6
	心理学科	0	1	3	2	3	2	0	11
薬	薬 学 科	4	11	17	13	12	2	3	62
音	音 楽 学 科	0	1	0	2	1	4	1	9
総	総 合 政 策 学 科	0	3	5	2	3	5	2	20
保 健 福 祉 学 部	人間福祉学科	1	2	1	1	5	1	1	12
	看護学科	0	3	2	12	5	11	0	33
	理学療法学科	0	4	4	2	0	2	0	12
	口腔保健学科 ※	0	1	1	2	1	0	1	6
	診療放射線学科	0	0	1	4	4	1	0	10
	臨床工学科	0	3	1	2	2	2	0	10
文 学 部	日本文学科	0	0	0	6	0	0	0	6
	英語英米文化学科	0	1	1	3	0	1	0	6
	文化財学科	0	0	0	3	1	2	0	6
理 工 学 部	機械創造工学科	0	1	2	1	2	2	0	8
	電子情報工学科	0	0	3	4	2	0	0	9
	ナノ物質工学科	0	0	3	4	1	0	0	8
香	薬 学 科	1	8	17	10	5	1	1	43
一 般	総 合 科 目	0	2	4	4	7	1	0	18
合 計		10 (2.9%)	41 (12.1%)	71 (20.9%)	87 (25.6%)	76 (22.4%)	44 (12.9%)	11 (3.2%)	340 (100%)

※平成 29 年 4 月 1 日開設

## 2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み

### (1) 教員の採用・昇任等

- ・ 教員の採用・昇任に関しては、「徳島文理大学教員等選考規程」と「徳島文理大学教員等資格審査に関する基準」に基づき実施している。【資料 2-8-3】
- ・ 教員の採用に関しては、2-8-①で述べた設置基準も考慮しながら、採用候補者の建学精神への深い理解、人格、履歴・教育研究業績、実務経験、社会活動歴、健康状態、そのほか私学教育に対する姿勢や熱意等から総合的に判断している。特に、医療・保健・福祉専門職の養成を行っている学科については、教育経験のみならず、臨床（実務）経験の豊富な人材を積極的に採用している。募集に際しては、採用担当部署と関連学部との連携を重視するとともに、学部・学科の意向を尊重し、専門領域や採用目的に応じて、公募及び推薦の形をとっている。【資料 2-8-3】

- ・ 教員の昇任に関しては、著書・学術論文、教育上の能力、職務上の実績等から総合的に判断している。特に、現在の職位に就任した以降の教育研究業績や教授研究能力等を重視している。【資料 2-8-3】
- ・ 採用・昇任の手順は、「徳島文理大学教員等選考規程」と「徳島文理大学教員等資格審査に関する基準」に基づき実施している。すなわち、所属長の推薦に基づき、学長は教員選考委員会を実施し、適任候補者を理事長に推薦する。理事長は学長から推薦のあった候補者について採用の可否を決定している。【資料 2-8-3】

## (2) 教員評価

- ・ 教員評価については、各教員の教育活動を大学の使命・教育理念に照らして自己評価し、それをとおして各教員が自らの活動を認識するとともに、自らを振り返り、自己の資質能力・教育力の向上につなげる目的で、「教員活動状況調査（アニュアルレポート）」を実施している。
- ・ 「教員活動状況調査（アニュアルレポート）」は、「教育」、「研究」、「大学運営」及び「社会貢献」の4領域にわたる1年間の活動実績と領域ごとのウェイトを自己決定するようにしている。
- ・ 学部長、学長は、各教員の教育研究活動を総合的に評価し、昇任等の参考資料としている。【資料 2-8-4】
- ・ 学部ごとに各教員の教育研究業績等をまとめた「教育・研究年報」を発刊することにより、学長・学部長は一人ひとりの教員の1年間の教育研究活動を評価している。【資料 2-8-3～資料 2-8-12】

## (3) 研修、FD 活動

- ・ 本学では、教育及び授業の改善、教員の研修等、教員の資質・能力向上をめざして「FD 研究部会」を組織し、全学的な FD 関連事項を決定している。また、本学教職員の教育・研究活動の一層の活性化をめざして学内競争資金による教育・研究を奨励している。平成 28(2016)年度の取組みについては次のとおりである。【資料 2-8-13～資料 2-8-15】
- ① 「FD 研究部会」（各学部代表で組織）を 9 回実施している。本研究部会では、教育内容の改善のために、主に、a. 教員の研修会・講演会、b. 教員に対する学生による授業評価アンケート、c. 教員による研究授業（教員相互の研究授業）を推進し、改善計画を行っている。これらの詳細については、「FD 研究部会活動報告書」としてまとめるとともに、本学 Web サイト上にも公表している。
  - ② FD 研修会・講演会については、SD(Staff Development)の研修会・講演会も兼ね学内で実施したものが 6 回、学外主催の研修会に本学教員が参加したものは 21 回に及んでいる。
  - ③ 教員に対する学生による授業評価アンケートについては、前期 867 科目、後期 805 科目について実施した。実施率は前期 97.3%、後期 98.1%であった。各教員は、学生による授業評価に対するコメント、翌年度以降のアクションプランを作成（アクションプランシート）し、学内ネットワークを活用して、学生に対して公開するとともに、「学生による授業評価」としてまとめている。
  - ④ 教員による研究授業（教員相互の研究授業）については、アクティブ・ラーニングを導入した授業の実施を推奨し、前期 10 科目、後期 18 科目にわたって実施した。

- ⑤ 本学のグローバルな学術研究の取り組みや成果をすべての教職員が共有し、教育・研究活動の一層の活性化を図るとともに、学長を交え、徳島・香川両キャンパスの研究者が自由に懇談し、親睦を深め、教育・研究の一層の連携を図る目的で「特色ある教育・研究全学発表会」を年1回実施している。平成28(2016)年は9回目を迎え、前年度研究修了者は研究成果を口頭発表し、研究継続者は中間報告、新規研究者は研究の進捗状況と今後の計画についてのポスター発表を行った。さらには、発表者の中から優秀者を選び表彰することにより、一層の教育・研究への意欲付けとなった。【資料2-8-15】
- ⑥ 若手研究者が海外の研究機関等でさらなる研鑽を積むことを奨励している。

### 2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

- ・ 本学大学学則第1章第1条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」とあり、教養教育を重要視している。【資料2-8-16】
- ・ 教養教育が適切になされるための組織として、「全学教務委員会」がある。「全学教務委員会」は、学長の下に各学部長及び学部代表者、全学共通教育研究会長、FD研究会長、企画部長、教務部長、全学共通教育センター長等で構成されている。【資料2-8-17】
- ・ 「全学教務委員会」は、専門授業科目や一般総合科目（一般教養科目）のあり方、それに付随する大学の3つのポリシーや「学習ポートフォリオ」の検討等、教育課程に関わる全般的な内容について審議検討する組織である。とりわけ、教養教育の実施に関わることについては、全学共通教育研究会長が全学教務委員会の委員として参画している。「全学教務委員会」は、毎年度3~4回実施している。平成28(2016)年度は4回実施した。【資料2-8-18】
- ・ 一般総合科目には、人文系、社会系、自然系、体育・スポーツ科目、外国語科目、基礎ゼミナールの各分野に科目が設けられ、各学部・学科の履修修得単位数を学則で定め指導している。【資料2-8-19】
- ・ 新入生導入教育として一般総合科目の中に「文理学科」を開講し、初年次の教養教育として位置づけており、「徳島文理大学の建学精神と歴史」「なぜ大学で学ぶのか」という演題による講話、キャリアガイダンス、音楽鑑賞、地域学、公開講座への参加、学修方法に係るスキル等から成っている。【資料2-8-20】
- ・ 徳島キャンパス全学共通教育センターにおいて、日本語、数学、理科、社会、音楽、簿記等の一般総合科目の支援を目的として、「学力充実対策講座」を開設している。また、香川キャンパスでは、数学、物理、化学等の一般総合科目の支援を目的として、「学力向上対策指導・講座」を開設し、学生の基礎学力の充実を支援している。教員採用・公務員試験に対応するうえで欠かせない基礎学力を全学部共通で向上させることも行っており、これらの支援は、学生の学修意欲向上と人間形成に役立っている。【資料2-8-21】

- ・ 両キャンパスの語学センターでは、インターネットを通じて、自分のレベルと目的・目標に応じて自由に教材を選択でき、自由に英語学習できるシステムを導入し、英語力の向上のサポートを行っている。【資料 2-8-22】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-8-1】 全学の教員組織（学部・大学院等） ※【データ編・表 F-6】と同じ
- 【資料 2-8-2】 専任教員の学部、研究科ごとの年齢別の構成  
※【データ編・表 2-15】と同じ
- 【資料 2-8-3】 教員等選考規程・教員等資格審査に関する基準
- 【資料 2-8-4】 徳島文理大学教員の平成 28 年度の活動報告(アニュアルレポート)様式
- 【資料 2-8-5】 人間生活学部教育・研究年報 平成 28 年度
- 【資料 2-8-6】 音楽学部平成 28 年度教育・研究年報
- 【資料 2-8-7】 薬学部教育・研究年報第 10 号 2015 年
- 【資料 2-8-8】 総合政策学部 2016 年度教育・研究年報
- 【資料 2-8-9】 保健福祉学部 2015 年度教育・研究年報
- 【資料 2-8-10】 文学部教育・研究年報 2016 年
- 【資料 2-8-11】 2016 年理工学部年報
- 【資料 2-8-12】 香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 11 号 2016 年
- 【資料 2-8-13】 平成 28(2016)年度 FD 研究部会活動報告書 ※【資料 2-2-11】と同じ
- 【資料 2-8-14】 本学 Web ページ「授業改善活動 (FD 活動)」 ※【資料 2-6-2】と同じ
- 【資料 2-8-15】 第 9 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集
- 【資料 2-8-16】 徳島文理大学学則（1 頁） ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-8-17】 全学教務委員会要綱 ※【資料 1-3-12】と同じ
- 【資料 2-8-18】 全学教務委員会平成 28 年度議事 ※【資料 1-3-13】と同じ
- 【資料 2-8-19】 平成 29 年度キャンパスガイド（34-36 頁） ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-8-20】 平成 29 年度キャンパスガイド（33 頁） ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-8-21】 本学 Web ページ「全学共通教育センター」 ※【資料 2-3-4】と同じ
- 【資料 2-8-22】 本学 Web ページ「語学センター」 ※【資料 2-3-8】と同じ

#### 【自己評価】

- ・ 大学学部学科、大学院研究科、大学専攻科、研究所等の運営、研究指導、教育課程の遂行等、学部の種類及び規模、専門分野の専攻に応じ必要な教員数は、大学設置基準、大学院設置基準を満たしており、教育研究・研究指導を行ううえで、十分な教員組織体制となっている。
- ・ 兼任（非常勤）教員数について、その依存率の高い学部学科が見られるが、広く深い専門の知識・技術を教授研究する必要から、その分野の高い専門性を備えたふさわしい教員を配置し、学部学科等の目的・目標の達成に努めている。
- ・ 年齢構成については、年齢の高い教員の占める割合が高くなっているが、豊富な経験と熟達した技術が教育上、大きな成果を上げていると判断している。
- ・ 教員の採用・昇任については、「徳島文理大学教員等選考規程」及び「徳島文理大学教

員等資格審査に関する基準」に則り、本学の建学精神や教育理念を理解し、教員としての資質を十分兼ね備えた人材を採用している。昇任や教員評価については、教育研究業績、「教員活動状況調査（アニュアルレポート）」による自己評価や各学部において発刊している「教育・研究年報」等から、教員の資質・能力を判断し、適性に運用している。

- FD・SD研修等、研修会・講演会への参加、研究授業の参観、授業評価による改善点の把握、教育・研究奨励の一つとしての発表会の開催等をとおして、教育の流れや動向について理解を深めるとともに、教育への意欲付けや授業改善等において、教員の資質・能力の向上に効果が現れている。このようなことから、本基準を満たしていると判断している。
- 一般総合科目の履修にとどまらず、入学前教育、新入生導入教育等を積極的に行っており、教養教育実施のための体制が整備されていると判断している。

### (3) 2-8の改善・向上方策（将来計画）

- 教員組織の編成については、すべての学部・学科及び大学院専攻課程には、大学設置基準第13条別表第一及び別表第二、大学院設置基準第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数(文部省告示第175号)に規定される基準若しくは基準以上の教員を配置している。今後も学部学科等における教育課程の遂行や教育研究指導等の一層の充実を図るためにも、専門領域、年齢、職位等を考慮しながら適切な配置に取り組んでいく。
- 教員の採用に関しては、学内推薦によるのみでなく、本学 Web サイト及び公的機関を利用し、公募したことによって、より募集人物像に沿った教員を確保することができた。教員の昇任については、履歴・業績、特に現在の職位に就いたときからの実績（教育、研究、社会貢献、大学運営等）、人格等の観点から教員としての資質や能力等の適性並びに職位の妥当性を審査してきた。今後も教員採用・昇任にあたっては、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図らなければならないことを考え、年齢構成や専門領域に関わる経歴、業績等に配慮し、さらなる教員の充実をめざしていく。
- 教員評価に関して学長は、部局長会や合同教授会において、すべての教員を対象に教育研究への精励を説き、大学教員としての自覚を促し、業績を積むことの意義を説くとともに、「教員活動状況調査（アニュアルレポート）」を毎年度提出させている。さらに一層、教員には教育研究業績を積み重ね、教育研究の向上をめざすことを奨励していく。
- 教員の資質・能力の向上への取り組みについては、アクティブ・ラーニング等、適時性があり、関心の高いテーマをもった研修会・講演会を実施し、各教員の教育力向上発展に繋がるような機会を設けていく。
- 平成20(2008)年度から「一般総合科目」の中に「文理学」を設置し、初年次教育として定着してきたが、さらなる内容の充実を図るため、平成26(2014)年度から「地域学」を導入し、平成27(2015)年度には授業回数を15コマから20コマに変更した。
- 一般総合科目（教養科目）の見直しについて、引き続き「全学教務委員会」と「全学共通教育研究部会」で協議していく。

- ・ 本学の授業改善をさらに推し進め、学生の学力向上と中退予防を図るため、平成29(2017)年度から、香川薬学部を対象にチームFDを結成し、「NPO法人NEWVERY」の支援による教職員を交えた研修を企画している。

## 2-9 教育環境の整備

### 《2-9の視点》

#### 2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

#### 2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

##### (1) 2-9の自己判定

基準項目2-9を満たしている。

##### (2) 2-9の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### 【事実の説明】

#### 2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

##### 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備

- ・ 本学の校地校舎の面積は、【表2-9-1】のとおり大学設置基準第34条～第40条を満たしている。

【表2-9-1】校地・校舎面積と大学設置基準との比較

	本学	設置基準上の必要面積
校地面積	435,785.1 m <sup>2</sup>	57,600.0 m <sup>2</sup>
校舎面積	163,891.9 m <sup>2</sup>	57,995.0 m <sup>2</sup>

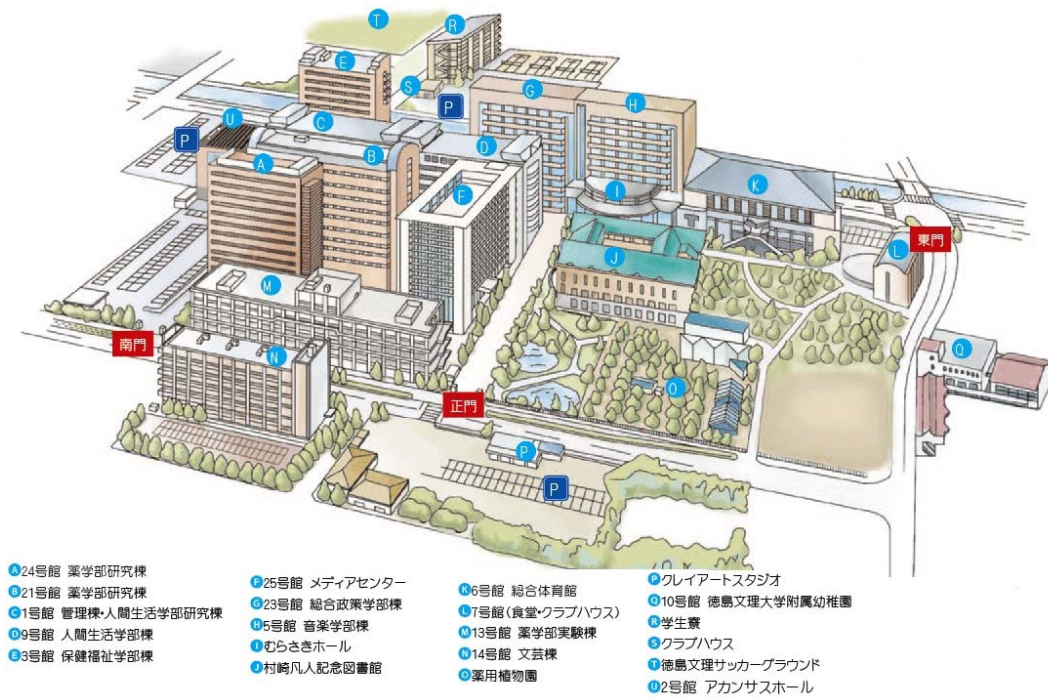
- ・ 本学は徳島県と香川県にキャンパスを展開しており、その概要は以下のとおりである。
- ・ 学生・教職員の安全確保のため、平成元(1989)年から27年をかけて、平成28(2016)年3月に徳島・香川両キャンパスのすべての建物の建て替えが完了し、耐震化を達成した。【資料2-9-1】
- ・ 災害や今後予測される南海トラフ地震の発生に備え、毎年両キャンパスで防災避難訓練を実施している。【資料2-9-2】

##### (1) 徳島キャンパス

- ・ JR徳島駅から約3km南東の徳島市街地に位置する。ここには、5学部（薬学部、人間生活学部、保健福祉学部、総合政策学部、音楽学部）と短期大学部、4大学院研究科（薬学研究科、人間生活学研究科、看護学研究科、総合政策学研究科）、3専攻科（人間生活学専攻科、音楽専攻科、助産学専攻科）、それに附属幼稚園が付設されている。【図2-9-1】【表2-9-2】【資料2-9-3】
- ・ 校地は188,573.8 m<sup>2</sup>、校舎は94,290.6 m<sup>2</sup>、うち運動場は至近の校外に124,808.1 m<sup>2</sup>有している。【資料2-9-4】
- ・ 校舎には、学長室、会議室、事務室、研究室、教室等の施設を含んでおり、原則として専任教員に研究室を配分している。

# 徳島文理大学

【図 2-9-1】 徳島キャンパスの施設略図



【表 2-9-2】 徳島キャンパスの主要施設概要 ※登記面積を記載

施設名・号館	総床面積 (㎡)	階数	主要用途
1号館	10,059	11	管理棟・人間生活学部研究棟 (調理室、実習室、実験室、共同機器センター、チャレンジラボ)、健康科学研究所
2号館	2,795	3	アカンスホール (大講義室)、保健センター、地域連携センター
3号館	8,163	12	保健福祉学部棟 (看護学科実習室)
5号館	11,728	12 (地下1)	音楽学部棟、学園創立110周年記念むらさきホール (音楽ホール)、児童学科ピアノレッスン室
6号館	5,666	3	総合体育館 (卓球場、柔・剣道場、トレーニングルーム、アリーナ)
7号館	1,675 1,188	1~2 3~5	研修センター、学生食堂、レストランパウゼ、売店、部室
9号館	8,163	12	人間生活学部棟
10号館	888 (1,681)	3	附属幼稚園、教育実習室
13号館	5,875	5	薬学部実験棟
14号館	2,754	6	文芸棟、給食経営管理実習室、保育科ピアノレッスン室
21号館	10,894	11	薬学部研究棟 (NMR 測定室、国際会議室、生薬研究所、ハイテクリサーチセンター、情報処理センター)
23号館	8,638	12	総合政策学部棟 (プレゼンテーション室)
24号館	7,351	11	薬学部研究棟 (機器分析センター、RI 実験センター、電子顕微鏡室、共焦点レーザー顕微鏡室、動物実験センター)
25号館	9,663	11	メディアセンター (情報センター、学生部、就職支援部、全学共通教育センター、メディアラボ、語学センター、コンビニエンスストア)
図書館	7,050	6	村崎凡人記念室、ラーニングcommons、ブラウジングコーナー、AVホール、グループ学習室、書庫、茶室
学生寮	2,092	6	寄宿舎
エネルギーセンター	777	2	省エネルギー発電装置
弓道場	114	1	弓道練習場
運動場	124,808	—	野球場、サッカー場

テニスコート	2,565	4面	オムニコート
実習支援センター	376	2	臨地実習施設
クラブハウス	104	1	テニスコート、グラウンド利用学生専用

### ①教育研究施設

- ・ 講義室、実習室、実験室等の施設及び教育用機器備品は、必要数を十分に満たしている。
- ・ 研究用機器装置については、誘導結合プラズマ質量分析装置（平成 24(2012)年）・超臨界 LC-MS 装置（平成 26(2014)年）等の導入を行うなど最新の整備を図っている。【資料 2-9-5】
- ・ 看護、薬学、助産及び臨床工学科等に関する病院実習の推進を目的に、平成 21(2009)年徳島赤十字病院の隣接地に開設した学習室や宿泊施設を有する実習支援センターを利用し、より実践的な現場実習を行っている。【資料 2-9-6】

### ②附属図書館

- ・ 村崎凡人（前理事長）記念図書館として設立、その内部に設置された村崎凡人記念室では、訪れる者すべてが建学精神「自立協同」を実感することができる。図書蔵書は約 34 万冊、学術雑誌 1,236 誌ですべて開架方式、瞬時に蔵書の情報を調べられる検索システム OPAC がある。【資料 2-9-7】
- ・ 併設施設としては、デスクトップパソコン 40 台、ノート型パソコン 15 台、iPad10 台を設置し、自主研究やグループ学習が可能なラーニングコモンズ、DVD・CD・ビデオ等あらゆる視聴覚資料を自由に利用できる AV コーナー、全国紙や各都道府県の地方紙等 50 以上の新聞を読むことができるブラウジングコーナー、外国絵本を原書で楽しめる絵本ライブラリー等がある。最近の学術情報多様化・増加に伴い、電子ジャーナルやデータベースにも積極的に対応している。【資料 2-9-8】
- ・ 座席数は 688 席あり平成 28(2016)年度の開館日数は年間 293 日、開館時間は平日(月～金) 8:30～20:00、土曜日 8:30～13:00 で、利用実績は 80,561 人であった。また、学外者にも開放している。【資料 2-9-9・資料 2-9-10】

### ③体育施設【資料 2-9-11】

- ・ 総合体育館は 3 階建てで、総床面積は 5,666 m<sup>2</sup>である。1 階は卓球場、柔・剣道場、トレーニングルームで、授業や部活動に利用されている。2 階は大ホール兼用のアリーナ、3 階は 360 席の観客席になっている。
- ・ 運動場は、徳島キャンパス近隣及び 2 km 程度の場所に 2 か所あり、部室及び器具庫等必要施設を備えている。準硬式野球、サッカー等の練習、及び学生のレクリエーション等に活用されている。
- ・ テニスコートは夜間照明を設備したオムニコートが 4 面あり、学生・教職員の福利厚生に寄与している。平成 27(2015)年には、人工芝の全面張り替え等の整備を行った。

### ④情報施設（メディアセンター）【資料 2-9-12】

- ・ メディアセンター（25 号館）は平成 19(2007)年 4 月に設置された 11 階建て総床面積 9,663 m<sup>2</sup>の建物である。バーチャルスタジオ等のメディア教育設備や装置を備え、学内 ICT（情報通信技術）化の推進と、学生のための学習支援やキャンパスライフをサ



ポートする拠点としている。

- ・メディアセンター4階にある「情報センター」は、学内 ICT 化の拠点として設置されている。本学では、高精度セキュリティネットワーク、学内情報統合データベース等の ICT インフラ投資を終えて、学生情報共有システムと事務情報共有システムを有している。
- ・両キャンパス内にセキュリティ対応無線 LAN を構築して、全館ラウンジから学内ネットワークにログインできるようにしている。
- ・メディアセンター5階の「語学センター」では、CS 放送が常時放送され、学生が eラーニングにより自主学習できる。また、6階には、基礎学力の向上を図ることを目的とした「全学共通教育センター」が配置されている。

#### ⑤むらさきホール (5号館)

- ・総床面積 6,080 m<sup>2</sup>、客席数 1,314 席の音楽ホールで、世界で 4 番目の設置となった大型キャノピー（可動式音響反射板）を持ち音響効果等において最高レベルの技術が駆使されている。ここでは、音楽学部の定期演奏会、国際的な演奏家や指揮者のコンサート、さらには、各界トップレベルの人物を講師に招聘した公開講座等が開催され、地域の文化・芸術の発展にも貢献している。【資料 2-9-13】

#### ⑥2号館・アカンサスホール

- ・3階建て総床面積 2,795 m<sup>2</sup>の 2号館は平成 27(2015)年 3月に耐震改築し、保健センター、地域連携センター、大講義室等の施設が設置されている。【資料 2-9-14】
- ・アカンサスホールは 450 席の階段教室となっており、講義での利用のほかコンサート、演劇、講演会・講義等、多目的利用が可能な施設となっており、地域連携事業の一層の振興を図っている。
- ・身障者への対策として玄関入口スロープ・専用トイレ・階段手摺のほか、玄関を自動扉とし点字ブロックを備えたバリアフリーの構造としている。【資料 2-9-15】
- ・省エネ及び環境配慮対策として、屋上に 49kW の太陽光発電・地中約 100m の地下水を利用した地中熱ヒートポンプ装置を導入し、電力の低減を図るとともに、利用者の快適性を向上させている。【資料 2-9-16】

## (2) 香川キャンパス

- ・香川県東部のさぬき市（JR 志度駅から約 2 km 北東）に位置する。香川県の強い要請により開設された本キャンパスは、さぬき市の行政や市民に広く親しまれ、地元コミュニティバス路線の停留所がキャンパス内に設置されている。ここには 4 学部（香川薬学部、保健福祉学部、理工学部、文学部）、さらに、2 大学院研究科（工学研究科、文学研究科）が配置されている。【図 2-9-2】【表 2-9-3】【資料 2-9-3】
- ・校地は 247,211.3 m<sup>2</sup>、校舎は 69,601.3 m<sup>2</sup>うち運動場は校外に 195,224.5 m<sup>2</sup>を有している。【資料 2-9-4】
- ・校舎には、学長室、会議室、事務室、研究室、教室等の施設を含んでおり、原則として専任教員に研究室を配分している。

【図 2-9-2】 香川キャンパスの施設略図



\*JR 高松駅からのアクセス： JR 高徳線 志度駅下車 さぬき市コミュニティバス「徳島文理大学」下車

【表 2-9-3】 香川キャンパスの主要施設概要 ※登記面積を記載

施設名・号館	総床面積 (㎡)	階数	主要用途
3号館	1,004	2	管理棟
4号館	1,829 479	1~3 2	学生サポートセンター (茶室、コンビニエンスストア、部室)
5号館	5,792	6	講義棟
6号館	1,962	3	研修センター (学生食堂)
7号館	4,976	9	中央研究棟 (文学研究棟、比較文化研究所、保健センター、国際会議室)
8号館	2,486	6	講義棟 (実習室)
9号館	3,933	2	体育館
10号館	6,566	8	理工学部研究棟 (中央機器室、未来科学研究所)
11号館	2,190	5	理工学部・保健福祉学部実習棟 (実習工場、コンピュータ室、医工学シミュレーションセンター)
12号館	1,313	2	村崎サイメモリアルホール (音楽ホール)
13号館	1,733	5	講義棟
14号館	3,062	5	講義棟
15号館	2,709	5	保健福祉学部研究棟 (X線CT室、MRI、メディカルシミュレーション室)
16号館	12,935	6 (地下2)	リサーチ アンド メディア ライブラリー (図書館、メディアセンター、語学センター、エネルギーセンター、110周年記念室)
17号館	1,985	5	理工学部・保健福祉学部研究棟
18号館	4,225	6	理工学研究棟 (チャレンジラボ・中央機器室)
20号館	10,103	8	香川薬学部研究棟 (中央機器室、実習室、神経科学研究所)
21号館	4,285	5	香川薬学部実習棟 (実験動物研究施設、RI実験施設、実習室)
運動場	195,224	—	野球場、サッカー場
テニスコート	2,891	4面	オムニコート

### ①教育研究施設

- ・ 理工学部研究棟 10 号館とナノ物質工学科棟 18 号館は、最新機器が導入されインテリジェント化されている。18 号館 1 階には、24 時間対応のチャレンジラボが設置され、学生達が与えられた課題に創意工夫を凝らしてチャレンジしている。【資料 2-9-17】
- ・ 香川薬学部研究棟 20 号館と、同実習棟 21 号館には、NMR 等最新の高性能な機器類が装備され、学生達の貴重な実習体験はもとより、ここでの研究成果は広く学外（海外を含む）からも高い評価を受けている。【資料 2-9-18】
- ・ 保健福祉学部研究棟 15 号館には、検査・撮影機器や画像処理機材等を設備し、11 号館の実習棟で模擬シミュレータを用いて、臨床現場を想定した実習を行っている。【資料 2-9-19】

### ②附属図書館

- ・ 図書館は、書籍と電子メディアの特性を融合させることに留意して、リサーチ・アンド・メディアライブラリーと称する。蔵書は約 35 万冊、学術雑誌 874 誌、視聴覚・コンピュータメディア 12,339 点等、資料数は豊富である。また、電子メディアによるデジタル情報を学習研究に活用できるよう環境を完備している。【資料 2-9-7】
- ・ 併設施設として、建学精神「自立協同」に理解を深め、本学の歴史を再認識できる 110 周年記念室、DVD やビデオ等で映画・音楽資料が自由に視聴できる AV コーナー、eラーニング等、豊富な教材により各自の語学力にあった自主学習ができる語学学習ラウンジ、各都道府県の地方新聞等を閲覧できるブラウジングコーナー、デスクトップパソコン 36 台を設置するパソコンコーナーに加え、貸出用ノート型パソコン 40 台を館内で利用できる。【資料 2-9-8】
- ・ 座席数は 811 席である。開館日と開館時間は、春期休業期間を除いて徳島キャンパスと同様で、平成 28 年度利用実績は 65,197 人であった。また、学外者にも開放している。【資料 2-9-9・資料 2-9-10】

### ③体育施設【資料 2-9-11】

- ・ 体育館は 2 階建てで、総床面積は 3,933 m<sup>2</sup>である。1 階は卓球場、柔・剣道場、トレーニングルームで、2 階はバレーボール、バスケットボール、バドミントンのコートがある。いずれも授業や部活動で活発に利用されている。
- ・ 運動場はキャンパス外にあり、同市内合計 2 か所に 195,224 m<sup>2</sup>の総合運動場で、十分な面積を確保している。ここでは、主に硬式野球、陸上等の練習が行われ、利用頻度は高い。
- ・ テニスコートはキャンパス内にオムニコートをも 4 面設けている。

### ④村崎サイメモリアルホール【資料 2-9-20】

- ・ このホールは、学園創立者村崎サイが理想とする教育の集大成を象徴したもので、全 896 席の階段教室である。学内の卒業式や入学式だけでなく、一般のコンサートや演奏会、公開講座や発表会等にも利用され、地域のホールとして親しまれている。

### (3) 運営・管理

- ・ 両キャンパスともに、事務部門の施設・用度グループが、施設設備の維持運営を担当

し、関係法令を遵守し安全管理に努めている。維持作業は原則として専門業者に委託している。建物・構築物、電気設備、水まわり、空調設備等の各担当業者が、本学専任部署として本学近隣に常駐して万全の体制をとっている。【資料 2-9-21】

- ・ 学内清掃、消防設備保守、エレベーター保守等は専門業者と委託契約を締結して実施している。施設設備の運営は、庶務・渉外グループ、施設・用度グループ、学部事務グループが範囲を定めて担当している。【資料 2-9-21】
- ・ 情報関係設備等の維持管理は、情報センターが担当し、ハードウェアの保守・更新、ライセンスの期限管理、ネットワークの点検、情報教育の企画等を実施している。この領域は、年々変化の激しい分野であり、専門業者との協力関係を密接にし、より万全の体制がとれるように配慮している。【資料 2-9-21】
- ・ 法人事務局の経理部内に管財担当部署を置き、本学を含む各学校の施設設備、維持管理・運営について常に状況を把握し、指導・支援の体制を確立している。【資料 2-9-21】
- ・ バリアフリー化については、スロープ・階段手摺を徳島・香川キャンパスの各建物に整備している。【資料 2-9-15】

## 2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

- ・ 平成 28(2016)年度の調査では、40 人以下のクラスサイズの割合が徳島キャンパスで 56.3%、香川キャンパスで 66.6%、100 人以上の割合が徳島キャンパスで 7.4%、香川キャンパスで 1.2%であり、適切に管理されている。【資料 2-9-22】
- ・ 国家資格の取得を目的とする学科は、法に定めるところによるクラスサイズで授業を行っている。

### 【エビデンス集・資料編】

【資料 2-9-1】耐震実施状況

【資料 2-9-2】防災訓練：実施記録

【資料 2-9-3】2018 年大学案内（160-163・176-177 頁） ※【資料 F-2】と同じ

【資料 2-9-4】キャンパス別の校地、校舎、運動場面積

【資料 2-9-5】教職員グループウェア「備品・用品管理台帳」薬学部備品一部抜粋

【資料 2-9-6】本学 Web ページ「看護学科案内」

【資料 2-9-7】図書、資料の所蔵数 ※【データ編・表 2-23】と同じ

【資料 2-9-8】本学 Web ページ「図書館」

【資料 2-9-9】附属図書館利用規程

【資料 2-9-10】学生閲覧室等 ※【データ編・表 2-24】と同じ

【資料 2-9-11】本学 Web ページ「体育施設」

【資料 2-9-12】本学 Web ページ「メディアセンター（徳島キャンパス）」

【資料 2-9-13】本学 Web ページ「むらさきホール（徳島キャンパス）」

【資料 2-9-14】本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.76」（6 頁）

【資料 2-9-15】平成 29 年度キャンパスガイド（10-11 頁） ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-9-16】本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.72」（4 頁）

【資料 2-9-17】2018 年大学案内（103 頁） ※【資料 F-2】と同じ

- 【資料 2-9-18】 2018 年大学案内（100-101 頁） ※【資料 F-2】と同じ
- 【資料 2-9-19】 2018 年大学案内（76-79 頁） ※【資料 F-2】と同じ
- 【資料 2-9-20】 本学 Web ページ「村崎サイメモリアルホール（香川キャンパス）」
- 【資料 2-9-21】 学校法人村崎学園事務組織規程 ※【資料 2-1-13】と同じ
- 【資料 2-9-22】 平成 28 年度クラスサイズ一覧表

#### 【自己評価】

- ・ 校地及び校舎は大学設置基準を上回る面積を有しており、施設設備は質・量ともに本学の教育研究活動の目的を達成するために充分であり、大学設置基準第 34 条～第 40 条を満たしている。
- ・ 図書館については収容定員に比べ十分な規模を有し、学生や教員の要望に添っている。
- ・ 施設設備の維持は、担当部署の管理と委託業者の協力により円滑に運営されている。
- ・ 徳島キャンパスのむらさきホールは、音響効果に技術の粋を尽くした世界トップクラスの設備を有した音楽ホールであり、四国における音楽教育の拠点として重要な役割を果たしている。また、市民に開放されたコンサートや公開講座は、本学学生のみならず、地域の人々への文化・芸術の発信地として評価されている。
- ・ メディアセンター(25 号館)は、メディア教育設備を有し、学生にコンピュータールームを 20 時まで開放するなど、教育効果の向上と学生への利便性を図っている。
- ・ 保健センターには診察室のほか、相談室、静養室を設け快適な環境で学生たちの健康管理の一層の充実を図っている。
- ・ すべての建物の耐震化が完了しており、施設・設備の安全性は確保されていると判断している。
- ・ バリアフリー化を促進しており、施設や設備も利便性に配慮していると判断している。
- ・ 各学部・学科の特性や授業科目により、適切なクラスサイズが異なるが、実際に学修する学生にとって最適な人数となるよう配慮している。

#### (3) 2-9 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 時代の要請に応じ、科学技術の進歩に対応した施設設備の管理・更新を図るとともに、学生のアメニティにも、より一層の配慮に努めていく。
- ・ 施設設備の維持管理は、環境問題も加わり、省エネルギー推進委員会と討議するなど、多方面から検討を加える必要がある。各種有資格の技術者を養成し、維持運営管理の質的向上を図って万全の体制を築く。
- ・ バリアフリー化について一層の充実をめざしていく。

#### 【基準 2 の自己評価】

- ・ 建学精神のもと、教育研究上の目的や教育方針を掲げ、それに応じた 3 つのポリシーを明確に定めていると判断している。
- ・ 本学は教育目的達成をめざし、高い教育効果が得られるよう、施設を有効活用し、教育内容・方法に工夫を加え、学生自らが将来の目標を見出しそれに進む積極性を教職員協働で支援していく体制が整備されていると判断している。

### 基準 3. 経営・管理と財務

#### 3-1 経営の規律と誠実性

##### 《3-1 の視点》

##### 3-1-① 経営の規律と誠実性の維持の表明

##### 3-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

##### 3-1-③ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関連する法令の遵守

##### 3-1-④ 環境保全、人権、安全への配慮

##### 3-1-⑤ 教育情報・財務情報の公表

#### (1) 3-1 の自己判定

基準項目 3-1 を満たしている。

#### (2) 3-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 【事実の説明】

##### 3-1-① 経営の規律と誠実性の維持の表明

##### 3-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

- ・ 学校法人村崎学園「寄附行為」第 3 条に、法人の目的を「この法人は、自立協同の建学精神を尊重し、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする」と定めている。この目的を達成するために必要な組織を設置し、組織を適切に運営するための諸規程を定め、堅実な経営を行っている。【資料 3-1-1】
- ・ 法人組織は「寄附行為」第 5 条に基づき、理事 7 人、監事 2 人の役員で構成され、業務決定の理事会と執行機関としての理事長（理事）、業務及び財産の状況等の監査機関としての監事、及び 15 人の評議員会から成る。【資料 3-1-2】
- ・ 会計処理は「学校法人会計基準」に則ってなされている。法人事務局には、「経理規程」「経理規程施行細則」、「物件の調達管理取扱規程」、「支出決裁権限規程」、「学費等収納事務取扱要領」、「職員給与規程」等、詳細に定められた諸規程がそれぞれ整備され、適切な会計処理が行われている。また、会計処理に疑義が生じたときはその都度、公認会計士に指導を仰ぎ、適切に処理している。【資料 3-1-3～資料 3-1-8】
- ・ 就業規則第 4 条第 2 項第 2 号に、職員は「学園の教育目的達成のため誠意をもって職務に専念すること」と定められており、教職員協働で実現に努めている。【資料 3-1-9】

##### 3-1-③ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関連する法令の遵守

- ・ 学校法人村崎学園「寄附行為」第 3 条において、教育基本法及び学校教育法の遵守を掲げている。また、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関する法令を遵守し、関係官公署への申請や手続きを適切に行っている。【資料 3-1-1】
- ・ 個人情報保護については、本学が保有する個人情報の適正な保護を目的に平成 17(2005)年に「個人情報保護規程」、平成 28(2016)年に「特定個人情報等取扱規程」を定めている。【資料 3-1-10】
- ・ また、法令違反行為の防止と公益通報者の保護を図るため「公益通報者保護規程」を

定めている。【資料 3-1-11】

- ・ 公的研究費の適正な運営管理と不正使用防止等を徹底するため、「教育研究助成金取扱規程」「公的研究費の取扱いに関する規程」「研究活動における不正行為への対応に関する規程」「利益相反マネジメント規程」を定め、責任体制の明確化、研究費の管理・運営体制の整備を推進している。【資料 3-1-12～資料 3-1-15】
- ・ 学園の法人事務局は、「私立学校法」に基づき、「財務情報公開に関する規程」を定め、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書及び事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書及び監査報告書を法人事務局に備えている。学生、保護者、教職員、その他利害関係者からの閲覧請求に、常時対応している。【資料 3-1-16】

### 3-1-④ 環境保全、人権、安全への配慮

- ・ 省エネや分煙の徹底、廃棄物の選別徹底等を全学で取り組んでいる。徳島・香川両キャンパスの一部施設において太陽光発電システムを設置し、運用している。
- ・ 徳島キャンパスでは、空調一括監視システムを導入し、エアコンの温度を夏 28℃、冬 20℃に設定している。また、職員に対してクールビズを実施している。【資料 3-1-17】
- ・ 人権教育については、本学の教育方針に基づき、すべての人の人権が尊重される社会の実現に向け、本学における人権教育を推進することを目的として、人権教育推進委員会が設置されている。この運営は、「人権教育推進委員会規則」に従い、学生部が担い、学生指導や職員の研修会等を実施している。【資料 3-1-18】
- ・ 本学におけるハラスメントを防止するとともに、ハラスメントが生じた場合に適切な対応を行い、本学の公正な環境における修学、就労、教育及び研究を維持することを目的として「学校法人村崎学園ハラスメント防止等規程」を定めている。それに従い設置されたハラスメント防止対策委員会の運営は徳島キャンパスの総務部が担っており、職員の研修会も実施している。【資料 3-1-19・資料 3-1-20】
- ・ 平成 22(2010)年度に、諸般の事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、危機管理体制並びに対処方法を定めることにより、学生、職員並びに近隣住民等の安全確保を図るとともに、学園の社会的な責任を果たすことを目的に「学校法人村崎学園危機管理規程」を定めている。【資料 3-1-21】
- ・ 本学では、火災・震災その他の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を図ることを目的に「防災規程」を定め、防火・防災管理委員会を置き、自衛消防隊を組織している。また、毎年、両キャンパス内の全職員と学生を対象とした防災避難訓練を実施している。【資料 3-1-22～資料 3-1-28】
- ・ 今後予測される南海トラフ地震の発生に備え、平成 27(2015)年と平成 28(2016)年には徳島県との共催で「減災科学シンポジウム」を開催し、また、学生に対しても防災避難訓練のほか、防災マニュアルを「学生ポータルサイト」や「キャンパスガイド」に記載し周知を図っている。また、防災教育にも力を入れ、普通救命講習や防災教育講座を開講し、被害防止のための事前対策と災害時に適切な行動をとるための知識・技能の習得に努めている。【資料 3-1-29～資料 3-1-32】
- ・ 大学の建物の耐震化は完了しており、建築基準法の定める基準を満たしている。予測される南海トラフ地震の発生時には、建物倒壊は最小限になるよう対応している。【資

料 3-1-33】

- ・ 本学は、学校保健法並びに労働安全衛生法に基づき、学生及び職員の安全と健康の保持増進を図るため「安全保健衛生管理規程」を定め、それに基づき衛生委員会を設置している。また、インフルエンザ等の感染症予防の呼びかけやその対応について周知を行い、感染拡大防止に努めている。【資料 3-1-34・資料 3-1-35】
- ・ メンタルヘルスケア推進のため、「職場における心の健康づくり計画」を策定するとともに、職員に対する「職場アンケート調査」を実施した。【資料 3-1-36】
- ・ 平成 28(2016)年度に、「ストレスチェック制度実施規程」を定め、11 月 28 日から 12 月 9 日に Web で実施した。【資料 3-1-37・資料 3-1-38】

### 3-1-⑤ 教育情報・財務情報の公表

- ・ 学校教育法施行規則改正により、平成 23(2011)年 4 月 1 日から教育情報を本学 Web サイトに掲載し、公表している。【資料 3-1-39】
- ・ 財務情報は私立学校法に則り、学園本部に備え置き閲覧に供するとともに、本学 Web サイトに掲載し公表している。また、「徳島文理大学通信アカンサス」にも掲載している。【資料 3-1-40・資料 3-1-41】

#### 【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-1】 学校法人村崎学園寄附行為（1 頁） ※【資料 F-1】と同じ

【資料 3-1-2】 理事・監事・評議員名簿 ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-1-3】 学校法人村崎学園経理規程

【資料 3-1-4】 学校法人村崎学園経理規程施行細則

【資料 3-1-5】 学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程

【資料 3-1-6】 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部支出決裁権限規程

【資料 3-1-7】 学校法人村崎学園学費等収納事務取扱要領

【資料 3-1-8】 学校法人村崎学園職員給与規程

【資料 3-1-9】 学校法人村崎学園就業規則

【資料 3-1-10】 学校法人村崎学園個人情報保護規程・特定個人情報等取扱規程

【資料 3-1-11】 学校法人村崎学園公益通報者保護規程

【資料 3-1-12】 教育研究助成金取扱規程

【資料 3-1-13】 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部公的研究費の取扱いに関する規程

【資料 3-1-14】 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部研究活動における不正行為への対応に関する規程

【資料 3-1-15】 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部利益相反マネジメント規程

【資料 3-1-16】 財務情報公開に関する規程

【資料 3-1-17】 クールビズについて

【資料 3-1-18】 人権・ハラスメント講演会について

【資料 3-1-19】 学校法人村崎学園ハラスメント防止等規程

【資料 3-1-20】 徳島文理大学ハラスメント防止対策委員会要項 ※【資料 2-7-3】と同じ

【資料 3-1-21】 学校法人村崎学園危機管理規程



- 【資料 3-1-22】 防災規程
- 【資料 3-1-23】 平成 29 年度防火・防災管理委員会組織表
- 【資料 3-1-24】 平成 29 年度各棟防火・防災、火元責任者表
- 【資料 3-1-25】 自衛消防隊の編成と任務
- 【資料 3-1-26】 平成 29 年度自衛消防隊組織役割表
- 【資料 3-1-27】 防災訓練：実施記録 ※【資料 2-9-2】と同じ
- 【資料 3-1-28】 夜間・休日の地震に伴う津波注意報・津波警報等発令時の初期対応について
- 【資料 3-1-29】 減災科学シンポジウム in 徳島
- 【資料 3-1-30】 学生ポータルサイト・地震(津波)対応マニュアル(防災マニュアル含む)
- 【資料 3-1-31】 平成 29 年度キャンパスガイド(154-155 頁) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 3-1-32】 第 8 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集(5-8 頁)
- 【資料 3-1-33】 耐震実施状況 ※【資料 2-9-1】と同じ
- 【資料 3-1-34】 学校法人村崎学園安全保健衛生管理規程(衛生委員会会則含む)
- 【資料 3-1-35】 インフルエンザ感染の対応
- 【資料 3-1-36】 職場における心の健康づくり計画
- 【資料 3-1-37】 学校法人村崎学園ストレスチェック制度実施規程・実施要綱
- 【資料 3-1-38】 平成 28 年度ストレスチェック制度の実施について
- 【資料 3-1-39】 本学 Web ページ「教育情報の公表」
- 【資料 3-1-40】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 79」(17 頁)  
※【資料 2-7-27】と同じ
- 【資料 3-1-41】 本学 Web ページ「平成 28 年度学園の事業報告」 ※【資料 F-7】と同じ

#### 【自己評価】

- ・ 法人の管理運営体制は、「寄附行為」に基づき、適切に運営され、教職員協働で使命・目的の実現のために継続的に努力していると判断している。
- ・ 建学精神に基づく教育目的を達成するために、安定した収入を確保し、かつ学校運営の充実のため、適正に支出することを財政の方針として、円滑に運営していると判断している。
- ・ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準等の法令を遵守した運営を行っているとは判断している。
- ・ エネルギー節約等環境保全に力点を置くことと、学修環境の向上とは相互に関係することであると認識しており、全学で取り組んでいる。
- ・ 今後予測される南海トラフ地震の発生に備え、施設の整備並びに防災教育を充実させ、被害を最小限にするように努めている。
- ・ ハラスメントや人権に対しては、規程等で明確に定められ、相談するための体制も整っており、適切であると判断している。
- ・ メンタルヘルスケアの推進については、衛生委員会の審議を踏まえ、適宜適切に対応している。
- ・ 財務情報の公表では用語説明、グラフ等を表示し、わかりやすい説明に努めている。

(3) 3-1 の改善・向上方策（将来計画）

- 大学の持つ公共性に鑑み、教育情報・財務情報の公表について、関係法の遵守と組織倫理に基づく適正な運営の継続に努める。
- 財務情報の公開については、引き続きわかりやすい説明に努める。

**3-2 理事会の機能**

《3-2 の視点》

**3-2-① 使命・目的の達成に向けて戦略的意思決定ができる体制の整備とその機能性**

(1) 3-2 の自己判定

基準項目 3-2 を満たしている。

(2) 3-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

**3-2-① 使命・目的の達成に向けて戦略的意思決定ができる体制の整備とその機能性**

- 法人組織は「寄附行為」に基づき、理事 7 人、監事 2 人の役員で構成され、業務決定の理事会と執行機関としての理事長（理事）、業務及び財産の状況等の監査機関としての監事、及び 15 人の評議員会から成る。次に法人組織の管理運営体制を示す。【資料 3-2-1】

**①法人組織の管理運営体制**

- 法人組織：役員－理事 7 人・監事 2 人 理事会・常任理事会（業務決定機関）及び監事（業務・財産状況等の監査機関）【資料 3-2-2】
- 評議員会：評議員－15 人【資料 3-2-2】
- 法人事務局－事務局長（総務部、企画部、経理部）【資料 3-2-3】
- 法人の管理運営は、「寄附行為」に定められている。【資料 3-2-1】
- 法人は、幼稚園、小学校、中学校・高等学校、短期大学部、大学・専攻科及び大学院を設置している。
- 理事会（平成 28(2016)年度は、11 回開催）は、「理事会規則」により運営され、法人の業務に関わる事項を決定する。なお、通知に示された議事について書面で意思を表示した者は、出席者とみなすと「寄附行為」に定めている。【資料 3-2-1】【資料 3-2-4・資料 3-2-5】
- 常任理事会（平成 28(2016)年度は、1 回開催）は、理事のうち 5 人の常任理事で構成し、「常任理事会規則」により運営され、理事会審議事項をあらかじめ審議するとともに、その他委任された事項を審議・決定している。【資料 3-2-6・資料 3-2-7】
- 評議員会は、「寄附行為」に定める機関として「評議員会規程」に基づき、予算や事業計画等の重要事項について、理事会の開催前に意見を述べる役割を担っている。【資料 3-2-8・資料 3-2-9】
- 監事は、財務・経理の監査のほか、理事会・評議員会・部局長会等の重要な会議に出席し、監査機関としての役割を担っている。【資料 3-2-10～資料 3-2-12】
- 法人の管理運営に関わる役員（理事・監事）及び評議員の選任は、「寄附行為」の規定に基づき行われている。【資料 3-2-1】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-2-1】 学校法人村崎学園寄附行為（2 頁） ※【資料 F-1】と同じ
- 【資料 3-2-2】 理事・監事・評議員名簿 ※【資料 F-10】と同じ
- 【資料 3-2-3】 平成 29 年度学校法人村崎学園組織(事務関係) ※【資料 2-3-3】と同じ
- 【資料 3-2-4】 学校法人村崎学園理事会規則
- 【資料 3-2-5】 理事会開催状況（平成 28 年度） ※【資料 F-10】と同じ
- 【資料 3-2-6】 学校法人村崎学園常任理事会規則
- 【資料 3-2-7】 常任理事会開催状況（平成 28 年度） ※【資料 F-10】と同じ
- 【資料 3-2-8】 学校法人村崎学園評議員会規程
- 【資料 3-2-9】 評議員会開催状況（平成 28 年度） ※【資料 F-10】と同じ
- 【資料 3-2-10】 学校法人村崎学園監事監査規則
- 【資料 3-2-11】 学校法人村崎学園監事監査実施要領
- 【資料 3-2-12】 平成 29 年度部局長会名簿

【自己評価】

- ・ 法人の管理運営体制は、「寄附行為」に基づき、適切に運営されている。
- ・ 理事会・常任理事会及び評議員会は、「寄附行為」「理事会規則」「常任理事会規則」「評議員会規程」に基づき、適切に運営されている。
- ・ 理事長は法人の職務を総理し、重要事項について、評議員会に諮り、意見を聴取し、寄附行為に定められた業務を適切に行っている。
- ・ 監事は定期的な監査だけでなく、部局長会等にも出席し、業務を適切に行っている。

(3) 3-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 私立学校法の改正に伴いガバナンスの強化が図られたが、平成 20(2008)年 1 月には「常任理事会」を設けて、法人の管理運営をより適切に行うようにしている。さらに、事務部長等懇談会、学部長懇談会を定例的に開催し、理事長、学長に報告・連絡・相談がスムーズにできるようになった。これからも、これらの懇談会を活用し、諸問題に適切に対応できるように、理事長・理事会と学長との連携が円滑に進むよう努める。

3-3 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ

《3-3 の視点》

3-3-① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性

3-3-② 大学の意思決定と業務執行における学長の適切なリーダーシップの発揮

(1) 3-3 の自己判定

基準項目 3-3 を満たしている。

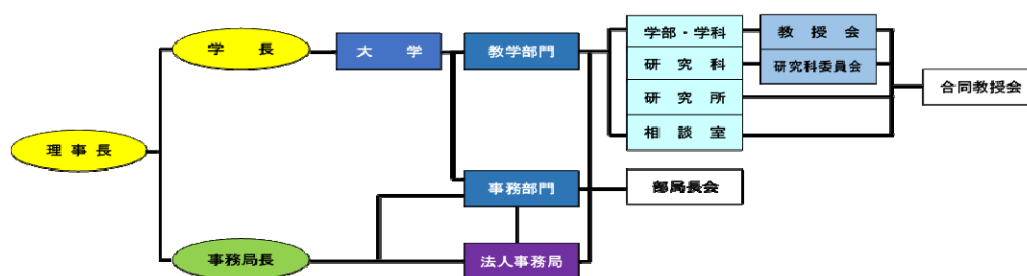
(2) 3-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

3-3-① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性

- 大学の円滑な運営を図るため、学園本部、大学の教学部門及び事務部門の連絡調整機関として「部局長会」がある。部局長会は、学長が招集し議長を務め、理事長、学長の諮問に応じて、大学の運営に関する重要事項の審議及び連絡調整を行っている。【資料 3-3-1】
- 教育研究に関する重要事項を審議する場として、学長が招集し、議長を務める「合同教授会」があり、また、各学部において学部長が招集して議長を務める「学部教授会」がある。学部教授会では、学生の入学及び卒業、並びに学位の授与について学長に意見を述べるとともに、教育研究に関する事項を審議している。さらに教育研究活動を円滑に行うことを目的に各種委員会が設置されており、教育や研究に関する広汎な問題に対応している。【資料 3-3-2・資料 3-3-3】【図 3-3-1】

【図 3-3-1】学内意思決定組織

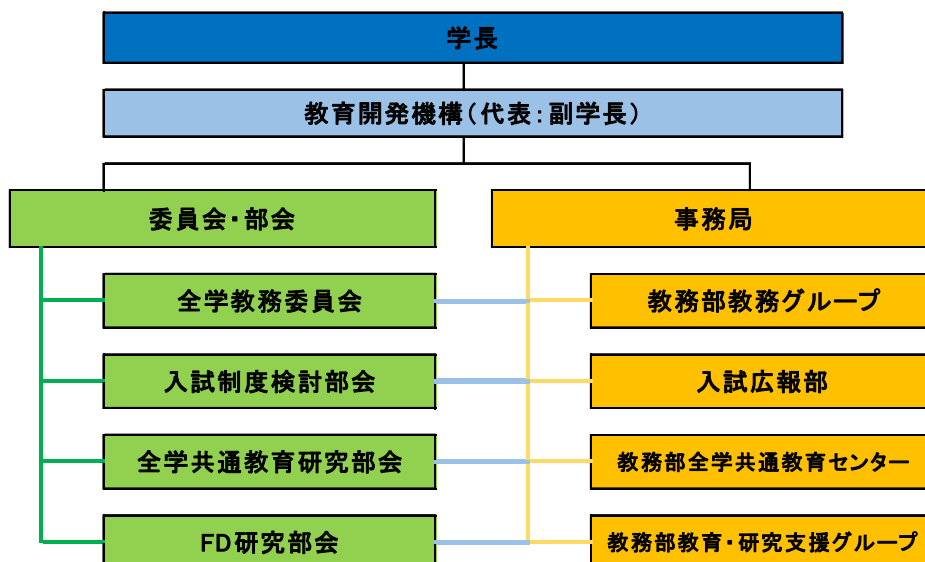


### 3-3-② 大学の意思決定と業務執行における学長の適切なリーダーシップの発揮

- インフォーマルな意見交換の場として、「事務部長等懇談会」（メンバーは学長と事務局長、徳島・香川の事務部長等）及び、「学部長懇談会」（メンバーは学長、副学長、8学部長と短期大学部長）が適宜運営され、意見交換を活発に行っているとともに、合同教授会等の補完的な役割を果たし、教育研究体制の改善に役立っている。
- 学長の諮問に応え、学部横断的な活動を推進している教育開発機構があり、同機構は教員組織と事務組織が協力しあって討議・運営していることから、活発な討議が行われている。学長の意思決定にあたって、上述のように多様なルートを通じて関係者の意思疎通が図られており、学長のリーダーシップは適格に発揮できる体制が整っており、各機関が一体となって機能している。【資料 3-3-4】【図 3-3-2】
- 副学長の役割は、「学長を助け、命を受けて公務をつかさどる。」と学則第 3 章第 6 条第 2 項に規定されている。また、学長からの諮問事項に基づいた調査研究を行う教育開発機構の代表者としての役割も担っている。【資料 3-3-4・資料 3-3-5】
- 学生の要望に対応するため、学生部、就職支援部、総務部、教務部、図書館を含む事務組織が設置されており、これらの機関から状況が適宜、部局長会、学部教授会（研究科委員会）、合同教授会に報告され、必要に応じ、対応を審議している。さらに、学生の要望は教員を通じて、学部教授会にくみ上げられ、さらに重要なものは合同教授会で討議し、承認を得るシステムが確立されている。このほか、学生の要望については、学生と接する機会の多い大学事務部門においても対応している。
- 学校教育法第 11 条及び同施行規則第 26 条に基づき、学生の懲戒に関し必要な事項を

「徳島文理大学学生懲戒規程」に定めている。学長は、学生懲戒委員会が作成した懲戒処分案に基づき、懲戒対象学生の懲戒処分を決定する。【資料 3-3-6】

【図 3-3-2】教育開発機構



【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-3-1】徳島文理大学部局長会規程 ※【資料 1-3-22】と同じ
- 【資料 3-3-2】徳島文理大学合同教授会規程 ※【資料 1-3-23】と同じ
- 【資料 3-3-3】徳島文理大学学部教授会規程 ※【資料 1-3-24】と同じ
- 【資料 3-3-4】教育開発機構設置要綱
- 【資料 3-3-5】徳島文理大学学則（4頁） ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 3-3-6】徳島文理大学学生懲戒規程

【自己評価】

- ・ 本学の円滑な運営を図るため、学園本部、大学の教学部門及び事務部門の連絡調整機関として、学長が主宰する「部局長会」があり、また、各学部の教育研究に係る事項を審議する場として「学部教授会」が設置され、学生の入学及び卒業並びに学位の授与について学長に意見を述べるとともに、学部の課題に対して活発な意見交換が行われ、その内容は各学部の教員に周知徹底されている。
- ・ さらに、教育研究に関する重要事項等について最終審議する場として、全学部教員（講師以上）が参加する「合同教授会」があり、学長のリーダーシップのもと適切に運営されていることから、大学の教育研究に関する意思決定機関が整備されかつ機能していると判断している。
- ・ 教育研究に関する重要課題の解決策や新規プロジェクトについて、フリーに意見交換ができる各種懇談会が定期的に行われ、学長のリーダーシップのもと、教育研究の継続的な改善が図られていると判断している。

(3) 3-3 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 大学の質の向上や教育ニーズの多様化に対応できるよう、教員と事務職員との意見交換を一層活発化し、効率的な運営をめざし、本学の教育開発機構のさらなる活性化により組織体制を強化し、高等教育機関としての教育・研究支援体制の充実を図る。

3-4 コミュニケーションとガバナンス

《3-4 の視点》

3-4-① 法人及び大学の各管理運営機関並びに各部門間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化

3-4-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンスの機能性

3-4-③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営

(1) 3-4 の自己判定

基準項目 3-4 を満たしている。

(2) 3-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

3-4-① 法人及び大学の各管理運営機関並びに各部門間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化

- ・ 理事長は、寄附行為第 7 条にその職務が定められているとおり、本学の管理運営に関わる基本事項、財政、人事、将来計画、施設管理等について責任と権限を有し、すべての業務を総理する。一方、学長は大学学則第 3 章第 6 条にある「校務を掌り所属職員を統督する」のとおり、大学全体の教育、授業計画、入試、学生支援、研究活動、教職員の人事等を統括し、管理部門と教学部門の連携が適切になるよう努めている。

【資料 3-4-1・資料 3-4-2】

- ・ 理事会は、学園全体の業務に関わる重要事項を審議・決定し、常任理事会は、理事会審議事項をあらかじめ審議するとともに、その他委任された事項を審議・決定する。常任理事会は、理事のうち 5 人の常任理事で構成している。【資料 3-4-3・資料 3-4-4】
- ・ 評議員会は、「寄附行為」に定めるとおり、予算や事業計画等の重要事項について、理事会の開催前に意見を述べる役割を担っている。【資料 3-4-5】
- ・ 部局長会は、「部局長会規程」に従い学長が招集し、議長を務める。本会は、理事長、学長、副学長、監事、事務局長のほか、法人事務局、大学事務の部長だけでなく、教学部門の各学部長を含め組織されている。部局長会には、徳島・香川の両キャンパスから管理部門と教学部門の役職者が出席しており、重要な伝達事項は、両キャンパスに速やかに伝わる体制が構築されている。【資料 3-4-6】
- ・ 学長が議長を務める合同教授会は、両キャンパスを遠隔配信で繋ぎ、部局長会の審議事項、報告・連絡事項を受けて教育研究に関する重要事項を審議する機関としての役割を担っている。【資料 3-4-7】
- ・ 法人事務局と徳島・香川両キャンパスにある大学事務は、事務局長によって統括されている。【資料 3-4-8】

### 3-4-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンスの機能性

- ・ 監事による監査は、「私立学校法」及び「寄附行為」に基づき行われている。監事は、理事会、評議員会に出席し、業務内容を聴取するとともに、部局長会等重要な会議にも出席し、監査機関としての役割を担っている。【資料 3-4-1】【資料 3-4-9】
- ・ 評議員会は、「寄附行為」に定めるとおり「評議員会規程」に基づき、予算や事業計画等の重要事項について、理事会の開催前に意見を述べる役割を担っている。【資料 3-4-5】

### 3-4-③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営

- ・ 理事長は、自ら新入生対象の講義「文理学」において「徳島文理大学の建学精神と歴史」を担当し、建学精神の理解を促し、本学学生としてのアイデンティティの確立を図っている。また、学内行事や会議にも積極的に出席し、リーダーシップを発揮している。【資料 3-4-10】
- ・ 教授会や各種委員会等は規程に基づき、学長のリーダーシップのもとで運営されている。学長主宰の「事務部長等懇談会」及び、「学部長懇談会」が適宜開催され、意見交換を活発に行うとともに、合同教授会等の補完的な役割を果たしている。
- ・ 学長は理事として、理事会や常任理事会にも出席し、大学を代表して教育研究部門について法人との連携に努めている。【資料 3-4-11】
- ・ 本学には、教育研究活動を円滑に行うことを目的に各種委員会が設置されている。その中でも教育開発機構は、教員組織と事務組織が協力しあって討議・運営していることから、活発な討議とともに結果が共有できる。【資料 3-4-12】
- ・ 委員会等で立案された施策は、所定の手続きを経て、決裁権限者の承認を受け、執行することとなっている。

#### 【エビデンス集・資料編】

【資料 3-4-1】 学校法人村崎学園寄附行為（3 頁） ※【資料 F-1】と同じ

【資料 3-4-2】 徳島文理大学学則（3 頁） ※【資料 F-3】と同じ

【資料 3-4-3】 学校法人村崎学園理事会規則 ※【資料 3-2-4】と同じ

【資料 3-4-4】 学校法人村崎学園常任理事会規則 ※【資料 3-2-6】と同じ

【資料 3-4-5】 学校法人村崎学園評議員会規程 ※【資料 3-2-8】と同じ

【資料 3-4-6】 徳島文理大学部局長会規程 ※【資料 1-3-22】と同じ

【資料 3-4-7】 徳島文理大学合同教授会規程 ※【資料 1-3-23】と同じ

【資料 3-4-8】 平成 29 年度学校法人村崎学園組織(事務関係) ※【資料 2-3-3】と同じ

【資料 3-4-9】 平成 29 年度部局長会名簿 ※【資料 3-2-12】と同じ

【資料 3-4-10】 平成 29 年度キャンパスガイド（33 頁） ※【資料 F-5】と同じ

【資料 3-4-11】 理事・監事・評議員名簿 ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-4-12】 教育開発機構設置要綱 ※【資料 3-3-4】と同じ

#### 【自己評価】

- ・ 部局長会は、定例的に開催されており、法人の管理部門と大学の教学部門及び事務部

門との意思疎通が緊密に図られていると判断している。

- ・ 地理的に離れた徳島・香川両キャンパスの運営を円滑に行うため、部局長会には、両キャンパスから役職者が出席することで、重要な伝達事項が、両キャンパスに速やかに伝わる体制が構築できている。
- ・ 監事は定期的な監査だけでなく、部局長会等にも出席し、業務を適切に行っている。
- ・ 理事長は法人の職務を総理し、重要事項について、評議員会に諮り、意見を聴取している。評議員会は法令並びに寄附行為に定められた業務を適切に行っており、ガバナンスの機能確保に努めている。
- ・ 使命・目的及び教育目的の達成のために理事長、学長はリーダーシップを発揮している。また、教学部門と事務部門の連携が取りやすい体制となっており、円滑に運営されていると判断している。

### (3) 3-4 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 部局長会の定例的開催等、管理部門と教学部門・事務部門の連携が適切に行われているので、今後も引き続きこの体制を維持発展させていきたい。

## 3-5 業務執行体制の機能性

### 《3-5 の視点》

#### 3-5-① 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編制及び職員の配置による業務の効果的な執行体制の確保

#### 3-5-② 業務執行の管理体制の構築とその機能性

#### 3-5-③ 職員の資質・能力向上の機会の用意

### (1) 3-5 の自己判定

基準項目 3-5 を満たしている。

### (2) 3-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

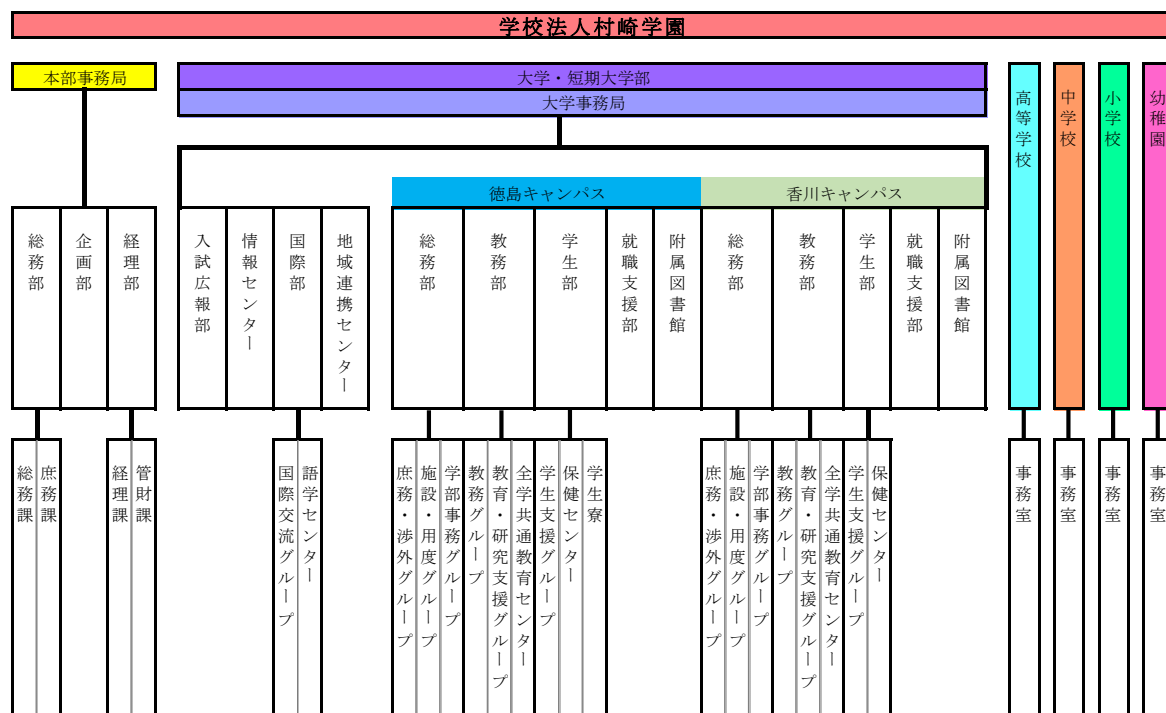
#### 【事実の説明】

#### 3-5-① 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編制及び職員の配置による業務の効果的な執行体制の確保

- ・ 法人の事務組織は、法人事務局、大学・短期大学の大学事務と幼稚園、小学校、中学校・高等学校の各事務室とに大別される。【資料 3-5-1】【図 3-5-1】
- ・ 本学の事務は、徳島キャンパスと香川キャンパスで同様の組織編成をとっており、「事務組織規程」に基づき、必要な職員が配置されている。【資料 3-5-2】
- ・ 教育・研究支援及び学生支援の充実を目的とし、事務の機能を集約した組織編成をとっている。
- ・ 事務職員等数（平成 29(2015)年 5 月 1 日現在）は、151 人であり、そのうち 120 人が正職員である。正職員の内訳は法人事務局 19 人、徳島キャンパス 66 人、香川キャンパス 35 人の 120 人である。【資料 3-5-3】



【図 3-5-1】 事務組織図



### 3-5-② 業務執行の管理体制の構築とその機能性

- ・ 事務職員の採用・昇任・異動は、「職員資格審査基準」及び、法人事務局と大学の各事務部長との人事ヒアリング等を基にこれを行っている。【資料 3-5-4】
- ・ 事務職員の新規採用については、公募方式による試験採用と本学新卒者の選考採用を併用し、優秀な人材の確保に努めている。
- ・ 人事異動は、本人の希望と各事務部長からの推薦に基づき、本人の能力・職務経歴の評価と適材適所を基本方針として、人事を担当する総務部長が人事異動案を作成し、事務局長、理事長の決裁を得て発令している。
- ・ 学長主宰の「事務部長等懇談会」が適宜開催されている。学長と事務局長、徳島・香川両キャンパスの事務部長等で構成されており、組織運営に関するよりきめの細かい情報交換と共通の理解を得られる場となっている。

### 3-5-③ 職員の資質・能力向上の機会の用意

- ・ 学外の各種研修会、セミナーに積極的に参加させることにより、業務に関する最新の動向や大学を取り巻く環境の変化に対応できるよう努めている。
- ・ SD 活動では、SD 推進委員会を設置し、本学独自に行う研修を企画・運営し、本学の実情に応じたきめ細かい研修の機会を設けるとともに、学外の「SPOD」(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)での研修会にも積極的に参加し、指導的立場を担う職員の養成にも取り組んでいる。【資料 3-5-5・資料 3-5-6】
- ・ 新規採用者に対しては、新任職員研修会を実施し、業務内容のオリエンテーションや学内システムの研修を行っている。【資料 3-5-7】
- ・ 平成 28(2016)年 11 月 24 日に開催した特色ある教育・研究全学発表会では、平成

27(2015)年度並びに平成 28(2016)年度に採択された教職員が日頃の研究の成果を口頭並びにポスター発表した。【資料 3-5-8】

- ・ 平成 28(2016)年 8 月 23 日には、管理責任者対象 SD 研修会を開催し、学長、理事長をはじめとした学園本部並びに両キャンパスの管理責任者が参加した。【資料 3-5-9】

#### 【エビデンス集・資料編】

【資料 3-5-1】平成 29 年度学校法人村崎学園組織(事務関係) ※【資料 2-3-3】と同じ

【資料 3-5-2】学校法人村崎学園事務組織規程 ※【資料 2-1-13】と同じ

【資料 3-5-3】職員数と職員構成(正職員・嘱託・パート・派遣別、男女別、年齢別)

※【データ編・表 3-1】と同じ

【資料 3-5-4】職員資格審査に関する基準

【資料 3-5-5】平成 28(2016)年度 FD 研究部会活動報告書(24-26 頁)

SD 研修について ※【資料 2-2-11】と同じ

【資料 3-5-6】徳島文理大学 SD 推進委員会設置要項

【資料 3-5-7】新任教職員研修・学内システム研修会日程

【資料 3-5-8】第 9 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集

※【資料 2-8-15】と同じ

【資料 3-5-9】管理責任者対象 SD 研修会次第、参加者名簿

#### 【自己評価】

- ・ 大学の目的を達成するために、必要な職員を確保し、適切に配置している。
- ・ 職員には大学の管理運営に係わる専門家としての高い能力と自覚を持つことを求めている。業務の効率的な分担が図られていると判断している。
- ・ 業務執行の管理体制は適切に構築され、機能的に運営されていると判断している。
- ・ 学内の SD 活動や学外の「SPOD」の研修会に職員は参加することができ、学内外で指導的立場を担うことができる職員の養成が図られている。
- ・ 学内外の各種研修会、セミナーに積極的に参加させ、業務に関する最新の動向や大学を取り巻く環境の変化に対応できるような職員の資質・向上の機会を提供している。

#### (3) 3-5 の改善・向上方策(将来計画)

- ・ SD 推進委員会を中心にした SD 活動の充実と活性化に努める。また、「SPOD」等の学外機関との連携を強化する。
- ・ 事務の効率的運営、学生へのサービスの充実のため、大学キャンパス組織と事務分掌の見直しを適宜行う。
- ・ 大学における教育の質の向上や教育ニーズの多様化に対応するため、教員だけでなく職員にも、教育研究に関連する多彩な業務が増加してきている。これらに対応できるよう、職員のさらなる能力向上を図る。

### 3-6 財務基盤と収支

#### 《3-6 の視点》

**3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立**

**3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保**

(1) 3-6 の自己判定

基準項目 3-6 を満たしている。

(2) 3-6 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

**3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立**

- ・ 財務運営にあたっては中長期財務計画書を策定のうえ、適切に実施している。【資料 3-6-1】
- ・ 重要な事業計画については実施主要事業計画書を策定し、評議員会に諮り、理事会の承認を得たうえで執行している。【資料 3-6-2】
- ・ 年度予算の編成にあたっては、各部署から学園本部経理部に対して予算要望書の提出をもとめ、経理部において各部署からの予算要求内容を精査、整理し収支バランスを勘案のうえ、翌年度予算案を立案し評議員会に諮り、理事会の承認を得て学園全体の予算を決定している。【資料 3-6-3】

**3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保**

- ・ 過去 5 年間の純資産（自己資金）構成比率は約 97%と、高い水準で推移している。また、借入金はなく、外部負債も極めて少ないことから総負債比率、負債比率ともに比率は低く、平均値に比べ良好であり、財務基盤は安定している。【資料 3-6-4】【表 3-6-1】

【表 3-6-1】自己資金（純資産）構成比率・総負債比率・負債比率推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
純資産（自己資金）構成比率	96.8%	96.8%	96.9%	97.0%	97.1%
総負債比率	3.2%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%
負債比率	3.3%	3.3%	3.2%	3.1%	3.0%

- ・ 教育研究経費率は 40%以上を確保し、いずれの年度においても全国平均値を上回っている。
- ・ また、管理経費比率においても経費の圧縮に努め、教育研究活動の維持・発展のため、教育研究環境の整備、充実を図っており、7%程度と全国平均値より低い数値で推移している。【資料 3-6-5・資料 3-6-6】【表 3-6-2】

【表 3-6-2】教育研究経費率と管理経費比率推移（法人全体）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教育研究経費率	44.5%	41.8%	40.6%	42.6%	43.2%
管理経費比率	6.5%	6.5%	6.2%	7.9%	6.7%

[注] 平成 27 年からは学校法人会計基準改正により算出式変更

- ・ 平成 28 年度の事業活動収入は、学生生徒等納付金、受取利息・配当金等の減少があり

98億18百万円に止まったものの、基本金組入前当年度収支差額は1億17百万円を計上し、前年度を上回った。

- ・ 事業活動（帰属）収入は安定して100億円程度を確保している。
- ・ 事業活動（帰属）収支差額比率は直近5年間のうち4年間はプラスとなっている。

【資料3-6-7】【表3-6-3】

【表3-6-3】事業活動（帰属）収入と基本金組入前当年度（帰属）収支差額・比率推移（法人全体）（百万円）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業活動（帰属）収入	9,914	10,336	11,258	10,690	9,818
基本金組入前当年度（帰属）収支差額	△96	400	790	40	117
事業活動（帰属）収支差額比率（%）	-1.0%	3.9%	7.0%	0.4%	1.2%

- ・ 補助金の獲得、外部資金の導入並びに資産運用収入の確保に努め、収入の多様化を図っている。【資料3-6-8】
- ・ 資産運用は「資産運用内規」に則ってリスクを極力排除した運用を行っている。【資料3-6-7～資料3-6-9】【表3-6-4】【表3-6-5】

【表3-6-4】補助金・資産運用収入推移（百万円）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
補助金	1,344	1,549	1,565	1,386	1,188
資産運用収入	198	388	1,188	1,006	722

[注] 平成27・28年度 補助金＝経常費等補助金＋施設設備補助金、資産運用収入＝受取利息・配当金＋施設利用料

【表3-6-5】外部研究費獲得推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
金額（千円）	232,932	209,734	164,585	176,491	179,856
件数（件）	106	99	112	128	120

### 【エビデンス集・資料編】

【資料3-6-1】学校法人村崎学園中長期財務計画

【資料3-6-2】平成29年度実施主要事業計画書（案） ※【資料F-6】と同じ

【資料3-6-3】平成29年度予算要望総括表・予算要望書

【資料3-6-4】貸借対照表関係比率 ※【データ編・表3-9, 3-10】と同じ

【資料3-6-5】消費収支計算書関係比率 ※【データ編・表3-5】と同じ

【資料3-6-6】事業活動収支計算書関係比率 ※【データ編・表3-6】と同じ

【資料3-6-7】決算書（平成24年度～平成28年度） ※【資料F-11】と同じ

【資料3-6-8】外部研究費獲得推移

【資料3-6-9】学校法人村崎学園資産運用内規

### 【自己評価】

- ・ 中長期的な財務計画に基づく財務運営を行っており、適切な財務運営が確立されているものと判断している。
- ・ 純資産（自己資本）構成比率は高く、借入金もないことから安定した財務基盤を確立

している。

- ・ 教育研究経費率、管理経費比率ともに平均値に比べ良好である。
- ・ 積極的に外部資金の獲得に努めている。

### (3) 3-6 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 少子化、学生の中央指向に伴い、地方の大学は入学者の減少傾向にあるが、社会並びに地域のニーズに対応した学科編成、学生募集の強化、学生満足度の向上を図り、学生生徒等納付金収入の確保に努める。
- ・ 引き続き科学研究費補助金等の公的資金並びに受託研究等の外部資金の積極的な獲得により、一層の事業活動収入の安定化を図る。
- ・ 今後とも、収入増、経費の圧縮に努め、収支バランスの均衡を図る。

## 3-7 会計

### 《3-7 の視点》

#### 3-7-① 会計処理の適正な実施

#### 3-7-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

##### (1) 3-7 の自己判定

基準項目 3-7 を満たしている。

##### (2) 3-7 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### 【事実の説明】

#### 3-7-① 会計処理の適正な実施

- ・ 会計処理は学校法人会計基準に基づき、学校法人村崎学園経理規程等の規程を整備し、適正な会計処理を行っている。【資料 3-7-1・資料 3-7-2】
- ・ 会計処理上、判断が困難なものについては、公認会計士に随時、相談、質問を行うなど適切な会計処理に努めている。
- ・ 予算とかい離が発生した場合には、補正予算を編成し理事会の承認を得ている。
- ・ 予算執行にあたっては、経理部において各部署の担当者を定め、予算科目等の申請内容の確認を行い、適正な会計処理に努めている。【資料 3-7-3】
- ・ 予算管理はシステム管理を行い、リアルタイムで予算残高が把握でき、総予算額を超過しての執行ができない体制としている。【資料 3-7-4】

#### 3-7-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

- ・ 会計士監査は監査計画書に基づき、月次決算、期末、決算報告書監査、実査を行うなど適切な監査を実施している。【資料 3-7-5】
- ・ 監事監査は監事監査規則に則り、監査計画を策定のうえ、業務執行に係る聴取、重要な決裁書類、財務に係る諸帳票の閲覧を行い業務、財産の監査を実施している。また、会計年度終了後には監査報告書を理事会及び評議員会に提出している。【資料 3-7-6～資料 3-7-9】
- ・ 監事は会計士監査に立会い、意見交換を行い、報告を受けるなど十分な連携をとり、

適正な会計処理に取り組んでいる。

- ・ 監事は理事会、評議員会、部局長会等の重要な会議には必ず出席している。
- ・ 学園本部職員による物品購入に係る証憑及び現品調査を、物件の調達管理取扱規程に基づき毎年実施しており、厳正な財産管理に努めている。【資料 3-7-10】
- ・ 調査報告書は学園本部事務局長に提出し、理事長に報告している。【資料 3-7-11】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-7-1】 学校法人村崎学園経理規程 ※【資料 3-1-3】と同じ
- 【資料 3-7-2】 学校法人村崎学園経理規程施行細則 ※【資料 3-1-4】と同じ
- 【資料 3-7-3】 平成 28 年度 経理部担当者一覧
- 【資料 3-7-4】 グループウェア予算管理説明書
- 【資料 3-7-5】 学校法人村崎学園監査計画書
- 【資料 3-7-6】 学校法人村崎学園監事監査規則 ※【資料 3-2-10】と同じ
- 【資料 3-7-7】 学校法人村崎学園監事監査実施要領 ※【資料 3-2-11】と同じ
- 【資料 3-7-8】 平成 28 年度 監査計画
- 【資料 3-7-9】 平成 28 年度 監事監査報告書（理事会・評議員会）  
※【資料 F-11】と同じ
- 【資料 3-7-10】 学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程 ※【資料 3-1-5】と同じ
- 【資料 3-7-11】 平成 28 年度 現品調査報告書

#### 【自己評価】

- ・ 会計処理は、「学校法人会計基準」「私立学校法」「私立学校振興助成法」等に則り、適正に実施していると判断している。
- ・ 会計監査の体制は整備されており、厳正な監査が実施されていると判断している。

#### (3) 3-7 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 会計処理は適切に行われており、引き続き学校法人会計基準及び学校法人村崎学園経理規程等に基づき、適正な会計処理を行っていく。
- ・ 会計士監査、監事監査ともに適切に行われており、一層の連携強化に努める。

#### 【基準 3 の自己評価】

- ・ 管理運営体制は「寄附行為」及び諸規程に明確に定められ、それに則り適切に運営されている。
- ・ 管理部門と教学部門は、部局長会等の機能を通じて、緊密な連携を保っている。
- ・ 機能的に業務を執行するためには、職員のさらなる資質能力の向上が必要であると認識しており、文部科学省や日本私立大学協会等の学外での研修会等への積極的な参加を促し、人材の育成に努めている。
- ・ 中期財務計画に基づき適切な財務運営を行っており、財務基盤は安定している。
- ・ 会計処理は学校法人会計基準に則り厳正に行われており、監査体制も整備している。

## 基準 4. 自己点検・評価

### 4-1 自己点検・評価の適切性

#### 《4-1 の視点》

#### 4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

#### 4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

#### 4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

##### (1) 4-1 の自己判定

基準項目 4-1 を満たしている。

##### (2) 4-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 【事実の説明】

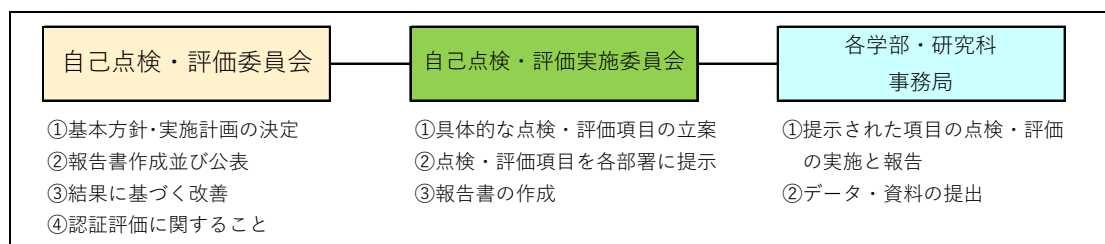
#### 4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

- 徳島文理大学「学則」第 1 章第 1 条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」とし、学校教育法第 109 条の第 1 項に則り、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育・研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検及び評価を行うことを学則第 59 条に定め、実施している。【資料 4-1-1】

#### 4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

- 平成 4(1992)年 7 月に、大学設置基準第 2 条（情報の積極的な提供）に基づき、自己点検・評価委員会を設置し、部門別自己点検評価委員会と「自己点検・自己評価に関する規程」を設けた。
- 平成 19(2007)年 10 月に「自己点検・評価に関する規程」を改正し、平成 22(2010)年度に自己点検・評価委員会を改組した。【資料 4-1-2】
- 自己点検・評価委員会の専門部会は、教学部門、学園本部事務局、大学事務局からの委員で構成されており、委員数が多くまとまりにかけることが指摘されていたため、平成 27(2015)年 9 月開催の自己点検・評価委員会において、従来の専門部会の廃止とそれに代わる自己点検・評価実施委員会の設置が承認された。【資料 4-1-3】
- 自己点検・評価委員会は、【図 4-1-1】に示すとおり、本学の自己点検・評価の基本方針及び実施計画の決定に関する事項等について協議決定を行っている。また、自己点検・評価実施委員会は、自己点検・評価委員会の承認を得て、点検・評価項目を定め、報告書の作成等を行っている。【資料 4-1-4】【図 4-1-1】

【図 4-1-1】自己点検・評価体制



#### 4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

- ・ 平成 22(2010)年度に、大学機関別認証評価を受け、大学評価基準を満たしていると認定された。
- ・ 薬学部は、平成 26(2014)年度に薬学教育評価機構の教育評価を受審し、「薬学教育評価基準」に適合しているとの評価認定を受けている。【資料 4-1-5】
- ・ 薬学研究科は、平成 26(2014)年度に自己点検・評価を行い、その内容を文部科学省に報告、本学 Web サイトで公開している。本大学院は、6 年制の上の博士課程 4 年制であり、医療との繋がりが一つの重要な課題である。高知大学医学部附属病院や徳島赤十字病院との連携等を重要な評価事項としている。さらに本大学院を含む四国の 4 薬学部の大学間連携をとおして、外部評価として評価委員会 A、B、C と 3 種類の評価委員により外部評価を受けている。【資料 4-1-6・資料 4-1-7】
- ・ 保健福祉学部理学療法学科は、平成 28(2016)年 3 月 31 日に一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の審査の結果、機構の定めたリハビリテーション教育に必要な施設基準及びカリキュラムを提供、実施できる養成施設と認定された。【資料 4-1-8】
- ・ 平成 25(2013)年度には、平成 24(2012)年度認証評価から適用された大学評価基準を基に自己点検・評価を開始し、平成 27(2015)年度に報告書を作成し、自己点検・評価委員会に提出した。【資料 4-1-9】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料 4-1-1】 徳島文理大学学則 (14 頁) ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 4-1-2】 徳島文理大学自己点検・評価に関する規程
- 【資料 4-1-3】 平成 27 年度第 1 回自己点検・評価委員会議事録・資料①
- 【資料 4-1-4】 徳島文理大学自己点検・評価に関する規程細則
- 【資料 4-1-5】 本学 Web ページ「薬学教育プログラム 適合認定」
- 【資料 4-1-6】 本学 Web ページ「平成 29 年度自己点検・評価の内容 薬学研究科」
- 【資料 4-1-7】 本学 Web ページ「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革評価委員会」
- 【資料 4-1-8】 本学 Web ページ「リハビリテーション教育評価機構 認定」
- 【資料 4-1-9】 平成 27 年度自己点検評価書

#### 【自己評価】

- ・ 本学の自己点検・評価は、学則に則り、自己点検・評価委員会と自己点検・評価実施委員会が中心となり行われており、大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価は担保されているものと判断している。
- ・ 委員会並びに自己点検・評価実施委員会の委員は、「自己点検・評価に関する規程細則」に則り、教学部門、法人事務局、大学事務局からそれぞれ選出され、連携して活動を行っており、自己点検・評価体制の適切性は担保されているものと判断している。
- ・ これまで平成 22(2010)年度、平成 27(2015)年度と自己点検評価書作成を行っており、自己点検評価書を本学 Web サイトで公表し、自己点検・評価の周期等の適切性を担保するよう努めている。



(3) 4-1 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 今後は、自己点検・評価がより適切に行えるよう、この自己点検・評価実施委員会の活動の充実を図る。

**4-2 自己点検・評価の誠実性**

《4-2 の視点》

**4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価**

**4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析**

**4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表**

(1) 4-2 の自己判定

基準項目 4-2 を満たしている。

(2) 4-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

**4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価**

- ・ 自己点検評価書作成に際しては、日本高等教育評価機構の大学評価基準を参考に自己点検・評価を行っており、その自己点検・評価に必要な基礎となるデータは、エビデンス集(データ編)の様式に基づき、教育・研究支援グループから各事務局にデータ作成を依頼し作成している。【資料 4-2-1】

**4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析**

- ・ 現状把握のためのデータや資料の収集は前述のとおり、事務局である教育・研究支援グループが中心となって行っている。データや資料は、日本高等教育評価機構の大学評価基準やエビデンス集(データ編)の様式に基づき、継続して収集しており、データ等も自己点検・評価実施委員会において比較検討されている。【資料 4-2-1・資料 4-2-2】
- ・ 保護者会において、総会や面談で出された保護者からの要望や意見は、所属長並びに総務部に報告する体制をとっている。そして、それに対する回答を総務部が関係部署と協議してまとめ、「教職員グループウェア」に掲載し、情報の共有を図るとともに、大学の運営に反映させている。【資料 4-2-3・資料 4-2-4】

**4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表**

- ・ 平成 22(2010)年度に受審した大学機関別認証評価の結果は、本学 Web サイトで公開している。【資料 4-2-5】
- ・ 平成 27(2015)年 3 月には、平成 25(2013)年度自己点検評価書の内容を踏まえた全学的な自己点検・評価に関する研修会を開催し、学内共有に努めた。【資料 4-2-6】
- ・ 平成 27 年度自己点検評価書は、本学 Web サイトで公開している。【資料 4-2-5】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-2-1】 資料・データ収集依頼文

【資料 4-2-2】 平成 28 年度第 2 回自己点検・評価実施委員会議事録

【資料 4-2-3】 2016 年度保護者会支部会開催のご案内 ※【資料 2-1-24】と同じ

【資料 4-2-4】 保護者会支部会を終えて

【資料 4-2-5】 本学 Web ページ「認証評価（第三者評価）・自己点検評価>大学」

【資料 4-2-6】 自己点検評価研修会次第

#### 【自己評価】

- ・ 自己点検・評価に必要なデータや資料の収集は、事務局である教育・研究支援グループが中心となっており、その収集されたデータ等に自己点検・評価実施委員会が独自に収集した資料を加えて、点検・評価を行う体制をとっている。そのため、エビデンスに基づいた自己点検・評価を行っているとは判断している。
- ・ 資料・データの収集やアンケートを継続的に行い、その蓄積されたデータに基づいた分析も行っているため、本学並びに学生の現状把握に努めていると判断している。
- ・ 認証評価の評価結果や自己点検・評価委員会において承認を受けた自己点検評価書を本学 Web サイトに公表している。
- ・ 自己点検評価書の「教職員グループウェア」への掲載や、学内研修会を通じて、学内での共有が図られていると判断している。

#### (3) 4-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 社会への説明責任を果たすため、今後もエビデンスに基づいた自己点検・評価の周知・徹底を図る。

### 4-3 自己点検・評価の有効性

#### 《4-3 の視点》

#### 4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のための PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性

##### (1) 4-3 の自己判定

基準項目 4-3 を満たしている。

##### (2) 4-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 【事実の説明】

#### 4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のための PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性

- ・ 本学の自己点検・評価の結果については、自己点検・評価委員会で検討し、改善を要する点があれば、その改善する内容により関係部署並びに各種委員会で協議するような体制をとっている。【資料 4-3-1】
- ・ 各学部は、教員の教育研究業績や教育活動等と学部の委員会活動をまとめた「教育研究年報」を発刊している。また、各教員は、「教員活動状況調査」（エフォートの評価）を作成し、学長に提出する。これらの「教育研究年報」や「教員活動状況調査」の作成をとおして、教員は 1 年間の教育研究活動を総括し、今後の改善に資している。【資料 4-3-2～資料 4-3-11】

**【エビデンス集・資料編】**

- 【資料 4-3-1】平成 28 年度第 1 回自己点検・評価委員会議事録
- 【資料 4-3-2】人間生活学部教育・研究年報 平成 28 年度 ※【資料 2-8-5】と同じ
- 【資料 4-3-3】音楽学部平成 28 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-6】と同じ
- 【資料 4-3-4】薬学部教育・研究年報第 10 号 2015 年 ※【資料 2-8-7】と同じ
- 【資料 4-3-5】総合政策学部 2016 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-8】と同じ
- 【資料 4-3-6】保健福祉学部 2015 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-9】と同じ
- 【資料 4-3-7】文学部教育・研究年報 2016 年 ※【資料 2-8-10】と同じ
- 【資料 4-3-8】2016 年理工学部年報 ※【資料 2-8-11】と同じ
- 【資料 4-3-9】香川薬学部教育・研究年報 AnnualReport 第 11 号 2016 年  
※【資料 2-8-12】と同じ
- 【資料 4-3-10】未来科学研究所 AnnualProgressReport2016
- 【資料 4-3-11】徳島文理大学教員の平成 28 年度の活動報告(アニュアルレポート)様式  
※【資料 2-8-4】と同じ

**【自己評価】**

- ・ 自己点検・評価の結果を活用するための仕組みは確立されており、機能的に運営されていると判断している。

**(3) 4-3 の改善・向上方策（将来計画）**

- ・ 教職員間での情報や意見の交換を促し、よりよい大学運営を行うことができる体制を構築していく。
- ・ 両キャンパスにおける教育改善活動の PDCA サイクルが一層機能するように「自己点検・評価委員会」が中心となって働きかける。

**【基準 4 の自己評価】**

- ・ 大学運営における自己点検・評価は、自己点検・評価委員会と自己点検・評価実施委員会が中心となり、現状把握に必要な資料やデータを基に活動を行っており、教育研究や大学運営の改善に貢献していると判断している。
- ・ 保護者会役員会や地区別保護者会において保護者から出された要望や意見は「教職員グループウェア」に掲載して教職員間で情報を共有しており、大学運営に生かしていると判断している。
- ・ 自己点検・評価を行うことにより、各教員個人での教育・研究活動は改善されていると判断している。

IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 地域貢献・地域連携

A-1 徳島文理大学における地域貢献・地域連携

《A-1 の視点》

A-1-① 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること

A-1-② 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること

A-1-③ 大学と地域社会との協力関係が構築されていること

(1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

A-1-① 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること

- 本学では、平成 27(2015)年 4 月地域連携センターを地域貢献・地域連携を担う中核として徳島キャンパスに設立した。【資料 A-1-1】
- センターは、地域と大学をつなぐ窓口として積極的に自治体等の課題・ニーズを把握するとともに教職員が学部・学科と横断的に協力しその課題解決に取り組むことを支援する部署と位置付け、本学の人的・物的資源を駆使し地域貢献を実践している。なお、香川キャンパスにおいては、副センター長を置き、主として香川県に特化した活動を行っている。【資料 A-1-2・資料 A-1-3】

(1) 公開講座・セミナー

①公開講座

- 本学では、平成 19(2007)年から各界で活躍するリーダーを招き、徳島と香川両キャンパスで公開講座を無料で開催している。平成 28(2016)年度は下記の通り実施した。【資料 A-1-4】【表 A-1-1】

【表 A-1-1】平成 28 年度公開講座

開催月日	講師	演題	参加者	キャンパス
5月13日	三砂 ちづる氏 津田塾大学国際関係学科教授	少子化の行方と母子保健	313	香川
5月27日	吉田 芳春氏 吉田国際特許事務所所長・弁護士	知財力による学生・地域の未来 予想図	329	香川
6月2日	橋本 基弘氏 中央大学副学長・法学部教授	戦後 71 年と日本国憲法	380	徳島
6月16日	花井 十伍氏 特定非営利法人ネットワーク医療と人権 理事、大阪 HIV 薬害訴訟原告団代表	薬害再発防止のために ～薬害エイズの教訓～	400	徳島
6月30日 7月1日	熊谷 恵子氏 筑波大学人間関係教授	発達障害の理解と支援 ～インクルーシブ教育の推進 と合理的配慮の観点から～	450	徳島 香川

## ②学会・セミナー・スクール等

- ・ 地域連携センターを開設後、学会（本学教職員が会長等）、研修会等を開催してきた。平成 28(2016)年は 9 月に「国際シンポジウム天然物の未来」等を開催した。【資料 A-1-5・資料 A-1-6】
- ・ 「いきいきセミナー」、「サッカースクール」はシリーズで開催された。【資料 A-1-7・資料 A-1-8】

## (2) 出張講義

- ・ この事業は、徳島文理大学教員が高等学校等からの要請に応じて幅広い専門分野の講義を行い、高校生等が大学の教育・研究の成果に触れることにより、学問に対する関心を高め探究心をもつことを目的としている。平成 28(2016)年度は、全学で 174 のプログラムを用意した。その結果、延べ 117 人の教員に高校等から依頼があり、出張講義を実施した。【資料 A-1-9】

## (3) 大学施設の開放等

- ・ 平成 18(2006)年度から、12 月上旬から 2 月 14 日の間の夜間に徳島県の主要工業産品である LED によるイルミネーションでキャンパスをライトアップしている。この企画は地域の住民が大学に親しみを覚え、地域とともに発展する大学となることを目的としている。【資料 A-1-10】



- ・ 平成 27(2015)年度から徳島市ふれあい健康館との共同企画として平成 27 年 12 月 19 日に「冬の祭典 LED フェスティバル 2015」を開催した。平成 28(2016)年度は 12 月 17 日に第 2 回を開催した。また、8 月 7 日にも夏祭りを共同開催した。【資料 A-1-11・資料 A-1-12】
- ・ 附属図書館を一般開放している。来館時、身分証明書等の提示により入館・閲覧・コピー等が可能である。【資料 A-1-13】
- ・ 公的機関から各種試験会場として使用する要請があった場合、可能な限り施設を開放している。平成 28(2016)年度は、薬剤師国家試験、大学入試センター試験、秘書技能検定試験、さぬき市等の職員採用試験等の試験会場として本学施設を提供した。【資料 A-1-14～資料 A-1-18】
- ・ 地域連携センターでは、平成 27(2015)年度から音楽学部の協力のもと、木曜日に 2 号館 1 階においてランチコンサートを開催し、学内外の参加者にひと時の安らぎを提供している。【資料 A-1-19】
- ・ 豊かな響きと輝く音色の流れる「むらさきホール」は、ひとつの楽器として創られ

たが、様々な演奏会等の開催をとおして地域の音楽文化のを担う中心的存在として注目されている。

- ・ 日頃の研鑽の成果を発表する場として、音楽学部の学生を中心とした「徳島文理大学ウィンドオーケストラ定期演奏会」「徳島文理大学定期演奏会」、本学の卒業生を主体に編成し演奏活動を続行している「文理OBオーケストラ定期演奏会」等を毎年開催し、多くの来場者を迎えている。また、「とくしま記念オーケストラ演奏会」「徳島少年少女合唱団定期演奏会」「リオデ徳島音楽祭」の開催等を通じて地域の音楽文化の向上に多大な貢献を果たしている。【資料A-1-20～資料A-1-23】

#### (4) 「特色ある教育・研究」における地域活性社会貢献枠

- ・ 平成7(1995)年度から特色ある教育改善への取組みや学内外との共同研究を奨励する目的で、「特色ある教育・研究」の助成金を学内の競争的資金として教職員に支給している。その募集事業の中に、地域の発展への寄与や地域文化の向上等、地域に役立つ取組みを主体的に実践する「地域活性化・社会貢献事業」の枠を設けている。平成28(2016)年度新規採用事業として、人間生活学部食物栄養学科の「シカ肉の熟成方法と野獣資源の有効活用による地域活性化の取り組み」(徳島県農林水産部と連携)、保健福祉学部理学療法学科及び人間生活学部メディアデザイン学科の「津波避難所の場所・経路情報・避難イメージをえるための津波避難所動画マップの作成～阿南市那賀川・羽ノ浦地区を対象として～」が採択された。【資料A-1-24】

#### A-1-② 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること

- ・ 特に、薬学部、香川薬学部を中心として、医療系学部学科が積極的に企業・他大学との連携に取り組んできた。

#### (1) 他大学等との連携

- ・ 四国のすべての薬学部(徳島文理大学薬学部と香川薬学部、徳島大学薬学部、松山大学薬学部の3大学4薬学部)が合同で提案していた取組み「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」が平成24(2012)年度大学間連携共同教育推進事業として採択された。四国の全薬学部が戦略的連携関係を持ち、薬剤師養成教育・大学院教育と研究を共同して推進し、臨床薬学分野の研究者や高度な専門知識を有する臨床薬剤師を養成することをめざしている。この事業は5年間の事業で、現在も継続して取り組んでおり、平成27年度の活動報告は資料の通りである。【資料A-1-25】
- ・ 香川県内の医療系学部を有する国公私(香川大学医学部、香川県立保健医療大学、徳島文理大学香川薬学部、保健福祉学部)の3大学の連携により、香川県の医療に関する知の拠点を形成し、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な医療人を養成する「香川総合医療教育研究コンソーシアム」を構築し、医療環境の強化や香川県民の健康意識の向上を図っている。高度な医療人育成のための地域連携型総合医療教育研究に基づき、共同授業、大学院合同授業並びに社会人教育、共同研究等の6項目について具体的に取り組んでいる。また同交流会では公開講座を開設しており、平成27(2015)年度は、「考えよう、うどん県の暮らしと感染症」、平成28(2016)年度は「うどん県で健やかに暮らそう～健康寿命を延ばす～」を開催した。【資料A-1-26】

- ・ 薬学部は、平成 24(2012)年 8 月に、高知大学医学部と徳島赤十字病院と連携協定を結び、地域医療に貢献する高度な専門知意識を有する薬剤師の養成と臨床課題の基礎研究を協働して取り組んでいる。平成 28(2016)年度には、徳島赤十字病院の院内災害医療訓練に本学学生が参加した。【資料 A-1-27・資料 A-1-28】
- ・ 香川薬学部は、香川大学医学部との学術交流に関する協定を締結し、協働して教育、研究に取り組んでいる。【資料 A-1-29】
- ・ 香川薬学部は、NPO 法人へき地とあゆむ薬剤師の開設した「へきち(多和)薬局」との連携に関する協定を締結し、協働して教育、研究に取り組んでいる。【資料 A-1-30】
- ・ 香川薬学部・大学院薬学研究科は、さぬき市民病院と学術連携に関する協定を締結し、協働して教育、研究に取り組んでいる。【資料 A-1-31】
- ・ 香川薬学部は、プラスファーマシーズ(株)のかたもと駅前薬局と学術連携に関する協定を締結し、協働して教育、研究に取り組んでいる。【資料 A-1-32】

## (2) 企業・自治体等との連携

- ・ 教員は県、市町村、各種団体の審議会等での委員として就任しており、その活動は「教育研究年報」や「教員活動状況調査」等に記載している。【資料 A-1-33～資料 A-1-42】
- ・ 人間生活学部メディアデザイン学科では、徳島県及びとくしま産業振興機構との連携により、「効果的なウェブメディアの活用について」をテーマとした「デジタルコンテンツビジネス入門セミナー【デザイン編】」を開催した。企業の担当者とメディアデザイン学科 3 年生がチームを組み、平成 28(2016)年 9 月 15 日・16 日の 2 日間にわたる講義とワークショップに取り組み、成果発表を行った。【資料 A-1-43】

## A-1-③ 大学と地域社会との協力関係が構築されていること

### (1) 連携協定

- ・ 本学では、地元自治体等との連携協定を締結し、お互いの共通認識のもとで課題解決に取り組んでいる。自治体との協定は下記の通りである。
  1. 徳島県と包括連携協定締結(平成 26(2014)年 2 月 20 日)【資料 A-1-44】
  2. 徳島市と包括連携協定締結(平成 26(2014)年 3 月 4 日)【資料 A-1-45】
  3. 香川県と包括連携協定締結(平成 26(2014)年 3 月 26 日)【資料 A-1-46】
  4. さぬき市と包括連携協定締結(平成 25(2013)年 11 月 25 日)【資料 A-1-47】
  5. 高松市と包括連携協定締結(平成 26(2014)年 2 月 6 日)【資料 A-1-48】
  6. 美波町と包括連携協定締結(平成 28(2016)年 7 月 16 日)【資料 A-1-49】

### (2) 具体的連携事業

#### ①地域連携センター

- ・ 徳島新聞社との共同事業(歴史文化の力でまちづくり事業)として、平成 28(2016)年度「100 年ぶりの人形浄瑠璃「赤松座」復活プロジェクト」と「薬王寺門前町再生プロジェクト」を立ち上げた。このプロジェクトには、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、音楽学科、総合政策学科、文化財学科が参加し、その活動状況は徳島新聞社、NHK 等マスコミ各社により随時報道されている。【資料 A-1-50～資料 A-1-53】
- ・ 徳島県、徳島県看護協会と連携し、糖尿病看護認定看護師教育課程を地域連携センタ

一に開設し、平成 29(2017)年 5 月から学生を受け入れる。【資料 A-1-54・資料 A-1-55】

### ②人間生活学部食物栄養学科

- ・ 文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)」の支援を受け、平成 26(2014)年から平成 30(2018)年の 5 年間、「とくしま「健幸」イノベーション構想」に研究参加し、その研究成果を製品及びサービス両面での事業化に結びつけるとともに、地域住民の健康増進を推進する事をめざしている。【資料 A-1-56】
- ・ シスメックス(株)・神戸と共同研究で、「超高感度免疫測定法の自動化及びその測定キットの開発」関連の研究を行っている。期間は平成 25(2013)年 5 月から平成 29(2017)年 3 月の予定で、その成果を平成 29(2017)年 5 月の第 60 回日本糖尿病学会で発表予定である。【資料 A-1-57】

### ③人間生活学部児童学科

- ・ 児童学科は、平成 13(2001)年度から、0 歳児から未就学児とその家族を対象とした子育て支援事業である徳島県次世代育成支援イベント「おぎゃっと 21」の運営に参加・協力している。徳島県内 4 大学の児童のボランティア活動に従事している学生が中心となりイベントブースを担当するなどの取組みを継続して行っている。平成 28(2016)年度は 5 月 3 日に実施された。【資料 A-1-58】

### ④人間生活学部メディアデザイン学科

- ・ 大津波が予想される南海トラフ地震の津波減災教育の一環として、絵本作家の梅田俊作氏が作成した防災絵本「よりたかくよりはやく」や飯原一夫名誉教授の書いた徳島の民話や風景画等の作品を幅広い年代層の方に発信するため、アニメーションやデジタル化及びインターネットでの情報発信に取り組んでいる。【資料 A-1-59】
- ・ 徳島県警察と「情報発信ウォッチャー」事業の連携を結び委嘱式を行った。「情報セキュリティ論」の授業の中で徳島県警察が開設している Web サイトのモニタリングや効果的に情報発信を行うための提言を行った。【資料 A-1-60】
- ・ 徳島県が徳島県南部圏域の活性化を目的として実施している「県南地域づくりキャンパス」推進事業に参加し、徳島県南部の牟岐町において、農業の体験や振興についての提案を行った。【資料 A-1-61】
- ・ 徳島青年会議所(JC)と協力し選挙権年齢が引き下げられた若者層の投票率アップを目的とした Web サイトを立ち上げ投票率アップに貢献した。【資料 A-1-62】
- ・ 平成 28(2016)年 11 月 4~6 日に開催された、「第 39 回ふるさとカーニバル阿波の狸まつり」において、徳島の民話「阿波の狸合戦」の紙芝居を上演、また戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える映像作品「追憶の昭和徳島」を上映した。【資料 A-1-63】
- ・ 徳島市電子図書館において、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える映像作品「追憶の昭和徳島」を公開した。【資料 A-1-64】
- ・ 徳島ヴォルティススタジアム学園祭に参加した。平成 28(2016)年 11 月 6 日(徳島ヴォルティス vs 北海道コンサドーレ札幌戦)【資料 A-1-65】

### ⑤音楽学部

- ・ 社会人を対象とした「徳島文理大学生涯学習講座コーラス・キーボード講座」を定期的に開催している。年度の終わりには、修了演奏会も開かれ、参会者も多く活況を呈している。平成 28(2016)年度で第 17 回目の開催となった。【資料 A-1-66】



#### ⑥薬学部

- ・ 薬学部では、薬学部卒業後教育講座を開催している。遠隔講義システムにより香川薬学部、徳島大学、松山大学でも聴講できる。平成 28(2016)年度は 6 月 19 日と 11 月 23 日に実施した。【資料 A-1-67】
- ・ 平成 24(2012)年 9 月に薬学部は第 1 回徳島県薬草フェスティバルを徳島県薬草協会と共催し、本学の薬用植物園の見学会等を行った。平成 28(2016)年は、10 月 15 日開催の「いきいき健康セミナー」の一環として薬草展示等を行った。【資料 A-1-68】

#### ⑦総合政策学部

- ・ 平成 21(2009)年から、「四国八十八カ所遍路道の清掃活動」に取り組んでおり、毎年秋に継続して実施している。平成 27(2015)年度は 11 月 26 日に学生、教職員が遍路道クリーンウォークを実施した。【資料 A-1-69】
- ・ 徳島県や徳島県議会との包括連携協定を結び、各種行事を実施している。【資料 A-1-44】【資料 A-1-70・資料 A-1-71】

#### ⑧保健福祉学部

- ・ 看護学科では、徳島市との連携協定に基づき平成 26(2014)年 7 月 23 日に徳島市民病院新人看護師研修を実施した。この研修は平成 27(2015)年度、平成 28(2016)年度と実施され、今後も継続していく予定である。【資料 A-1-72】
- ・ 看護学科では、徳島県の平成 27 年度地域医療介護総合確保基金事業として、田岡病院の新人研修を平成 28(2016)年 1 月 28 日、2 月 8 日、2 月 15 日に実施した。【資料 A-1-73】
- ・ 理学療法学科では、徳島県警察等と連携し、高齢者の車に設置したドライブレコーダーの動画を見て、高齢者に特徴的な運転の傾向を分析し、交通事故防止と安全運転講習に役立てるための取組みを平成 29(2017)年度に行う。【資料 A-1-74】

#### ⑨臨床心理相談室

- ・ 臨床心理相談室では、心理的問題を抱える子ども、大人及びその保護者等に対して専門的な立場から心理的援助等を有料で行っている。【資料 A-1-75】

#### ⑩文学部・比較文化研究所

- ・ 文化財学科は、小豆島町から古文書等調査保存事業への協力依頼を受け、平成 25(2013)年度から 5 年計画で調査研究を実施している。その研究成果の一端を平成 28(2016)年 2 月～3 月に高松市「石の民俗資料館」において展覧会を開催した。なお、12 月には地元小豆島で学生によるパネル展が開催された。【資料 A-1-76・資料 A-1-77】
- ・ 英語英米文化学科は平成 28(2016)年 11 月 5 日に第 5 回英語暗誦コンテストを開催し、四国各県の高校生 11 人、本学学生 9 人が参加した。【資料 A-1-78】
- ・ 日本文学科は、さぬき市教育委員会と三木町教育委員会の後援を得て、平成 28(2016)年 11 月 19 日に第 7 回朗読コンテストを開催した。【資料 A-1-79】
- ・ 比較文化研究所は、さぬき市教育委員会の後援で平成 28(2016)年 11 月 26 日に公開講演会「江戸時代小説と近代小説から見た社会風俗と経済」を開催した。【資料 A-1-80】

#### ⑪理工学部

- ・ さぬき市と連携し、各種イベントへの参加やこども科学教室を開催し、地域住民との交流を図っている。平成 28(2016)年度平賀源内先生こども科学教室の公募には、定員 40 人のところに 58 人の応募があり、抽選の結果 41 人で実施した。【資料 A-1-81】

- ・ ナノ物質工学科の教員・学生とさぬき市にある「さぬきワイナリー」が共同開発した香川発のノンアルコールワインが完成し、平成 27(2015)年 3 月 27 日より発売された。  
【資料 A-1-82】
- ・ 香川県教育委員会からの委託を受け、「かがわ子ども大学」を開催した。理工学部・香川薬学部・保健福祉学部・文学部が、計 7 講座を開催した。【資料 A-1-83】
- ・ 香川県・魅力ある大学づくり支援事業「～さぬきサイエンスキャンプ～香川の大学と企業の協同研究から世界へ発信する技術と科学を体験する。」に取り組み、地元企業と協力し、将来の香川県の産業を担う人材育成を目的として実施した。【資料 A-1-84】

#### ⑫香川薬学部

- ・ 香川県・魅力ある大学づくり支援事業「体質を学んでかがわでエンジョイ！大学と地域でつくるエビデンス創出スキルアップ」に取り組み、教育成果を上げた。【資料 A-1-85～資料 A-1-91】
- ・ 日本化学会中国四国支部共催「夢化学 21 in Kagawa～おもしろワクワクサイエンス展」に香川県で初めて開催された平成 23(2011)年から毎年参加し、化学体験や薬剤師体験ができるプログラムを実施した。【資料 A-1-92】
- ・ さぬき市子ども会育成連絡協議会主催の「さぬきっ子ふえすていばる！」において薬剤師体験を開催した。【資料 A-1-93】
- ・ 平成 28(2016)年 10 月の大学祭期間中に、香川県病院薬剤師会・香川県薬剤師会と共催で「薬剤師によるお薬相談会&健康チェック」を開催した。【資料 A-1-94】
- ・ 香川県病院薬剤師会、香川県薬剤師会共催「薬剤師によるお薬の無料相談会」や香川県坂出市王越地区の地元の住民、医療、介護関係者と連携し、健康イベントを開催した。【資料 A-1-95・資料 A-1-96】
- ・ 香川県産業人材創出支援事業 文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム「かがわ健康関連製品開発地域」人材育成ユニット 香川県内大学・高専連携人材育成システム 21 世紀源内ものづくり塾を開催した。【資料 A-1-97】
- ・ 平成 28(2016)年 7 月と 11 月に香川県薬剤師会と連携し、無菌調剤室利用のための研修会を開催した。【資料 A-1-98】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料 A-1-1】 徳島文理大学地域連携センター規程
- 【資料 A-1-2】 地域連携センターのあり方
- 【資料 A-1-3】 地域連携センター職員一覧
- 【資料 A-1-4】 徳島文理大学公開講座 2016
- 【資料 A-1-5】 国際シンポジウム 天然物の未来 2016
- 【資料 A-1-6】 減災科学シンポジウム in 徳島 ※【資料 3-1-29】と同じ
- 【資料 A-1-7】 本学 Web ページ「いきいきセミナー」
- 【資料 A-1-8】 徳島文理大学サッカースクール文理クラブ
- 【資料 A-1-9】 出張講義プログラム 高校生向け「知の資源」の開放 2016
- 【資料 A-1-10】 本学 Web ページ「イルミネーション 2016 点灯式のご案内」
- 【資料 A-1-11】 第 2 回 LED FESTIVAL 2016

- 【資料 A-1-12】 ふれあい健康館 Web ページ「ふれあい夏祭り」
- 【資料 A-1-13】 附属図書館利用規程 ※【資料 2-9-9】と同じ
- 【資料 A-1-14】 四国厚生支局 Web ページ「国家試験日程表」
- 【資料 A-1-15】 大学入試センターWeb ページ「平成 29 年度試験場一覧」(50 頁)
- 【資料 A-1-16】 実務技能検定協会 Web ページ「筆記試験会場一覧[秘書検定]」
- 【資料 A-1-17】 平成 28 年度さぬき市職員募集要項㊦ (4 頁)
- 【資料 A-1-18】 平成 28 年度徳島県市町村総合事務組合 職員採用試験案内 (2 頁)
- 【資料 A-1-19】 教職員グループウェア「アカンサス木曜ランチコンサートのご案内」
- 【資料 A-1-20】 本学 Web ページ「これまでのコンサート 2016 年度」
- 【資料 A-1-21】 とくしま記念オーケストラ演奏会
- 【資料 A-1-22】 徳島少年少女合唱団第 53 回定期演奏会
- 【資料 A-1-23】 徳島銀行 Web ページ「第 26 回リオデ徳島音楽祭の開催について」
- 【資料 A-1-24】 平成 28 年度「特色ある・教育研究」募集通知と採択結果
- 【資料 A-1-25】 本学 Web ページ「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革  
第 5 回ニュースレター」
- 【資料 A-1-26】 第 7 回・第 8 回 3 大学学術交流会 (公開講座)
- 【資料 A-1-27】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 68」(8 頁)
- 【資料 A-1-28】 2018 年大学案内 (27 頁) ※【資料 F-2】と同じ
- 【資料 A-1-29】 学術交流に関する協定書 (香川大学医学部)
- 【資料 A-1-30】 NPO 法人へき地とあゆむ薬剤師と徳島文理大学香川薬学部との連携に関する協定書
- 【資料 A-1-31】 さぬき市民病院と徳島文理大学香川薬学部・大学院薬学研究科との学術  
連携に関する協定書
- 【資料 A-1-32】 (株)プラスファーマシーズと徳島文理大学香川薬学部との学術連携に関する協定書
- 【資料 A-1-33】 人間生活学部教育・研究年報 平成 28 年度 ※【資料 2-8-5】と同じ
- 【資料 A-1-34】 音楽学部平成 28 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-6】と同じ
- 【資料 A-1-35】 薬学部教育・研究年報第 10 号 2015 年 ※【資料 2-8-7】と同じ
- 【資料 A-1-36】 総合政策学部 2016 年度教員・研究年報 ※【資料 2-8-8】と同じ
- 【資料 A-1-37】 保健福祉学部 2015 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-9】と同じ
- 【資料 A-1-38】 文学部 教育・研究年報 2016 年 ※【資料 2-8-10】と同じ
- 【資料 A-1-39】 2016 年理工学部年報 ※【資料 2-8-11】と同じ
- 【資料 A-1-40】 香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 11 号 2016 年  
※【資料 2-8-12】と同じ
- 【資料 A-1-41】 未来科学研究所 Annual Progress Report2016 ※【資料 4-3-9】と同じ
- 【資料 A-1-42】 徳島文理大学教員の平成 28 年度の活動報告(アニュアルレポート)様式  
※【資料 2-8-4】と同じ
- 【資料 A-1-43】 本学 Web ページ「デジタルコンテンツビジネス入門セミナー」
- 【資料 A-1-44】 徳島県と徳島文理大学との地域貢献に関する包括連携協定書
- 【資料 A-1-45】 徳島市と徳島文理大学との地域貢献に関する包括連携協定書
- 【資料 A-1-46】 包括連携・協力に関する協定書 (香川県)
- 【資料 A-1-47】 さぬき市と徳島文理大学との連携に関する協定書

- 【資料 A-1-48】 徳島文理大学と高松市との連携協力に関する協定書
- 【資料 A-1-49】 美波町と徳島文理大学との包括的連携に関する協定書
- 【資料 A-1-50】 一般社団法人徳島新聞社と徳島文理大学との連携協力に関する協定書
- 【資料 A-1-51】 徳島新聞 Web ページ「人形浄瑠璃座復活へ 美波・赤松神社 2016/10/11」
- 【資料 A-1-52】 本学 Web ページ「赤松神社(徳島県海部郡美波町)のイベントに参加」
- 【資料 A-1-53】 徳島新聞 Web ページ「徳島文理大、S0 設置へ 薬王寺門前町活性化など後押し」
- 【資料 A-1-54】 徳島文理大学と徳島県看護協会との連携に関する協定書
- 【資料 A-1-55】 徳島文理大学認定看護師教育機関に関する規程
- 【資料 A-1-56】 とくしま「健幸」イノベーション構想推進地域 Web サイト
- 【資料 A-1-57】 第 60 回日本糖尿病学会演題採否のお知らせ
- 【資料 A-1-58】 学生ポータルサイト「ボランティア募集」
- 【資料 A-1-59】 本学 Web ページ「メディアデザイン学科 プロジェクト」
- 【資料 A-1-60】 本学 Web ページ「徳島県警察「情報発信ウォッチャー」 2016/11/14」
- 【資料 A-1-61】 本学 Web ページ「県南地域づくりキャンパス事業 2016/07/25」
- 【資料 A-1-62】 本学 Web ページ「18 歳選挙権徳島青年会議所とコラボ 2016/06/22」
- 【資料 A-1-63】 本学 Web ページ「第 39 回阿波の狸まつり 2016/11/17」
- 【資料 A-1-64】 徳島市電子図書館 Web ページ「追憶の昭和徳島」
- 【資料 A-1-65】 本学 Web ページ「ヴォルティススタジアム学園祭 2016/11/08」
- 【資料 A-1-66】 徳島県生涯学習情報システムまなびひろば Web ページ  
「徳島文理大学連携講座」・生涯学習講座受講者数
- 【資料 A-1-67】 第 35・36 回徳島文理大学薬学部卒業後教育講座
- 【資料 A-1-68】 いきいき健康セミナー
- 【資料 A-1-69】 2015 年徳島文理大学 眉山の遍路道クリーンウォーク
- 【資料 A-1-70】 徳島県議会と徳島文理大学との連携に関する協定書
- 【資料 A-1-71】 徳島県議会 Web ページ「徳島文理大学との包括連携協定」
- 【資料 A-1-72】 徳島市民病院看護部 研修風景「平成 28 年度新人職員研修(4)」
- 【資料 A-1-73】 平成 27 年度地域医療介護総合確保基金事業実施報告書
- 【資料 A-1-74】 高齢ドライバー安全運転支援ネットワーク運用に関する協定
- 【資料 A-1-75】 徳島文理大学臨床心理相談室規則
- 【資料 A-1-76】 徳島文理大学文学部学生による展覧会「残された石の声」高松
- 【資料 A-1-77】 徳島文理大学文学部学生による展覧会「残された石の声」小豆島
- 【資料 A-1-78】 本学 Web ページ「語学センターフェスティバル英語暗誦コンテスト結果」
- 【資料 A-1-79】 徳島文理大学 第 7 回朗読コンテスト審査結果
- 【資料 A-1-80】 2016 年公開講演会「江戸時代小説と近代小説から見た社会風俗と経済」
- 【資料 A-1-81】 第 9 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集 (33-34 頁)  
※【資料 2-8-15】と同じ
- 【資料 A-1-82】 FM 香川さぬき市再発見ラジオ Web サイト  
「さぬき RED ノンアルコールワイン」
- 【資料 A-1-83】 2016 かがわ子ども大学
- 【資料 A-1-84】 本学 Web ページ「サイエンスキャンプを開催しました」

- 【資料 A-1-85】 おくすり・アルコール体質セミナー
- 【資料 A-1-86】 アルコール体質測定セミナー
- 【資料 A-1-87】 個別化医療セミナー
- 【資料 A-1-88】 文献検索：PubMed 実践セミナー
- 【資料 A-1-89】 エビデンス創出スキルアップセミナー
- 【資料 A-1-90】 本学 Web ページ「アルコール体質チェックと飲酒の功罪」セミナー
- 【資料 A-1-91】 個別化医療セミナー
- 【資料 A-1-92】 夢化学 21 in Kagawa～おもしろワクワクサイエンス展’ 15 及び 16
- 【資料 A-1-93】 第 2・3 回・さぬきっ子ふえすていばる
- 【資料 A-1-94】 薬剤師によるお薬相談会&健康チェック
- 【資料 A-1-95】 薬剤師によるお薬の無料相談会
- 【資料 A-1-96】 王越・健康のつどい
- 【資料 A-1-97】 21 世紀源内ものづくり塾
- 【資料 A-1-98】 会営薬局無菌調剤室利用の為の研修会の開催について

#### 【自己評価】

- ・ 企業・他大学等の外部組織と、整備された遠隔授業システム等を使用して交流することにより、学生の学修範囲が広がり学修意欲が向上している。また、教員の相互派遣、学生の臨床実習、大学院生の受け入れ及び共同研究の推進が順調に遂行され、地域医療に貢献できる人材養成と臨床課題の基礎研究の成果が挙げられている。
- ・ 地域の発展に貢献するという本学の教育理念のひとつに基づき、様々な公開講座・セミナーそして出張講義等を行っており、本学の人的・物的資産の提供は充分に行われていると評価できる。
- ・ キャンパスのある徳島並びに香川の地方公共団体等と連携し、各種イベント等の開催や地域住民の交流等を通じ、本学と地域社会との協力体制は構築されていると判断している。

#### (3) A-1 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 地域貢献に関する取組みは、現在のところ学部・学科間で温度差がみられるので、今後、地域貢献事業を全学的な取組みとして拡大する方向で改善する。
- ・ 学内での地域貢献事業の要となる部署として設立した地域連携センターの活動を充実させていく。

#### 【基準 A の自己評価】

- ・ 近年、地域の発展を図るうえで、「知の拠点」としての大学による地域貢献に期待が寄せられている。本学が位置する四国は、人口の減少や少子高齢化の進行、将来発生が予測されている南海トラフ地震や自然環境の喪失の進行等、様々な課題を抱えている。今後も本学が持つ物的・人的資源を企業や他大学、地方公共団体等と連携しながら、地域社会に還元できるよう努めていく。

## 基準 B. 国際交流

### B-1 徳島文理大学における国際交流

#### 《B-1 の視点》

#### B-1-① 学術交流協定

#### B-1-② 高大連携協定

#### B-1-③ 交換留学生の受入

#### B-1-④ 交換留学生派遣

#### B-1-⑤ 短期留学等の実施

#### (1) B-1 の自己判定

基準項目 B-1 を満たしている。

#### (2) B-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 【事実の説明】

#### B-1-① 学術交流協定

#### B-1-② 高大連携協定

- ・ 本評価書 1 頁（1）徳島文理大学の建学の精神、使命・目的においても記述したように、本学は、「自立協同の建学精神に基づき、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成すること」を目的としている。この考え方にに基づき、従来から国際交流を重視してきた。
- ・ 本学は、昭和 63(1988)年にバンクーバーコミュニティカレッジとの学術交流協定の締結をはじめに、留学生の派遣や受け入れ、客員教授の招待や共同研究をとおして国際交流を深めてきた。近年、中国、台湾及び韓国の各大学との交流を推進しており、平成 25(2013)年 5 月に中国厦門大学と、同 10 月に韓国の水原大学校及び水原科学大学校と、平成 26(2014)年 10 月には台湾の淡江大学と、平成 27(2015)年 10 月には学術交流協定を締結した。また、平成 28(2016)年 11 月には、ポーランドのルブリン医療大学との協定締結に向け覚書を交換し協議を開始している。【資料 B-1-1～資料 B-1-3】
- ・ 高大連携協定については、平成 21(2009)年に台湾の新民高級中学との連携協定を結び、平成 28(2015)年 10 月末現在、台湾 7 校、韓国 1 校及び中国 1 校と協定を結び交流を深めている。【資料 B-1-4】
- ・ 音楽学部では、協定校であるウィーン国立音楽大学の教授陣及び本学名誉博士の元シェナンドー大学マイケル・ローバッカ博士（アメリカ）を迎え特別講座を毎年開講しており、直接指導が受けられる。また、協定校である韓国の水原大学校から演奏団を招いて交流演奏会を開催した。【資料 B-1-5～資料 B-1-7】
- ・ 近年推進している台湾の各大学等の交流が、中華民国教育部でも高く評価されている。【資料 B-1-8】

#### B-1-③ 交換留学生の受入

#### B-1-④ 交換留学生派遣

- ・ 平成 28(2016)年度の交換留学生受け入れは、台湾の中山医学大学、義守大学、開南大学、逢甲大学から総合政策学部へ 12 人、韓国の檀國大学から文学部へ 8 人の計 20 人

であった。(うち、8人は平成27(2015)年度からの継続、8人は平成29(2017)年度へ継続)【資料 B-1-9】

- ・ 本学からの交換留学生派遣については、平成27(2015)年度、韓国の檀國大学校に文学部の学生1人が9か月間、同じく文学部の学生1人が3か月間留学し、平成28(2016)年度には、平成29(2017)年2月から、半年間の予定で、人間生活学部の学生1人がオーストラリアに留学中である。【資料 B-1-10・資料 B-1-11】
- ・ 交換留学生の受け入れや派遣については、キャンパスガイドや新入生オリエンテーションで配布する冊子に記載しているほか、国際交流グループが窓口となり、随時学生の相談に応じている。【資料 B-1-12・資料 B-1-13】

### B-1-⑤ 短期留学等の実施

本学では、トビタテ留学 JAPAN～日本代表プログラム～のような留学支援情報を学生に提供し応募を促進するとともに、協定校等における語学短期留学とヨーロッパ芸術研修の参加希望者を募り実施している。募集に関しては、留学全般に関する説明会、個別の留学説明会を実施するとともに、「学生ポータルサイト」等を通じて、学生に随時連絡している。平成28(2016)年度の本学からの留学生は、40人であった。なお、協定校への短期留学参加者に対しては、在学中1回限りではあるが、短期留学支援奨学金を支給し、学生の留学にかかる経済的負担の軽減を図っている。また、協定校の学生を対象とした、短期の研修等の受け入れも積極的に実施しており、平成28(2016)年度は、日本語・日本文化研修、音楽セミナー、交流演奏会等、109人の学生・生徒を受け入れた。【資料 B-1-9】【資料 B-1-11】【資料 B-1-14・資料 B-1-15】

#### 【エビデンス集・資料編】

- 【資料 B-1-1】 徳島文理大学 学術交流協定校一覧表
- 【資料 B-1-2】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 71」(3 頁)
- 【資料 B-1-3】 2018 年大学案内 (16-17 頁) ※【資料 F-2】と同じ
- 【資料 B-1-4】 徳島文理大学高大連携協定校一覧
- 【資料 B-1-5】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 73」(9 頁)
- 【資料 B-1-6】 平成 28 年度提携校等受入一覧
- 【資料 B-1-7】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 80」(3 頁)
- 【資料 B-1-8】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 68」(5 頁)  
※【資料 A-1-27】と同じ
- 【資料 B-1-9】 交換留学生(受入)・協定校から短期研修等の受入
- 【資料 B-1-10】 平成 27(2015)年度 留学等の実績
- 【資料 B-1-11】 平成 28(2016)年度 留学等の実績
- 【資料 B-1-12】 平成 29 年度キャンパスガイド (97-98 頁) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 B-1-13】 新入学生オリエンテーション (41-42 頁) ※【資料 1-3-8】と同じ
- 【資料 B-1-14】 本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 80」(9 頁)  
※【資料 B-1-7】と同じ
- 【資料 B-1-15】 短期留学支援奨学金取扱要項

**【自己評価】**

- ・ 本学は、若い世代の「内向き志向」を克服し、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、アジア、オセアニアやヨーロッパ、北米各地に協定校を持ち、交流を図ってきた。
- ・ 受け入れに関しては毎年、多くの学生が参加しており、学生の国際感覚の体得及び異文化理解の一助となっているものと判断している。一方、本学からの交換留学生が少ないのが課題であると考える。
- ・ 本学からの短期留学生の人数はまずまずの状況である。留学した全員が留学プログラムを通じ、異文化理解や国際感覚の体得等の成果を上げていることから、期待した教育効果を得ていると判断している。

**(3) B-1 の改善・向上方策（将来計画）**

- ・ 学生の異文化理解と国際感覚の体得には、実際に海外に渡航するか外国人と接触することが極めて重要である。このため、既存の海外研修・留学プログラムを推進することはもとより、これの一層の多様化を進め機会の拡大を進めていく。
- ・ 協定校の拡大を図り、留学生や協定校を対象とした、短期研修をより制度的に確立したものとし、学生の異文化理解の機会拡大を図っていく。
- ・ 交換留学については、本学からの派遣が少ないことが問題であるが、その最大の障壁は語学力にある。一部の国の大学には、交換留学生の語学力を問わないところもあるが、留学先の学生と机を並べて学習し、異文化理解とともに学修成果も上げることをめざす交換留学制度の趣旨を考えると、あくまでもしかるべき語学力をもって留学すべきであると考えている。このため、即効性のある対策はとり難いが、短期語学留学の機会を多様化するなどし、留学希望者の語学力の底上げに努める。また、従来の留学の枠組みに加え、「トビタテ！留学 JAPAN」のような枠組みの周知に努め、応募を促進していく。

**【基準 B の自己評価】**

- ・ 本学は現在、31 校との学術交流協定を締結し、また高大連携協定も 9 校と拡充している。また、学生が海外で学ぶ機会の多様化と交換留学生や短期の研修を含め海外からの学生の受け入れを進めており、国際交流の目的を達成するための取組みを積極的に行っていると判断する。



V. エビデンス集一覧

エビデンス集（データ編）一覧

コード	タイトル	備考
【表 F-1】	大学名・所在地等	
【表 F-2】	設置学部・学科・大学院研究科等／開設予定の学部・学科・大学院研究科等	
【表 F-3】	学部・研究科構成	
【表 F-4】	学部・学科の学生定員及び在籍学生数	
【表 F-5】	大学院研究科の学生定員及び在籍学生数	
【表 F-6】	全学の教員組織（学部等）	
	全学の教員組織（大学院等）	
【表 F-7】	附属校及び併設校、附属機関の概要	
【表 F-8】	外部評価の実施概要	
【表 2-1】	学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移（過去 5 年間）	
【表 2-2】	学部、学科別の在籍者数（過去 5 年間）	
【表 2-3】	大学院研究科の入学者数の内訳（過去 3 年間）	
【表 2-4】	学部、学科別の退学者数の推移（過去 3 年間）	
【表 2-5】	授業科目の概要	
【表 2-6】	成績評価基準	
【表 2-7】	修得単位状況（前年度実績）	
【表 2-8】	年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）	
【表 2-9】	就職相談室等の利用状況	
【表 2-10】	就職の状況（過去 3 年間）	
【表 2-11】	卒業後の進路先の状況（前年度実績）	
【表 2-12】	学生相談室、医務室等の利用状況	
【表 2-13】	大学独自の奨学金給付・貸与状況（授業料免除制度）（前年度実績）	
【表 2-14】	学生の課外活動への支援状況（前年度実績）	
【表 2-15】	専任教員の学部、研究科ごとの年齢別の構成	
【表 2-16】	学部の専任教員の1週当たりの担当授業時間数（最高、最低、平均授業時間数）	
【表 2-17】	学部、学科の開設授業科目における専兼比率	
【表 2-18】	校地、校舎等の面積	
【表 2-19】	教員研究室の概要	
【表 2-20】	講義室、演習室、学生自習室等の概要	
【表 2-21】	附属施設の概要（図書館除く）	
【表 2-22】	その他の施設の概要	
【表 2-23】	図書、資料の所蔵数	
【表 2-24】	学生閲覧室等	
【表 2-25】	情報センター等の状況	
【表 2-26】	学生寮等の状況	
【表 3-1】	職員数と職員構成（正職員・嘱託・パート・派遣別、男女別、年齢別）	
【表 3-2】	大学の運営及び質保証に関する法令等の遵守状況	
【表 3-3】	教育研究活動等の情報の公表状況	
【表 3-4】	財務情報の公表（前年度実績）	
【表 3-5】	消費収支計算書関係比率（法人全体のもの）	
【表 3-6】	事業活動収支計算書関係比率（法人全体のもの）	
【表 3-7】	消費収支計算書関係比率（大学単独）	
【表 3-8】	事業活動収支計算書関係比率（大学単独）	
【表 3-9】	貸借対照表関係比率（法人全体のもの）	
【表 3-10】	貸借対照表関係比率（法人全体のもの）	

【表 3-11】	要積立額に対する金融資産の状況（法人全体のもの）（過去 5 年間）	
----------	-----------------------------------	--

※該当しない項目がある場合は、備考欄に「該当なし」と記載。

## エビデンス集（資料編）一覧

### 基礎資料

コード	タイトル		
	該当する資料名及び該当ページ	備考	
【資料 F-1】	寄附行為		
	学校法人村崎学園寄附行為		
【資料 F-2】	大学案内		
	2018 年大学案内		
【資料 F-3】	大学学則、大学院学則		
	①徳島文理大学学則 ②徳島文理大学大学院学則 ③徳島文理大学専攻科規則		
	学生募集要項、入学者選抜要綱		
【資料 F-4】	<b>徳島文理大学入学試験要項</b> ①平成 30 年度入学試験要項 ②平成 29 年度指定校制推薦入学試験要項 ③平成 30 年度 AO 入試要項 ④平成 30 年度スポーツ・音楽特待生入学試験要項		
	<b>徳島文理大学編入学試験要項</b> ⑤平成 30 年度編入学試験要項 ⑥平成 29 年秋季編入学試験要項		
	<b>徳島文理大学外国人留学生のための入学試験要項</b> ⑦2017 年度外国人留学生のための入学試験要項 ⑧2017 年度外国人留学生のための指定校制推薦入試要項 ⑨2016 年度日本留学試験（EJU）利用入学試験（総合政策学部） ⑩2017 年度外国人留学生のための音楽学部 A0（特待生）入学試験要項 ⑪2016 年 9 月編入学 2017 年 4 月編入学 外国人留学生のための編入学試験要項		
	<b>徳島文理大学大学院学生募集要項</b> ⑫平成 28 年度秋季平成 29 年度春季 薬学研究科（4 年制）学生募集要項 ⑬平成 29 年度人間生活学研究科博士前期課程学生募集要項 ⑭平成 29 年度人間生活学研究科博士後期課程学生募集要項 ⑮平成 29 年度文学研究科博士前期課程・後期課程学生募集要項 ⑯平成 29 年度工学研究科学生募集要項 ⑰平成 29 年度看護学研究科博士前期課程募集要項 （一般入学試験・社会人入学試験） ⑱平成 29 年度看護学研究科博士後期課程募集要項 （一般入学試験・社会人入学試験） ⑲平成 29 年度総合政策学研究科修士課程募集要項 ⑳平成 29 年度総合政策学研究科修士課程募集要項 （学術交流協定校留学生入試）		
	<b>徳島文理大学専攻科入学試験要項</b> ㉑平成 30 年度専攻科入学試験要項（人間生活学・音楽） ㉒平成 30 年度助産学専攻科入学試験要項		
	【資料 F-5】	学生便覧	
		平成 29 年度キャンパスガイド	
	【資料 F-6】	事業計画書	
		平成 29 年度実施主要事業計画書(案)	
	【資料 F-7】	事業報告書	
		本学 Web ページ「平成 28 年度学園の事業報告」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/gijyo2017.pdf">https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/gijyo2017.pdf</a> ]	

徳島文理大学

【資料 F-8】	アクセスマップ、キャンパスマップなど	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学 Web ページ「交通アクセス」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/access/]</li> <li>・本学 Web ページ「キャンパスマップ」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/campus-map/]</li> </ul>	
【資料 F-9】	法人及び大学の規程一覧（規程集目次など）	
	学校法人村崎学園規程集目次	
【資料 F-10】	理事、監事、評議員などの名簿（外部役員・内部役員）及び理事会、評議員会の前年度開催状況（開催日、開催回数、出席状況など）がわかる資料	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事・監事・評議員名簿</li> <li>・理事会開催状況（平成 28 年度）</li> <li>・常任理事会開催状況（平成 28 年度）</li> <li>・評議員会開催状況（平成 28 年度）</li> </ul>	
【資料 F-11】	決算等の計算書類（過去 5 年間）、監事監査報告書（過去 5 年間）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算書（平成 24 年度～平成 28 年度）</li> <li>・監事監査報告書（平成 24 年度～平成 28 年度）</li> </ul>	
【資料 F-12】	履修要項、シラバス	
	<p><b>履修ガイド・要覧 I</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①平成 29 年度人間生活学部履修ガイド</li> <li>②音楽学部履修ガイド 2017</li> <li>③平成 29 年度薬学部要覧(新カリキュラム用)</li> <li>④平成 28 年度薬学部要覧(3～6 年生用)</li> <li>⑤平成 29 年度総合政策学部履修ガイド</li> <li>⑥平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド（徳島キャンパス）</li> </ul> <p><b>履修ガイド・要覧 II</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド（香川キャンパス）</li> <li>⑧平成 29 年度文学部履修ガイド</li> <li>⑨平成 29 年度理工学部履修ガイド</li> <li>⑩平成 29 年度香川薬学部要覧(平成 27 年度以降入学生)</li> <li>⑪平成 29 年度香川薬学部要覧(平成 26 年度以前入学生)</li> <li>⑫2017 年度薬学研究科要覧</li> <li>⑬2017 年度総合政策学研究科履修の手引き</li> </ul> <p><b>シラバス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭平成 29 年度人間生活学部シラバス (No.1)</li> <li>⑮平成 29 年度人間生活学部シラバス (No.2)</li> <li>⑯平成 29 年度音楽学部シラバス</li> <li>⑰平成 29 年度薬学部・総合政策学部シラバス</li> <li>⑱平成 29 年度保健福祉学部（徳島キャンパス）シラバス</li> <li>⑲平成 29 年度文学部シラバス</li> <li>⑳平成 29 年度理工学部シラバス</li> <li>㉑平成 29 年度香川薬学部・保健福祉学部（香川キャンパス）シラバス</li> <li>㉒平成 29 年度大学専攻科・大学院研究科シラバス</li> </ul>	

基準 1. 使命・目的等

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
1-1. 使命・目的及び教育目的の明確性		
【資料 1-1-1】	徳島文理大学学則（1 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-2】	徳島文理大学学則（2-3 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-3】	平成 29 年度キャンパスガイド（167-168 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-1-4】	徳島文理大学大学院学則（1-2 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-5】	徳島文理大学専攻科規則（1 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-6】	平成 29 年度キャンパスガイド（182・185 頁）	【資料 F-5】と同じ

徳島文理大学

【資料 1-1-7】	平成 29 年度キャンパスガイド (33 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-1-8】	本学 Web ページ「名称及び教育研究上の目的」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf]	
【資料 1-1-9】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.81」(2-3 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/81.pdf]	
<b>1-2. 使命・目的及び教育目的の適切性</b>		
【資料 1-2-1】	本学 Web ページ「建学の精神と学章」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/overview/spirit.html]	
【資料 1-2-2】	本学 Web ページ「めざす大学像」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/12.pdf]	
【資料 1-2-3】	徳島文理大学学則 (1 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-2-4】	徳島文理大学学則 (2-3 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-2-5】	徳島文理大学大学院学則 (1-2 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-2-6】	徳島文理大学専攻科規則 (1 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-2-7】	平成 29 年度キャンパスガイド (167-168 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-2-8】	平成 29 年度キャンパスガイド (182・185 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-2-9】	2018 年大学案内 (174-175 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-2-10】	平成 29 年度糖尿病看護認定看護師教育課程募集要項	
【資料 1-2-11】	糖尿病看護認定看護師リーフレット	
<b>1-3. 使命・目的及び教育目的の有効性</b>		
【資料 1-3-1】	本学 Web ページ「建学の精神、使命・目的」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/11.pdf]	
【資料 1-3-2】	本学 Web ページ「教育理念と方針」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/]	
【資料 1-3-3】	平成 29 年度キャンパスガイド (見開き)	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-4】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.77」 (3 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/77.pdf]	
【資料 1-3-5】	履修ガイド・要覧Ⅰ①～⑥	【資料 F-12】と同じ
【資料 1-3-6】	履修ガイド・要覧Ⅱ⑦～⑯	【資料 F-12】と同じ
【資料 1-3-7】	平成 29 年度キャンパスガイド (167 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-8】	新入学生オリエンテーション (1-6 頁)	
【資料 1-3-9】	徳島文理大学「文理学(地域学を含む)」について	
【資料 1-3-10】	2018 年大学案内 (174-175 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 1-3-11】	本学 Web ページ「平成 28 年度学園の事業報告」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/gijyo2017.pdf]	【資料 F-7】と同じ
【資料 1-3-12】	全学教務委員会要綱	
【資料 1-3-13】	全学教務委員会平成 28 年度議事	
【資料 1-3-14】	全学教務委員会平成 26 年度第 2 回議事	
【資料 1-3-15】	本学 Web ページ「名称及び教育研究上の目的」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/21.pdf]	【資料 1-1-8】と同じ
【資料 1-3-16】	本学 Web ページ「受入方針(アドミッション・ポリシー)」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/]	
【資料 1-3-17】	本学 Web ページ「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること」 [https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/]	
【資料 1-3-18】	大学ポータル私学版 Web ページ「徳島文理大学」 [http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000648002000.html]	
【資料 1-3-19】	徳島文理大学学則 (1・14 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-3-20】	徳島文理大学大学院学則 (1 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-3-21】	徳島文理大学専攻科規則 (1 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 1-3-22】	徳島文理大学部局長会規程	
【資料 1-3-23】	徳島文理大学合同教授会規程	

徳島文理大学

【資料 1-3-24】	徳島文理大学学部教授会規程	
【資料 1-3-25】	徳島文理大学研究科委員会規程	

基準 2. 学修と教授

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
2-1. 学生の受入れ		
【資料 2-1-1】	本学 Web ページ「受入方針（アドミッション・ポリシー）」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/">https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/</a> ]	【資料 1-3-16】と同じ
【資料 2-1-2】	本学 Web ページ「入試情報」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/admissions/">https://www.bunri-u.ac.jp/admissions/</a> ]	
【資料 2-1-3】	徳島文理大学入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-4】	徳島文理大学編入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-5】	徳島文理大学外国人留学生のための入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-6】	徳島文理大学大学院学生募集要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-7】	徳島文理大学専攻科入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-8】	平成 28 年度オープンキャンパス参加者数	
【資料 2-1-9】	平成 29 年度入試進学説明会開催内容	
【資料 2-1-10】	平成 29 年度入試ブロック別進学説明会開催内容	
【資料 2-1-11】	2017 年度 奨学金・特待生制度	
【資料 2-1-12】	全学入試委員会規程	
【資料 2-1-13】	学校法人村崎学園事務組織規程	
【資料 2-1-14】	平成 28 年 12 月部局長会・合同教授会開催通知	
【資料 2-1-15】	平成 29 年度 I 期 A 日程・B 日程入学試験実施計画	
【資料 2-1-16】	平成 28 年度 e ラーニングシステムを使った入学前教育実施について	
【資料 2-1-17】	徳島文理大学広報担当者会議規約・広報担当者一覧	
【資料 2-1-18】	学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移（過去 5 年間）	【データ編 2-1】と同じ
【資料 2-1-19】	平成 28 年度高校訪問実績	
【資料 2-1-20】	平成 28 年度出張講義実施状況	
【資料 2-1-21】	四国四県の状況と目標値	
【資料 2-1-22】	徳島文理大学入学試験要項①平成 30 年度入学試験要項（6 頁）	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-23】	学科説明会・施設見学会のお知らせ	
【資料 2-1-24】	2016 年度保護者会支部会開催のご案内	
2-2. 教育課程及び教授方法		
【資料 2-2-1】	本学 Web ページ「教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf">https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/pdf/univ-cp.pdf</a> ]	
【資料 2-2-2】	全学教務委員会要綱	【資料 1-3-12】と同じ
【資料 2-2-3】	全学教務委員会平成 28 年度議事	【資料 1-3-13】と同じ
【資料 2-2-4】	平成 28 年 12 月部局長会・合同教授会開催通知	【資料 2-1-14】と同じ
【資料 2-2-5】	大学ポータル私学版 Web ページ「徳島文理大学」 [ <a href="http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000648002000.html">http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000648002000.html</a> ]	【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-2-6】	平成 29 年度キャンパスガイド（209-216 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-7】	履修ガイド・要覧 I・II	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-2-8】	2017 年度 WEB シラバス依頼・シラバス作成要領	
【資料 2-2-9】	各学科によるシラバス点検表（シラバスの第 3 者チェック）	
【資料 2-2-10】	平成 29 年度キャンパスガイド（32 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-11】	平成 28 (2016) 年度 FD 研究会活動報告書（6-11 頁）	
【資料 2-2-12】	授業評価アンケート結果とアクションプランシートの公開について	
【資料 2-2-13】	平成 29 年度キャンパスガイド（33 頁）	【資料 F-5】と同じ

徳島文理大学

【資料 2-2-14】	徳島文理大学「文理学（地域学を含む）」について	【資料 1-3-9】と同じ
<b>2-3. 学修及び授業の支援</b>		
【資料 2-3-1】	新入学生オリエンテーション（1頁）	【資料 1-3-8】と同じ
【資料 2-3-2】	学習ポートフォリオ（学生用）取扱説明書	
【資料 2-3-3】	平成 29 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）	
【資料 2-3-4】	本学 Web ページ「全学共通教育センター」 〔 <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/research/educational-c/">https://www.bunri-u.ac.jp/research/educational-c/</a> 〕	
【資料 2-3-5】	平成 29 年度キャンパスガイド（24-25 頁）	
【資料 2-3-6】	H28 年度全学共通教育センター利用状況	
【資料 2-3-7】	徳島文理大学「文理学（地域学を含む）」について	【資料 1-3-9】と同じ
【資料 2-3-8】	本学 Web ページ「語学センター」 〔 <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/research/language-c/">https://www.bunri-u.ac.jp/research/language-c/</a> 〕	
【資料 2-3-9】	新入学生オリエンテーション（43-51 頁）	【資料 1-3-8】と同じ
【資料 2-3-10】	平成 29 年度教職履修カルテ説明会資料	
【資料 2-3-11】	教職履修カルテ（学生用・教員用）取扱説明書	
【資料 2-3-12】	平成 29 年度キャンパスガイド（7 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-3-13】	2017 年度 WEB シラバス依頼・シラバス作成要領	【資料 2-2-8】と同じ
【資料 2-3-14】	学力充実講座 SA（学生指導員）一覧	
【資料 2-3-15】	スチューデント・アシスタント規程	
【資料 2-3-16】	全学共通教育センター（香川キャンパス）における専門基礎指導の受講実績及び基礎教育担当者名簿	
【資料 2-3-17】	本学 Web ページ「薬学教育センター」 〔 <a href="http://p.bunri-u.ac.jp/lab/education_center/index.html">http://p.bunri-u.ac.jp/lab/education_center/index.html</a> 〕	
【資料 2-3-18】	香川薬学部における Education Staff 制度運用規則試案	
【資料 2-3-19】	ティーチング・アシスタント規程	
【資料 2-3-20】	リサーチ・アシスタント規程	
【資料 2-3-21】	退学者防止対策検討委員会設置要領	
【資料 2-3-22】	退学者防止対策検討委員会議事	
【資料 2-3-23】	新入生宿泊セミナー運営委員会資料抜粋	
【資料 2-3-24】	保健業務実施記録（平成 28 年度）	
【資料 2-3-25】	徳島文理大学学則（44 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-3-26】	身分異動に関する連絡協議会議事・身分異動リスト表	
【資料 2-3-27】	改善意見箱（目安箱）の投函件数と内容について	
【資料 2-3-28】	授業評価アンケート用紙	
【資料 2-3-29】	授業評価アンケート結果とアクションプランシートの公開について	【資料 2-2-12】と同じ
<b>2-4. 単位認定、卒業・修了認定等</b>		
【資料 2-4-1】	全学教務委員会平成 28 年度議事	【資料 1-3-13】と同じ
【資料 2-4-2】	本学 Web ページ「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること」 〔 <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/">https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/</a> 〕	【資料 1-3-17】と同じ
【資料 2-4-3】	大学ポータル私学版 Web ページ「徳島文理大学」 〔 <a href="http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/0000000648002000.html">http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/0000000648002000.html</a> 〕	【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-4-4】	平成 29 年度キャンパスガイド（203-208 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-5】	徳島文理大学学則（7-11 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-6】	シラバス	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-7】	シラバス作成要領	【資料 2-2-8】と同じ
【資料 2-4-8】	徳島文理大学学則（10 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-9】	徳島文理大学編入学試験要項	【資料 F-4】と同じ
【資料 2-4-10】	平成 29 年度キャンパスガイド（31 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-11】	新入学生オリエンテーション（17 頁）	【資料 1-3-8】と同じ
【資料 2-4-12】	成績通知書の見方について（香川キャンパス）	

徳島文理大学

【資料 2-4-13】	平成 29 年度人間生活学部履修ガイド (42・49 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-14】	音楽学部履修ガイド 2017 (7 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-15】	平成 29 年度総合政策学部履修ガイド (15 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-16】	平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド (徳島キャンパス) (21・26・31 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-17】	工学研究科推薦入試規定	
【資料 2-4-18】	平成 29 年度香川薬学部要覧 (平成 27 年度以降入学生) (17 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-19】	平成 29 年度人間生活学部履修ガイド (23 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-20】	平成 29 年度薬学部要覧 (新カリキュラム用) (47-48 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-21】	平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド (徳島キャンパス) (20・31 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-22】	平成 29 年度保健福祉学部履修ガイド (香川キャンパス) (19 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-23】	平成 29 年度理工学部履修ガイド (13 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-24】	平成 29 年度香川薬学部要覧 (平成 27 年度以降入学生用) (13-14 頁)	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-4-25】	徳島文理大学学則 (4 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-26】	徳島文理大学大学院学則 (3-5 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-27】	徳島文理大学専攻科規則 (2 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-28】	平成 29 年度キャンパスガイド (197-198 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-29】	文学研究科 課程博士の学位授与に関する内規	
【資料 2-4-30】	文学研究科 学位授与に関する申し合わせ	
【資料 2-4-31】	文学研究科 論文博士の学位申請の受理及び学位授与の審査に関する申し合わせ	
【資料 2-4-32】	工学研究科 博士後期課程学位審査内規	
【資料 2-4-33】	工学研究科 博士後期課程博士論文審査 細則	
【資料 2-4-34】	薬学研究科 早期修了による課程博士の学位に関する取扱内規	
【資料 2-4-35】	博士課程在学中における事前学習および薬学実務実習ならびに特別措置に必要な科目の履修資格審査 (博士課程中間審査) に関する取り扱い内規	
【資料 2-4-36】	博士学位論文第 38・39 号 審査委員頁抜粋	
<b>2-5. キャリアガイダンス</b>		
【資料 2-5-1】	就職支援委員会規程	
【資料 2-5-2】	インターンシップ推進委員会規則	
【資料 2-5-3】	平成 28 年度インターンシップ参加実績 (延べ人数)	
【資料 2-5-4】	2018 年 3 月卒業生用就職活動の手引き・就活ハンドブック (2015-2017)	
【資料 2-5-5】	平成 29 年度キャンパスガイド (33 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-5-6】	平成 28 年度年間主要行事予定表・就職支援実施記録	
【資料 2-5-7】	2017 年 3 月企業・病院概要 (徳島キャンパス学内合同企業説明会)	
【資料 2-5-8】	2017 年 3 月企業概要 (徳島キャンパス学内合同企業説明会)	
【資料 2-5-9】	2017 年 4 月企業・病院概要 (香川キャンパス学内合同企業説明会)	
【資料 2-5-10】	平成 28 年度・平成 29 年度前期公務員試験対策講座 (香川: ガイダンス)	
【資料 2-5-11】	平成 28 年度・平成 29 年度前期学力充実対策講座 (香川: 学力向上対策指導・講座)	
【資料 2-5-12】	平成 29 年度学習支援アドバイザー及び講座一覧	
【資料 2-5-13】	平成 28 年度就職概況	
【資料 2-5-14】	本学 Web ページ「キャリア・就職支援」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/career/">https://www.bunri-u.ac.jp/career/</a> ]	
【資料 2-5-15】	平成 29 年度薬学部シラバス「企業インターンシップ」	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-5-16】	平成 29 年度総合政策学部シラバス「インターンシップ A・B」	【資料 F-12】と同じ
【資料 2-5-17】	平成 29 年度キャンパスガイド (183 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-5-18】	徳島文理大学専攻科修了生による修了演奏会・修了プレゼンテーション	
【資料 2-5-19】	平成 28 年度・平成 29 年度前期教員養成対策講座 (香川: 教員採用試験対策講座)	
【資料 2-5-20】	面接講座依頼文	

徳島文理大学

【資料 2-5-21】	教職員グループウェア「教員・幼保等採用試験体験発表会」	
【資料 2-5-22】	教員・幼保採用試験レベルアップ講座	
【資料 2-5-23】	平成 28 年度小松島市小中学校特別支援ボランティア	
【資料 2-5-24】	徳島市学習支援ボランティア派遣要綱	
【資料 2-5-25】	第 11 回音楽療法士就職フォーラム	
2-6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック		
【資料 2-6-1】	平成 28(2016)年度 FD 研究部会活動報告書	【資料 2-2-11】と同じ
【資料 2-6-2】	本学 Web ページ「授業改善活動 (FD 活動)」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/research/fd-action/">https://www.bunri-u.ac.jp/research/fd-action/</a> ]	
【資料 2-6-3】	教職員グループウェア「面接記録」	
【資料 2-6-4】	学習ポートフォリオ (学生用) 取扱説明書	【資料 2-3-2】と同じ
2-7. 学生サービス		
【資料 2-7-1】	学生指導協議会運営規則	
【資料 2-7-2】	人権教育推進委員会規則	
【資料 2-7-3】	徳島文理大学ハラスメント防止対策委員会要項	
【資料 2-7-4】	徳島文理大学ハラスメント相談員要項	
【資料 2-7-5】	教職員グループウェア 学生基本情報画面	
【資料 2-7-6】	学校法人村崎学園事務組織規程	【資料 2-1-13】と同じ
【資料 2-7-7】	平成 29 年度キャンパスガイド (147-148 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-8】	本学 Web ページ「奨学金」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/campus-life/scholarship/">https://www.bunri-u.ac.jp/campus-life/scholarship/</a> ]	
【資料 2-7-9】	2017 年度 奨学金・特待生制度	【資料 2-1-11】と同じ
【資料 2-7-10】	大学独自の奨学金給付・貸与状況 (授業料免除制度) (前年度実績)	【データ編 2-13】と同じ
【資料 2-7-11】	就学支援奨学金規程	
【資料 2-7-12】	新入学生オリエンテーション (2 頁)	【資料 1-3-8】と同じ
【資料 2-7-13】	新入生宿泊セミナー運営委員会資料抜粋	【資料 2-3-23】と同じ
【資料 2-7-14】	徳島キャンパス宿泊セミナー運営委員会要項	
【資料 2-7-15】	学生相談室、医務室等の利用状況	【データ編 2-12】と同じ
【資料 2-7-16】	保健業務実施記録 (平成 28 年度)	【資料 2-3-24】と同じ
【資料 2-7-17】	平成 29 年度キャンパスガイド (10-11 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-18】	AED 設置場所・車椅子設置場所 (徳島キャンパス車椅子追加版)	
【資料 2-7-19】	AED (自動体外式除細動器) 講習会について	
【資料 2-7-20】	本学 Web ページ「部活動対象 普通救命講習会 I (徳島市)」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/info/events-r/20170418.html">https://www.bunri-u.ac.jp/info/events-r/20170418.html</a> ]	
【資料 2-7-21】	平成 29 年度キャンパスガイド (161・175 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-22】	平成 28 年度体育・文化功労賞受賞者	
【資料 2-7-23】	本学 Web ページ「徳島キャンパス弓道場」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/podcast/170208/">https://www.bunri-u.ac.jp/about/podcast/170208/</a> ]	
【資料 2-7-24】	クラブ委員会規約	
【資料 2-7-25】	学生の課外活動への支援状況	【データ編 2-14】と同じ
【資料 2-7-26】	本学 Web ページ「大学祭」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/campus-life/festival/">https://www.bunri-u.ac.jp/campus-life/festival/</a> ]	
【資料 2-7-27】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.79」 (9 頁) [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/79.pdf">https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/79.pdf</a> ]	
【資料 2-7-28】	本学 Web ページ「ボランティアパスポート」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/info/news/20160428.html">https://www.bunri-u.ac.jp/info/news/20160428.html</a> ]	
【資料 2-7-29】	シラバス「総合科目 E (ボランティア)」	
【資料 2-7-30】	徳島市アドプト・プログラム活動への登録について	
【資料 2-7-31】	平成 28 年度第 2 回徳島キャンパス全学地域清掃ボランティア活動について	



徳島文理大学

【資料 2-7-32】	熊本地震義援金活動について（報告）	
【資料 2-7-33】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.79」（15 頁） [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/79.pdf]	【資料 2-7-27】と同じ
【資料 2-7-34】	鳥取県中部地震・熊本地震義援金募金活動報告について	
【資料 2-7-35】	地震・集中豪雨等自然災害時における被災状況の情報収集体制について	
【資料 2-7-36】	本学 Web ページ「四国地区大学総合体育大会壮行会」 [https://www.bunri-u.ac.jp/info/events-r/20160620.html]	
【資料 2-7-37】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.79」（14 頁） [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/79.pdf]	【資料 2-7-27】と同じ
【資料 2-7-38】	本学 Web ページ「第 67 回四国地区大学総合体育大会の表彰」 [https://www.bunri-u.ac.jp/info/events-r/20160719.html]	
【資料 2-7-39】	とくしまマラソン 2017 へのボランティア参加報告について	
【資料 2-7-40】	本学(徳島キャンパス)における学生自主防災組織の編成について	
【資料 2-7-41】	本学 Web ページ「AwaterLab」 [http://www.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?c=7-46&page=4]	
【資料 2-7-42】	改善意見箱（目安箱）の投函件数と内容について	【資料 2-3-27】と同じ
【資料 2-7-43】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.70」（2 頁） [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/70.pdf]	
【資料 2-7-44】	本学 Web ページ「授業改善活動（FD 活動）」 [https://www.bunri-u.ac.jp/research/fd-action/]	【資料 2-6-2】と同じ
【資料 2-7-45】	本学 Web ページ「100 円朝食」 [https://www.bunri-u.ac.jp/campus-life/100/]	
<b>2-8. 教員の配置・職能開発等</b>		
【資料 2-8-1】	全学の教員組織（学部・大学院等）	【データ編 F-6】と同じ
【資料 2-8-2】	専任教員の学部、研究科ごとの年齢別の構成	【データ編 2-15】と同じ
【資料 2-8-3】	教員等選考規程・教員等資格審査に関する基準	
【資料 2-8-4】	徳島文理大学教員の平成 28 年度の活動報告(アニュアルレポート)様式	
【資料 2-8-5】	人間生活学部教育・研究年報 平成 28 年度	
【資料 2-8-6】	音楽学部平成 28 年度教育・研究年報	
【資料 2-8-7】	薬学部教育・研究年報第 10 号 2015 年	
【資料 2-8-8】	総合政策学部 2016 年度教育・研究年報	
【資料 2-8-9】	保健福祉学部 2015 年度教育・研究年報	
【資料 2-8-10】	文学部教育・研究年報 2016 年	
【資料 2-8-11】	2016 年理工学部年報	
【資料 2-8-12】	香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 11 号 2016 年	
【資料 2-8-13】	平成 28(2016)年度 FD 研究会活動報告書	【資料 2-2-11】と同じ
【資料 2-8-14】	本学 Web ページ「授業改善活動（FD 活動）」 [https://www.bunri-u.ac.jp/research/fd-action/]	【資料 2-6-2】と同じ
【資料 2-8-15】	第 9 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集	
【資料 2-8-16】	徳島文理大学学則（1 頁）	【資料 F-3】と同じ
【資料 2-8-17】	全学教務委員会要綱	【資料 1-3-12】と同じ
【資料 2-8-18】	全学教務委員会平成 28 年度議事	【資料 1-3-13】と同じ
【資料 2-8-19】	平成 29 年度キャンパスガイド（34-36 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-8-20】	平成 29 年度キャンパスガイド（33 頁）	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-8-21】	本学 Web ページ「全学共通教育センター」 [https://www.bunri-u.ac.jp/research/educational-c/]	【資料 2-3-4】と同じ
【資料 2-8-22】	本学 Web ページ「語学センター」 [https://www.bunri-u.ac.jp/research/language-c/]	【資料 2-3-8】と同じ
<b>2-9. 教育環境の整備</b>		
【資料 2-9-1】	耐震実施状況	
【資料 2-9-2】	防災訓練：実施記録	

徳島文理大学

【資料 2-9-3】	2018 年大学案内 (160-163・176-177 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-9-4】	キャンパス別の校地、校舎、運動場面積	
【資料 2-9-5】	教職員グループウェア「備品・用品管理台帳」薬学部備品一部抜粋	
【資料 2-9-6】	本学 Web ページ「看護学科案内」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/hokenfukushi/kango/01/index.html]	
【資料 2-9-7】	図書、資料の所蔵数	【データ編 2-23】と同じ
【資料 2-9-8】	本学 Web ページ「図書館」 [https://www.bunri-u.ac.jp/establishment/library/]	
【資料 2-9-9】	附属図書館利用規程	
【資料 2-9-10】	学生閲覧室等	【データ編 2-24】と同じ
【資料 2-9-11】	本学 Web ページ「体育施設」 [https://www.bunri-u.ac.jp/establishment/fitness/]	
【資料 2-9-12】	本学 Web ページ「メディアセンター (徳島キャンパス)」 [https://www.bunri-u.ac.jp/establishment/media.html]	
【資料 2-9-13】	本学 Web ページ「むらさきホール (徳島キャンパス)」 [https://www.bunri-u.ac.jp/establishment/murasaki.html]	
【資料 2-9-14】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.76」 (6 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/76.pdf]	
【資料 2-9-15】	平成 29 年度キャンパスガイド (10-11 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 2-9-16】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol.72」 (4 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/72.pdf]	
【資料 2-9-17】	2018 年大学案内 (103 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-9-18】	2018 年大学案内 (100-101 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-9-19】	2018 年大学案内 (76-79 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 2-9-20】	本学 Web ページ「村崎サイメモリアルホール (香川キャンパス)」 [https://www.bunri-u.ac.jp/establishment/memorial.html]	
【資料 2-9-21】	学校法人村崎学園事務組織規程	【資料 2-1-13】と同じ
【資料 2-9-22】	平成 28 年度クラスサイズ一覧表	

基準 3. 経営・管理と財務

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
3-1. 経営の規律と誠実性		
【資料 3-1-1】	学校法人村崎学園寄附行為 (1 頁)	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-1-2】	理事・監事・評議員名簿	【資料 F-10】と同じ
【資料 3-1-3】	学校法人村崎学園経理規程	
【資料 3-1-4】	学校法人村崎学園経理規程施行細則	
【資料 3-1-5】	学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程	
【資料 3-1-6】	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部支出決裁権限規程	
【資料 3-1-7】	学校法人村崎学園学費等収納事務取扱要領	
【資料 3-1-8】	学校法人村崎学園職員給与規程	
【資料 3-1-9】	学校法人村崎学園就業規則	
【資料 3-1-10】	学校法人村崎学園個人情報保護規程・特定個人情報等取扱規程	
【資料 3-1-11】	学校法人村崎学園公益通報者保護規程	
【資料 3-1-12】	教育研究助成金取扱規程	
【資料 3-1-13】	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部公的研究費の取扱いに関する規程	
【資料 3-1-14】	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部研究活動における不正行為への対応に関する規程	
【資料 3-1-15】	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部利益相反マネジメント規程	
【資料 3-1-16】	財務情報公開に関する規程	

徳島文理大学

【資料 3-1-17】	クールビズについて	
【資料 3-1-18】	人権・ハラスメント講演会について	
【資料 3-1-19】	学校法人村崎学園ハラスメント防止等規程	
【資料 3-1-20】	徳島文理大学ハラスメント防止対策委員会要項	【資料 2-7-3】と同じ
【資料 3-1-21】	学校法人村崎学園危機管理規程	
【資料 3-1-22】	防災規程	
【資料 3-1-23】	平成 29 年度防火・防災管理委員会組織表	
【資料 3-1-24】	平成 29 年度各棟防火・防災、火元責任者表	
【資料 3-1-25】	自衛消防隊の編成と任務	
【資料 3-1-26】	平成 29 年度自衛消防隊組織役割表	
【資料 3-1-27】	防災訓練：実施記録	【資料 2-9-2】と同じ
【資料 3-1-28】	夜間・休日の地震に伴う津波注意報・津波警報等発令時の初期対応について	
【資料 3-1-29】	減災科学シンポジウム in 徳島	
【資料 3-1-30】	学生ポータルサイト・地震(津波)対応マニュアル(防災マニュアル含む)	
【資料 3-1-31】	平成 29 年度キャンパスガイド (154-155 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 3-1-32】	第 8 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集 (5-8 頁)	
【資料 3-1-33】	耐震実施状況	【資料 2-9-1】と同じ
【資料 3-1-34】	学校法人村崎学園安全保健衛生管理規程 (衛生委員会会則含む)	
【資料 3-1-35】	インフルエンザ感染の対応	
【資料 3-1-36】	職場における心の健康づくり計画	
【資料 3-1-37】	学校法人村崎学園ストレスチェック制度実施規程・実施要綱	
【資料 3-1-38】	平成 28 年度ストレスチェック制度の実施について	
【資料 3-1-39】	本学 Web ページ「教育情報の公表」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/">https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/</a> ]	
【資料 3-1-40】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 79」 (17 頁) [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/79.pdf">https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/79.pdf</a> ]	【資料 2-7-27】と同じ
【資料 3-1-41】	本学 Web ページ「平成 28 年度学園の事業報告」 [ <a href="https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/gijyo2017.pdf">https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/pdf/gijyo2017.pdf</a> ]	【資料 F-7】と同じ
<b>3-2. 理事会の機能</b>		
【資料 3-2-1】	学校法人村崎学園寄附行為 (2 頁)	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-2-2】	理事・監事・評議員名簿	【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-3】	平成 29 年度学校法人村崎学園組織(事務関係)	【資料 2-3-3】と同じ
【資料 3-2-4】	学校法人村崎学園理事会規則	
【資料 3-2-5】	理事会開催状況 (平成 28 年度)	【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-6】	学校法人村崎学園常任理事会規則	
【資料 3-2-7】	常任理事会開催状況 (平成 28 年度)	【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-8】	学校法人村崎学園評議員会規程	
【資料 3-2-9】	評議員会開催状況 (平成 28 年度)	【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-10】	学校法人村崎学園監事監査規則	
【資料 3-2-11】	学校法人村崎学園監事監査実施要領	
【資料 3-2-12】	平成 29 年度部局長会名簿	
<b>3-3. 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ</b>		
【資料 3-3-1】	徳島文理大学部局長会規程	【資料 1-3-22】と同じ
【資料 3-3-2】	徳島文理大学合同教授会規程	【資料 1-3-23】と同じ
【資料 3-3-3】	徳島文理大学学部教授会規程	【資料 1-3-24】と同じ
【資料 3-3-4】	教育開発機構設置要綱	
【資料 3-3-5】	徳島文理大学学則 (4 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 3-3-6】	徳島文理大学学生懲戒規程	

徳島文理大学

<b>3-4. コミュニケーションとガバナンス</b>		
【資料 3-4-1】	学校法人村崎学園寄附行為 (3 頁)	【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-2】	徳島文理大学学則 (3 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 3-4-3】	学校法人村崎学園理事会規則	【資料 3-2-4】と同じ
【資料 3-4-4】	学校法人村崎学園常任理事会規則	【資料 3-2-6】と同じ
【資料 3-4-5】	学校法人村崎学園評議員会規程	【資料 3-2-8】と同じ
【資料 3-4-6】	徳島文理大学部局長会規程	【資料 1-3-22】と同じ
【資料 3-4-7】	徳島文理大学合同教授会規程	【資料 1-3-23】と同じ
【資料 3-4-8】	平成 29 年度学校法人村崎学園組織(事務関係)	【資料 2-3-3】と同じ
【資料 3-4-9】	平成 29 年度部局長会名簿	【資料 3-2-12】と同じ
【資料 3-4-10】	平成 29 年度キャンパスガイド (33 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 3-4-11】	理事・監事・評議員名簿	【資料 F-10】と同じ
【資料 3-4-12】	教育開発機構設置要綱	【資料 3-3-4】と同じ
<b>3-5. 業務執行体制の機能性</b>		
【資料 3-5-1】	平成 29 年度学校法人村崎学園組織(事務関係)	【資料 2-3-3】と同じ
【資料 3-5-2】	学校法人村崎学園事務組織規程	【資料 2-1-13】と同じ
【資料 3-5-3】	職員数と職員構成(正職員・嘱託・パート・派遣別、男女別、年齢別)	【データ編 3-1】と同じ
【資料 3-5-4】	職員資格審査に関する基準	
【資料 3-5-5】	平成 28(2016)年度 FD 研究会活動報告書 (24-26 頁) SD 研修について	【資料 2-2-11】と同じ
【資料 3-5-6】	徳島文理大学 SD 推進委員会設置要項	
【資料 3-5-7】	新任教職員研修・学内システム研修会日程	
【資料 3-5-8】	第 9 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集	【資料 2-8-15】と同じ
【資料 3-5-9】	管理責任者対象 SD 研修会次第、参加者名簿	
<b>3-6. 財務基盤と収支</b>		
【資料 3-6-1】	学校法人村崎学園中長期財務計画	
【資料 3-6-2】	平成 29 年度実施主要事業計画書(案)	【資料 F-6】と同じ
【資料 3-6-3】	平成 29 年度予算要望総括表・予算要望書	
【資料 3-6-4】	貸借対照表関係比率(法人全体のもの)	【データ編 3-9, 3-10】と同じ
【資料 3-6-5】	消費収支計算書関係比率(法人全体のもの)	【データ編 3-5】と同じ
【資料 3-6-6】	事業活動収支計算書関係比率(法人全体のもの)	【データ編 3-6】と同じ
【資料 3-6-7】	決算書(平成 24 年度～平成 28 年度)	【資料 F-11】と同じ
【資料 3-6-8】	外部研究費獲得推移	
【資料 3-6-9】	学校法人村崎学園資産運用内規	
<b>3-7. 会計</b>		
【資料 3-7-1】	学校法人村崎学園経理規程	【資料 3-1-3】と同じ
【資料 3-7-2】	学校法人村崎学園経理規程施行細則	【資料 3-1-4】と同じ
【資料 3-7-3】	平成 29 年度 経理部担当者一覧	
【資料 3-7-4】	グループウェア予算管理説明書	
【資料 3-7-5】	学校法人村崎学園監査計画書	
【資料 3-7-6】	学校法人村崎学園監事監査規則	【資料 3-2-10】と同じ
【資料 3-7-7】	学校法人村崎学園監事監査実施要領	【資料 3-2-11】と同じ
【資料 3-7-8】	平成 28 年度 監査計画	
【資料 3-7-9】	平成 28 年度 監事監査報告書(理事会・評議員会)	【資料 F-11】と同じ
【資料 3-7-10】	学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程	【資料 3-1-5】と同じ
【資料 3-7-11】	平成 28 年度 現品調査報告書	

基準 4. 自己点検・評価

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
4-1. 自己点検・評価の適切性		
【資料 4-1-1】	徳島文理大学学則 (14 頁)	【資料 F-3】と同じ
【資料 4-1-2】	徳島文理大学自己点検・評価に関する規程	
【資料 4-1-3】	平成 27 年度第 1 回自己点検・評価委員会議事録・資料①	
【資料 4-1-4】	徳島文理大学自己点検・評価に関する規程細則	
【資料 4-1-5】	本学 Web ページ「薬学教育プログラム 適合認定」 [http://p.bunri-u.ac.jp/news/hyouka2015.html]	
【資料 4-1-6】	本学 Web ページ「平成 29 年度自己点検・評価の内容 薬学研究科」 [http://p.bunri-u.ac.jp/graduateschool/jikotennkenchuukan2017.pdf]	
【資料 4-1-7】	本学 Web ページ「四国の全薬学部連携・共同による薬学教育改革評価委員会」 [http://www.bunri-u.ac.jp/shikoku-yaku/category/hyouka]	
【資料 4-1-8】	本学 Web ページ「リハビリテーション教育評価機構 認定」 [http://www.bunri-u.ac.jp/hokenfukushi/blog/rigaku/index.php?e=72]	
【資料 4-1-9】	平成 27 年度自己点検評価書	
4-2. 自己点検・評価の誠実性		
【資料 4-2-1】	資料・データ収集依頼文	
【資料 4-2-2】	平成 28 年度第 2 回自己点検・評価実施委員会議事録	
【資料 4-2-3】	2016 年度保護者会支部会開催のご案内	【資料 2-1-24】と同じ
【資料 4-2-4】	保護者会支部会を終えて	
【資料 4-2-5】	本学 Web ページ「認証評価（第三者評価）・自己点検評価>大学」 [https://www.bunri-u.ac.jp/research/hyouka/university/]	
【資料 4-2-6】	自己点検評価研修会次第	
4-3. 自己点検・評価の有効性		
【資料 4-3-1】	平成 28 年度第 1 回自己点検・評価委員会議事録	
【資料 4-3-2】	人間生活学部教育・研究年報 平成 28 年度	【資料 2-8-5】と同じ
【資料 4-3-3】	音楽学部平成 28 年度教育・研究年報	【資料 2-8-6】と同じ
【資料 4-3-4】	薬学部教育・研究年報第 10 号 2015 年	【資料 2-8-7】と同じ
【資料 4-3-5】	総合政策学部 2016 年度教育・研究年報	【資料 2-8-8】と同じ
【資料 4-3-6】	保健福祉学部 2015 年度教育・研究年報	【資料 2-8-9】と同じ
【資料 4-3-7】	文学部教育・研究年報 2016 年	【資料 2-8-10】と同じ
【資料 4-3-8】	2016 年理工学部年報	【資料 2-8-11】と同じ
【資料 4-3-9】	香川薬学部教育・研究年報 AnnualReport 第 11 号 2016 年	【資料 2-8-12】と同じ
【資料 4-3-10】	未来科学研究所 AnnualProgressReport2016	
【資料 4-3-11】	徳島文理大学教員の平成 28 年度の活動報告(アニュアルレポート)様式	【資料 2-8-4】と同じ

基準 A. 地域貢献・地域連携

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
A-1. 徳島文理大学における地域貢献・地域連携		
【資料 A-1-1】	徳島文理大学地域連携センター規程	
【資料 A-1-2】	地域連携センターのあり方	
【資料 A-1-3】	地域連携センター職員一覧	
【資料 A-1-4】	徳島文理大学公開講座 2016	
【資料 A-1-5】	国際シンポジウム 天然物の未来 2016	
【資料 A-1-6】	減災科学シンポジウム in 徳島	【資料 3-1-29】と同じ

徳島文理大学

【資料 A-1-7】	本学 Web ページ「いきいきセミナー」 [https://www.bunri-u.ac.jp/renkei/1/] [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/hokenfukushi/blog/fukushi/index.php?e=79]	
【資料 A-1-8】	徳島文理大学サッカースクール文理クラブ	
【資料 A-1-9】	出張講義プログラム 高校生向け「知の資源」の開放 2016	
【資料 A-1-10】	本学 Web ページ「イルミネーション 2016 点灯式のご案内」 [https://www.bunri-u.ac.jp/info/events/irumi2016.html]	
【資料 A-1-11】	第 2 回 LED FESTIVAL 2016	
【資料 A-1-12】	ふれあい健康館 Web ページ「ふれあい夏祭り」 [http://fureken.com/wp/wp-content/uploads/1608_ふれあい夏祭り表2-21.jpg]	
【資料 A-1-13】	附属図書館利用規程	【資料 2-9-9】と同じ
【資料 A-1-14】	四国厚生支局 Web ページ「国家試験日程表」 [http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/shikoku/gyomu/gyomu/kokkashiken/nittei.html]	
【資料 A-1-15】	大学入試センター Web ページ「平成 29 年度試験場一覧 (50 頁)」 [http://www.dnc.ac.jp/center/shiken_jouhou/h29.html]	
【資料 A-1-16】	実務技能検定協会 Web ページ「筆記試験会場一覧[秘書検定]」 [http://www.jitsumu-kentei.jp/pc/region_select.php]	
【資料 A-1-17】	平成 28 年度さぬき市職員募集要項④ (4 頁)	
【資料 A-1-18】	平成 28 年度徳島県市町村総合事務組合 職員採用試験案内 (2 頁)	
【資料 A-1-19】	教職員グループウェア「アカンサス木曜ランチコンサートのご案内」	
【資料 A-1-20】	本学 Web ページ「これまでのコンサート 2016 年度」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/ongaku/concert/con09.html]	
【資料 A-1-21】	とくしま記念オーケストラ演奏会	
【資料 A-1-22】	徳島少年少女合唱団第 53 回定期演奏会	
【資料 A-1-23】	徳島銀行 Web ページ「第 26 回リオデ徳島音楽祭の開催について」 [http://www.tokugin.co.jp/newsrelease/news2016/pdf/news_161017_2.pdf]	
【資料 A-1-24】	平成 28 年度「特色ある・教育研究」募集通知と採択結果	
【資料 A-1-25】	本学 Web ページ「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革第 5 回ニューズレター」 [http://www.bunri-u.ac.jp/shikoku-yaku/3426]	
【資料 A-1-26】	第 7 回・第 8 回 3 大学学術交流会 (公開講座)	
【資料 A-1-27】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 68」 (8 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/68.pdf]	
【資料 A-1-28】	2018 年大学案内 (27 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 A-1-29】	学術交流に関する協定書 (香川大学医学部)	
【資料 A-1-30】	NPO 法人へき地とあゆむ薬剤師と徳島文理大学香川薬学部との連携に関する協定書	
【資料 A-1-31】	さぬき市民病院と徳島文理大学香川薬学部・大学院薬学研究科との学術連携に関する協定書	
【資料 A-1-32】	(株) プラスファーマシーズと徳島文理大学香川薬学部との学術連携に関する協定書	
【資料 A-1-33】	人間生活学部教育・研究年報 平成 28 年度	【資料 2-8-5】と同じ
【資料 A-1-34】	音楽学部平成 28 年度教育・研究年報	【資料 2-8-6】と同じ
【資料 A-1-35】	薬学部教育・研究年報第 10 号 2015 年	【資料 2-8-7】と同じ
【資料 A-1-36】	総合政策学部 2016 年度教育・研究年報	【資料 2-8-8】と同じ
【資料 A-1-37】	保健福祉学部 2015 年度教育・研究年報	【資料 2-8-9】と同じ
【資料 A-1-38】	文学部 教育・研究年報 2016 年	【資料 2-8-10】と同じ
【資料 A-1-39】	2016 年理工学部年報	【資料 2-8-11】と同じ
【資料 A-1-40】	香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 11 号 2016 年	【資料 2-8-12】と同じ
【資料 A-1-41】	未来科学研究所 Annual Progress Report 2016	【資料 4-3-10】と同じ
【資料 A-1-42】	徳島文理大学教員の平成 28 年度の活動報告(アニュアルレポート)様式	【資料 2-8-4】と同じ
【資料 A-1-43】	本学 Web ページ「デジタルコンテンツビジネス入門セミナー」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?c=2-51]	
【資料 A-1-44】	徳島県と徳島文理大学との地域貢献に関する包括連携協定書	

徳島文理大学

【資料 A-1-45】	徳島市と徳島文理大学との地域貢献に関する包括連携協定書	
【資料 A-1-46】	包括連携・協力に関する協定書（香川県）	
【資料 A-1-47】	さぬき市と徳島文理大学との連携に関する協定書	
【資料 A-1-48】	徳島文理大学と高松市との連携協力に関する協定書	
【資料 A-1-49】	美波町と徳島文理大学との包括的連携に関する協定書	
【資料 A-1-50】	一般社団法人徳島新聞社と徳島文理大学との連携協力に関する協定書	
【資料 A-1-51】	徳島新聞 Web ページ「人形浄瑠璃座復活へ 美波・赤松神社 2016/10/11」 [http://www.topics.or.jp/localNews/news/2016/10/2016_14761473183557.html]	
【資料 A-1-52】	本学 Web ページ「赤松神社(徳島県海部郡美波町)のイベントに参加」 [https://www.bunri-u.ac.jp/info/events-r/20161010.html]	
【資料 A-1-53】	徳島新聞 Web ページ「徳島文理大、S0 設置へ 薬王寺門前町活性化など後押し」 [http://www.topics.or.jp/localNews/news/2016/07/2016_1468560995873.html]	
【資料 A-1-54】	徳島文理大学と徳島県看護協会との連携に関する協定書	
【資料 A-1-55】	徳島文理大学認定看護師教育機関に関する規程	
【資料 A-1-56】	とくしま「健幸」イノベーション構想推進地域 Web サイト [http://tokushima-kenkou.jp/outline.html]	
【資料 A-1-57】	第 60 回日本糖尿病学会演題採否のお知らせ	
【資料 A-1-58】	学生ポータルサイト「ボランティア募集」	
【資料 A-1-59】	本学 Web ページ「メディアデザイン学科 プロジェクト」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?c=7-54]	
【資料 A-1-60】	本学 Web ページ「徳島県警察「情報発信ウォッチャー」2016/11/14」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=426]	
【資料 A-1-61】	本学 Web ページ「県南地域づくりキャンパス事業 2016/07/25」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=429]	
【資料 A-1-62】	本学 Web ページ「18 歳選挙権徳島青年会議所とコラボ 2016/06/22」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=408]	
【資料 A-1-63】	本学 Web ページ「第 39 回阿波の狸まつり 2016/11/17」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=427]	
【資料 A-1-64】	徳島市電子図書館 Web ページ「追憶の昭和徳島」 [https://www.d-library.jp/tokushima/g0102/libcontentsinfo/?conid=177284]	
【資料 A-1-65】	本学 Web ページ「ヴォルティスタジアム学園祭 2016/11/08」 [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=425]	
【資料 A-1-66】	徳島県生涯学習情報システムまなびひろば Web ページ「徳島文理大学連 携講座」[http://syougai.tokushima-ec.ed.jp/srch_event.php]・ 生涯学習講座受講者数	
【資料 A-1-67】	第 35・36 回徳島文理大学薬学部卒業後教育講座	
【資料 A-1-68】	いきいき健康セミナー	
【資料 A-1-69】	2015 年徳島文理大学 眉山の遍路道クリーンウォーク	
【資料 A-1-70】	徳島県議会と徳島文理大学との連携に関する協定書	
【資料 A-1-71】	徳島県議会 Web ページ「徳島文理大学との包括連携協定」 [http://www.pref.tokushima.jp/gikai/gikaigaiyou/bunri/]	
【資料 A-1-72】	徳島市民病院看護部 研修風景「平成 28 年度新人職員研修(4)」 [https://www.city.tokushima.tokushima.jp/siminbyoin/profile/ innai_shisetsu/bumon/kangobu/index.html]	
【資料 A-1-73】	平成 27 年度地域医療介護総合確保基金事業実施報告書	
【資料 A-1-74】	高齢ドライバー安全運転支援ネットワーク運用に関する協定	
【資料 A-1-75】	徳島文理大学臨床心理相談室規則	
【資料 A-1-76】	徳島文理大学文学部学生による展覧会「残された石の声」高松	
【資料 A-1-77】	徳島文理大学文学部学生による展覧会「残された石の声」小豆島	
【資料 A-1-78】	本学 Web ページ「語学センターフェスティバル英語暗誦コンテスト結果」 [https://www.bunri-u.ac.jp/info/events/20161105.html]	
【資料 A-1-79】	徳島文理大学 第 7 回朗読コンテスト審査結果	

徳島文理大学

【資料 A-1-80】	2015 年公開講演会 「江戸時代小説と近代小説から見た社会風俗と経済」	
【資料 A-1-81】	第 9 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集 (33-34 頁)	【資料 2-8-15】と同じ
【資料 A-1-82】	FM 香川さぬき市再発見ラジオ Web サイト「さぬき RED ノンアルコールワイン」 [http://sanuki-asobinin.seesaa.net/article/416352575.html]	
【資料 A-1-83】	2016 かがわ子ども大学	
【資料 A-1-84】	本学 Web ページ「サイエンスキャンプを開催しました」 [http://se.bunri-u.ac.jp/blog/2017/01/11/サイエンスキャンプを開催しました/]	
【資料 A-1-85】	おくすり・アルコール体質セミナー	
【資料 A-1-86】	アルコール体質測定セミナー	
【資料 A-1-87】	個別化医療セミナー	
【資料 A-1-88】	文献検索：PubMed 実践セミナー	
【資料 A-1-89】	エビデンス創出スキルアップセミナー	
【資料 A-1-90】	本学 Web ページ「アルコール体質チェックと飲酒の功罪セミナー」 [http://kp.bunri-u.ac.jp/topics/2855.html]	
【資料 A-1-91】	個別化医療セミナー	
【資料 A-1-92】	夢化学 21 in Kagawa～おもしろワクワクサイエンス展’ 15 及び 16	
【資料 A-1-93】	第 2・3 回・さぬきっ子ふえすていばる	
【資料 A-1-94】	薬剤師によるお薬相談会&健康チェック	
【資料 A-1-95】	薬剤師によるお薬の無料相談会	
【資料 A-1-96】	王越・健康のつどい	
【資料 A-1-97】	21 世紀源内ものづくり塾	
【資料 A-1-98】	会営薬局無菌調剤室利用の為の研修会の開催について	

基準 B. 国際交流

基準項目		
コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
B-1. 徳島文理大学における国際交流		
【資料 B-1-1】	徳島文理大学 学術交流協定校一覧表	
【資料 B-1-2】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 71」 (3 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/71.pdf]	
【資料 B-1-3】	2018 年大学案内 (16-17 頁)	【資料 F-2】と同じ
【資料 B-1-4】	徳島文理大学高大連携協定校一覧	
【資料 B-1-5】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 73」 (9 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/73.pdf]	
【資料 B-1-6】	平成 28 年度提携校等受入一覧	
【資料 B-1-7】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 80」 (3 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/80.pdf]	
【資料 B-1-8】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 68」 (5 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/68.pdf]	【資料 A-1-27】と同じ
【資料 B-1-9】	交換留学生 (受入) ・協定校から短期研修等の受入	
【資料 B-1-10】	平成 27 (2015) 年度 留学等の実績	
【資料 B-1-11】	平成 28 (2016) 年度 留学等の実績	
【資料 B-1-12】	平成 29 年度キャンパスガイド (97-98 頁)	【資料 F-5】と同じ
【資料 B-1-13】	新入学生オリエンテーション (41-42 頁)	【資料 1-3-8】と同じ
【資料 B-1-14】	本学 Web ページ「徳島文理大学通信アカンサス Vol. 80」 (9 頁) [https://www.bunri-u.ac.jp/about/communications/pdf/80.pdf]	【資料 B-1-7】と同じ
【資料 B-1-15】	短期留学支援奨学金取扱要項	